熊本県文化財調査報告書162書

打　砕　遺　跡
古池さん遺跡
古池さん北遺跡

主要地方道路熊本高森線改良工事に伴う埋蔵文化財調査

1997

熊本県教育委員会編

打砕遺跡
古池さん遺跡
古池さん北遺跡

主要地方道路熊本高森線改良工事に伴う埋蔵文化財調査

1997

熊本県教育委員会

序　　文

熊本県教育委員会では、主要地方道路熊本高森線改良工事に伴い、平成５年から路線予定地内の埋蔵文化財の発掘調査を進めてまいりました。

ここに報告する阿蘇郡西原村大字小森字桑鶴所在の打砕遺跡、古池さん遺跡、古池さん北遺跡は、平成５～６年度に発掘調査を実施し、平成８年度に報告書作成を行なったものであります。

調査の結果、熊本県内で２例目となる縄文時代早期の押型文施文の注口土器の破片が検出されたほか、同時期の土器,
きました。

この報告書が、埋蔵文化財の保護に対する認識を深め、学術・研究上の一助になれば幸いです。

発掘調査に際しましては、多方面で熊本県土木部道路建設課、県熊本土木事務所から御配慮を賜り、感謝致しております。

平成９年３月３１日

熊本県教育長　松　尾　隆　樹

例　　言

1．本書は、主要地方道路熊本高森線改良工事に伴い、事前に実施した埋蔵文化財調査の調査報告書である。

2．発掘調査を実施した遺跡は、熊本県阿蘇郡西原村大字小森字桑鶴に所在する打砕遺跡、古池さん遺跡、古池さん北遺跡で熊本県土木部道路建設課の依頼を受けて、熊本県教育委員会が実施した。

3．当該遺跡の発掘調査は平成５～６年度に実施し、その整理・報告は平成８年度に行なった。

4．本書は、遺跡ごとに層序に従って、古い時代から順に報告している。

5．本書に使用した地形図は、熊本県土木部道路建設課から提供を受けたものを基礎にしている。

6．現地調査に関する実測及び写真撮影は調査員で行なった。また、遺構の製図は村崎孝宏、日置正香が行なった。遺物の実測は、主として村崎、村田百合子がこれにあたり、一部、濱田彰久
撮影は今村龍太郎が行なった。

7．本書の執筆は、村崎が担当した。

8．本書の編集は、熊本県教育庁文化課で行ない、村崎が担当した。

本 文 目 次

序文
例言
第Ⅰ章　調査の概要
第１節　調査に至る経緯……1
第２節　地理的環境……3
第３節　歴史的環境……3
第Ⅱ章　打砕遺跡
第１節　調査の方法と経過……7
第２節　層位と包含層……9
第３節　調査の成果……10
1　遺構について……10
2　遺物について……10
第４節　まとめ……14
第Ⅲ章　古池さん遺跡
第１節　調査の方法と経過……15
第２節　層位と包含層……17
第３節　調査の成果……19
1　遺構について……19
2　遺物について……19
(1) 土器……24
(2) 石器……40
第４節　まとめ……41
第Ⅳ章　古池さん北遺跡
第１節　調査の方法と経過……43
第２節　層位と包含層……45
第３節　調査の成果……46
1　遺構について……46
2　遺物について……49
(1) 土器……49
(2) 石器……56
第４節　まとめ……60
報告書抄録……6
図版

挿 図 目 次

第１図　工事予定区間内試掘･確認調査地点…… 1
第２図　遺跡分布図…… 5
第３図　グリッド配置図…… 8
第４図　基本土層図…… 9
第５図　溝遺構実測図……10
第６図　遺構配置図及び遺物分布図……11
第７図　遺物実測図……12
第８図　グリッド配置図……16
第９図　基本土層図……17
第10図　調査区域図……18
第11図　集石遺構実測図……19
第12図　遺物実測図……20
第13図　遺物実測図……21
第14図　遺物実測図……22
第15図　遺物実測図……23
第16図　遺物実測図……24
第17図　遺物分布図（Ⅱ層土器）……29
第18図　遺物分布図（Ⅲ層土器）……30
第19図　遺物分布図（Ⅱ層石器）……31
第20図　遺物分布図（Ⅲ層石器）……32
第21図　遺物実測図……33
第22図　遺物実測図……34
第23図　遺物実測図……35
第24図　遺物実測図……36
第25図　遺物実測図……37
第26図　遺物実測図……38
第27図　グリッド配置図……44
第28図　基本土層図……45
第29図　遺構分布図……46
第30図　遺構実測図……47
第31図　遺構実測図……48
第32図　遺物分布図……49
第33図　遺物実測図……50
第34図　遺物実測図……51
第35図　遺物実測図……52
第36図　遺物分布図……56
第37図　遺物実測図……57
第38図　遺物実測図……58
第39図　遺物実測図……59

表　目　次

第１表　遺跡地名表…… 6
第２表　調査工程表…… 7
第３表　遺物観察表……13
第４表　調査工程表……15
第５表　遺物観察表……25
第６表　遺物観察表……26
第７表　遺物観察表……27
第８表　遺物観察表……28
第９表　石器計測表……39
第10表　石器計測表……40
第11表　調査工程表……43
第12表　遺物観察表……53
第13表　遺物観察表……54
第14表　遺物観察表……55
第15表　石器計測表……59

図 版 目 次

図版１　打砕遺跡
　①　遠景
　②　近景
　③　溝遺構
図版２　打砕遺跡出土遺物
図版３　古池さん遺跡
　①　遠景
　②　全景
　③　集石遺構検出状況
図版４　古池さん遺跡出土遺物①
図版５　古池さん遺跡出土遺物②
図版６　古池さん遺跡出土遺物③
図版７　古池さん遺跡出土遺物④
図版８　古池さん遺跡出土遺物⑤
図版９　古池さん遺跡出土遺物⑥
図版10　古池さん遺跡出土遺物⑦
図版11　古池さん北遺跡
　①　遠景
　②　全景
　③　作業風景
図版12　①　１号集石遺構検出状況
　②　１号集石遺構（下部）
　③　１号集石遺構（完掘）
図版13　①　２号集石遺構
　②　１号住居址遺構
　③　遺物出土状況
図版14　古池さん北遺跡出土遺物①
図版15　古池さん北遺跡出土遺物②
図版16
図版17　古池さん北遺跡出土遺物④
図版18　①打砕遺跡の発掘調査に
　参加された方々
　②古池さん遺跡の発掘調査に
　参加された方々

第Ⅰ章　調査の概要

第１節　調査に至る経緯

平成４年６月22日付けで熊本土木事務所から熊本県教育庁文化課に対し、主要地方道路熊本高森線改良工事予定区間における埋蔵文化財の調査依頼がなされた。これを受けて、同年７月遺跡台帳との照合及び現地踏査を実施した。その結果、第１～11地点の11ケ所について試掘・確認調査が必要であるとの回答を行なった。

この分布調査の結果をもとに、熊本土木事務所と協議を行い、用地交渉が終了した地点から順に試掘・確認調査を実施することとし、平成５年２月26日、３月１、２日に第１、２地点及び第８～11地点について実施した。この試掘・確認調査の結果から、第１地点については、遺物の包含層が確認され 315㎡の発掘調査が必要であり、第２、８～11地点についてはその必要性はない旨通知した。

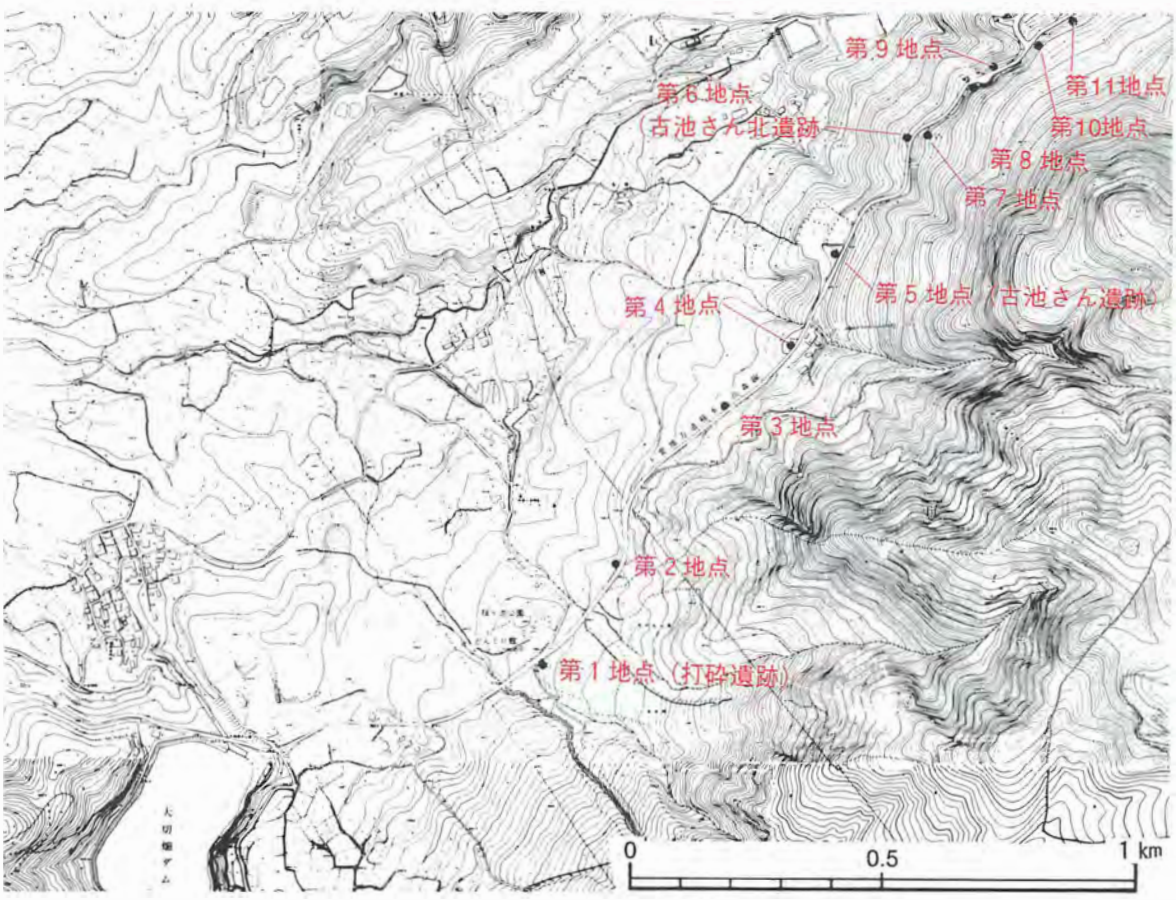
また、第３、５～７地点について、平成５年６月16日～22日に試掘・確認調査を実施し、第５、６地点において遺物の包含層が確認され発掘調査が必要であり、第３、７地点についてはその必要性はない旨通知した。

これらの結果から平成５年７月27日より第１地点(打砕遺跡)の発掘調査を実施し、９月24日終了した。

さらに、用地交渉が遅れていた第４地点について、平成５年11月17日試掘調査を実施し埋蔵文化財は確認されず、発掘調査の必要性はないものと判断された。

その後、平成６年２月18日より第６地点（古池さん北遺跡）の発掘調査を実施し、３月25日に終了した。

第５地点(古池さん遺跡)については、平成６年７月18日より発掘調査を実施し、９月16日に終了した。



第１図　工事予定区間内試掘･確認調査地点

調査の組織

調査主体　熊本県教育委員会

■発掘調査（平成５年度）

調査総括　大塚正信（首席教育審議員兼文化課長）
平野芳久（教育審議員兼課長補佐）
松本健郎（主幹兼文化財調査第二係長）

調査担当　西住欣一郎（文化財保護主事）
村崎孝宏（文化財保護主事）
植野治代（嘱託）
緒方　徹（嘱託）

調査事務　松崎厚生（課長補佐）
木下英治（主幹兼経理係長）
高濱保子（参事）

調査作業員　西坂　豊　堀部チカ子　西村英美
村田セツ子　黒田珠躬子（打砕遺跡）
山田友子　平井和子　笠　春美
松本直枝　吉田静枝　勝本和枝
成松洋子　片山孝子　三浦佐代子
服部美紀子　青山玲子　森田ミドリ
曽我敬子　緒方　寛（古池さん北遺跡）

■発掘調査（平成６年度）

調査総括　桑山裕好（文化課長）
丸山秀人（課長補佐）
松本健郎（主幹兼文化財調査第二係長）

調査担当　村崎孝宏（文化財保護主事）
河原京子（嘱託）

調査事務　白井哲哉（課長補佐）
木下英治（主幹兼経理係長）
高濱保子（参事）

調査作業員　土田俊雄　木下政広　西坂　豊
石田ミネ子　西坂スマ子　三浦キエ子
山本悦子　堀野重子　黒田珠躬子
石田和江　森永タエ子
村崎美穂子（古池さん遺跡）

■報告書作成（平成８年度）

調査総括　桑山裕好（文化課長）
丸山秀人（教育審議員兼課長補佐）
松本健郎（主幹兼文化財調査第二係長）

調査担当　村崎孝宏（文化財保護主事）
村田百合子（整理臨時職員）

調査事務　渕上重喜（教育審議員兼課長補佐）
江尻靖子（総務係長）
高宮優美（参事）
岸本誠司（主事）

整理作業員　江島園子　重永照代　徳永みどり
吉本清子　宮本幸子　興梠富貴子
橋本由美子　永友和子

第２節　地理的環境

打砕遺跡、古池さん遺跡、古池さん北遺跡の所在する西原村は、俵山（109
などの阿蘇外輪山西麓に位置し、これらの山塊から流れでた鳥子川と木山川、布田川によって開析された、標高200 ～ 400mの台地が広がる。

このように東は、俵山、冠ケ岳などの外輪山を境に阿蘇南郷谷と接し、南は高畑山（ 79
（ 658m）を境にして大矢野原と接する。西は、高遊原台地となり、平坦な原野が続いている。

また、大峯（ 409m）を境に地理的に木山川流域と鳥子川流域との、二つの地域に分けられる。

木山川流域には、冠ケ岳、高畑山から連なるなだらかな原野が広がり、木山川の支流等の開析によって、多くの小平坦地が形成されている。

一方、鳥子川流域では、俵山西麓の急斜面が西行するに従って緩やかとなるが、この傾斜地に沿って、小谷と小平坦地を形成しながら葛目川と袴野川の２支流が合して鳥子川となり、さらに北西方向に流れ大津町で白川と合流している。

この地域には、阿蘇外輪山の急峻な山塊から北西に丘陵地が連なり、山地から丘陵への変化点近くに多くの湧水点が存在する。

第３節　歴史的環境

先土器時代

西原村の先土器時代の遺跡は、今日までに13ヶ所が確認されている。その所属時期は、ナイフ形石器文化７遺跡、細石器文化12遺跡である。しかし、多くの遺跡が表面採集によって確認されたものであり、具体的な内容については、不明な点が多い。

遺跡の分布は、鳥子川上流域の桑鶴・小森遺跡群と高畑山(79
牧場周辺遺跡群の二群に大きく分けられる（江本198

桑鶴・小森遺跡群は、俵山(109
m)から連なる緩斜面を過ぎ広大な山裾部に分布し、標高は約 300～ 400mである。遺跡群には、1961年乙益重隆氏、吉崎昌一氏等により調査が行なわれ、その後熊本大学考古学研究室による二度の調査が実施され、細刃器が出土した桑鶴土橋遺跡がある。

このほか、本屋敷遺跡、古屋敷遺跡、千人塚、別辻遺跡、桃ノ木原遺跡では、地元の故高橋弘氏や故坂田義廣氏により細石刃核・細刃器等が採集されている。

また、今回の調査によって、古池さん遺跡からナイフ形石器、台形様石器、三稜尖頭器、細刃器が検出され、古池さん北遺跡からは台形様石器、三稜尖頭器が検出されている。

西原公共育成牧場周辺遺跡群は、標高約500 ～700mの丘陵上に立地している。遺跡群には、1976
掘調査が実施され、良好な状態ではないが細石刃核１点が出土した谷頭遺跡や西原Ａ、Ｂ、Ｆ遺跡がある。

西原Ａ遺跡ではナイフ形石器、三稜尖頭器、細石刃核が、また西原Ｂ遺跡ではナイフ形石器、剝片尖頭器、三稜尖頭器、細石刃核、細刃器が採集されている。199
Ｆ遺跡では、ナイフ形石器、台形石器、台形様石器、細石刃核、細刃器等が検出されている。このうちナイフ形石器文化資料は、ソフトローム層の上中下位から検出されている。このほか、西原種牛センターＣ、Ｄ遺跡等でナイフ形石器文化の資料や細石器文化の資料が数多く採集されている。

これら二群の石器文化は、姶良Ｔｎ火山灰（ＡＴ）降灰以前のものは認められず、すべてＡＴ降灰以後の所産であり、ナイフ形石器文化第Ⅲ期（木崎199
と細石器文化の大きく二時期に属するものである。

縄文時代

西原村の縄文時代の遺跡は数多く存在し、先土器時代の遺跡数から急激に増加する。これらの遺跡の分布は、葛目川流域、袴野川流域、布田川流域、桶井川流域に集中して存在することが知られている。

しかし、多くの遺跡が表面採集によって確認されたものであり、その具体的な内容については、不明な点が多い。ここでは、今回発掘調査を実施した打

砕遺跡、古池さん遺跡、古池さん北遺跡の所在する葛目川流域（鳥子川上流域）の遺跡を中心に概観する。

早期の遺跡は、桑鶴土橋遺跡、本屋敷遺跡、丸林遺跡、葛目遺跡、古池さん遺跡、古池さん北遺跡、塩井社遺跡等がある。このなかで、古池さん遺跡からは良好な状態ではないが、大津町瀬田裏遺跡（緒方199
資料が、胴部屈曲部のみの破片であるが検出されている。これらの遺跡からは、押型文土器を中心に撚糸文、縄文施文の土器や中原西原式（円筒形条痕文）土器が出土している。このほか、袴野遺跡、妙見遺跡、出ノ口遺跡では、塞ノ神式系土器が採集されている。

前期の遺跡は、轟式土器、曽畑式土器を多量に出土した桑鶴土橋遺跡やお池さん遺跡、本屋敷遺跡、古池さん遺跡、塩井社遺跡等がある。お池さん遺跡では、1967
を発見している。この大珠は、1985年
析により、新潟県糸魚川産翡翠であることが判明している（坂田199
面採集資料のみであり不明である。そのため、大珠の所属時期については、不明である。

中期の遺跡は、本屋敷遺跡で竹崎式土器が採集されている。今回発掘調査を実施した古池さん遺跡でも同様に竹崎式土器が検出されている。また中桑鶴遺跡からは、瀬戸内系の船元式土器が採集されている。

後期の遺跡は、西平式土器が採集されている本屋敷遺跡や南福寺式土器、三万田式土器が採集されている丸林遺跡、古池さん北遺跡がある。桑鶴土橋遺跡では、西平式土器、天城式土器が検出されている。

晩期の遺跡は、桑鶴土橋遺跡で山ノ寺式系土器が検出されている。そのほか、打砕遺跡で晩期の土器が採集されているが、その土器型式については不明である。

弥生時代

西原村の弥生時代の遺跡は、縄文時代晩期末から弥生時代前・中期の遺跡が少ないことが特徴としてあげられ、その所属時期については弥生時代中～後期の黒髪式土器の段階が中心となる。

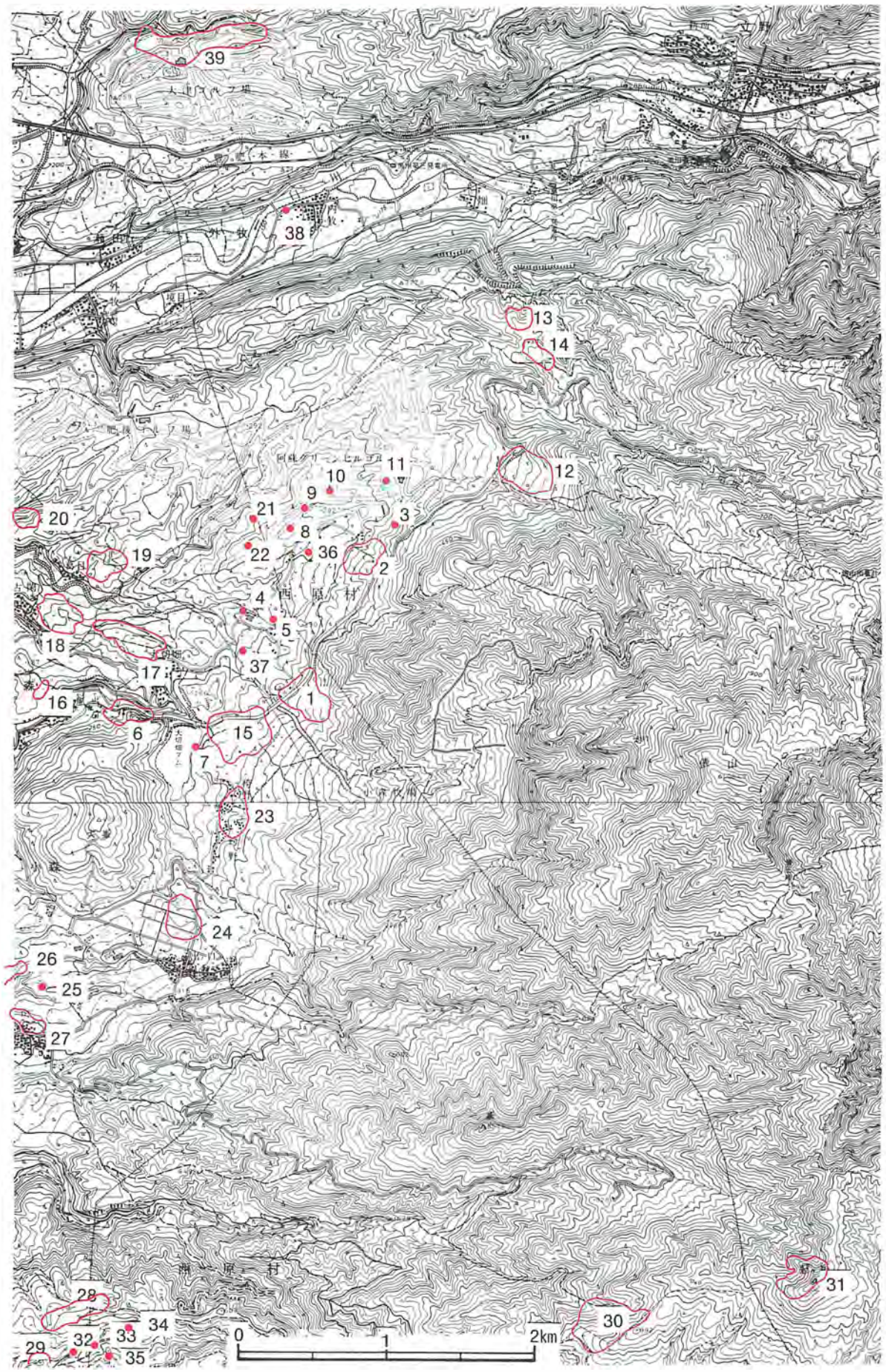
しかし、多くの遺跡が表面採集によって確認されたものであり、その具体的な内容については不明な点が多い。

当該期の遺跡としては、黒髪式土器、野部田式土器を出土した塩井社遺跡や免田式土器が採集された大切畑遺、黒髪式土器の壺棺が発見された秋田原遺跡、採集された土器型式の詳細は不明であるが本屋敷遺跡、桃ノ木原遺跡、秋田上ノ原遺跡、田迎遺跡、打砕遺跡等がある。このほか、谷頭遺跡では、黒髪式土器を主体とする時期の集落の調査が行なわれ、竪穴式住居址が13軒検出されている。

（註1）　熊本大学小畑弘巳･藤木聡両氏のご教示による。

※参考文献

松村道博編　1978
熊本大学考古学研究室　197
研究室活動報告５
熊本大学考古学研究室　198
研究室活動報告８
肥後考古学会　198
木﨑康弘　199
現状と課題』
『交流の考古学』肥後考古第８号所収
緒方　勉　199
大津町教育委員会瀬田裏遺跡調査団
坂田義廣　199


39
38
13
14
12
11
10
9
21
3
20
8
22
36
19
2
4
5
18
37
17
1
16
6
15
7
23
24
26
25
27
28
34
29
32
33
35
30
31
0
1
2km

第２図　遺跡分布図

第１表　遺跡地名表

番号	遺　跡　名	所　在　地	時　代	備　考
1	打砕	阿蘇郡西原村大字小森字桑鶴	縄文・弥生	散布地
2	古池さん	〃　〃　〃　〃	先土器・縄文	湧水地に隣接
3	古池さん北	〃　〃　〃　〃	先土器・縄文	
4	桑鶴土橋	〃　〃　〃　土橋	先土器・縄文	1966，70，78年発掘調査
5	お池さん	〃　〃　〃　〃	縄文	1967年大珠を発見
6	どや堤の上	〃　〃　〃　風当	弥生	黒髪式土器の壷棺
7	塩井社	〃　〃　〃　塩井社	縄文・弥生	1980年熊本大学により発掘調査
8	本屋敷	〃　〃　〃　上中尾刎	先土器・縄文・弥生	細刃器，曽畑式，轟式，竹崎式，西平式
9	古屋敷	〃　〃　〃　上中尾刎	先土器・縄文	
10	上桑鶴	〃　〃　〃　桑霍	縄文	
11	桑鶴	〃　〃　〃　桑霍	縄文	
12	丸林	〃　〃　〃　丸林	縄文	押型文，南福寺式，三万田式
13	扇ノ坂西Ａ	〃　〃　〃　扇ノ坂	縄文	
14	扇ノ坂西Ｂ	〃　〃　〃　扇ノ坂	縄文	
15	袴野北	〃　〃　〃　塩井社	縄文・弥生	押型文
16	風当	〃　〃　〃　風当	弥生	
17	大切畑	〃　〃　〃　大切畑	縄文・弥生・古墳	押型文，免田式，土師器，須恵器
18	古閑	〃　〃　〃　古閑	縄文・古墳	
19	葛目	〃　〃　〃　葛目	縄文・弥生・古墳	
20	葛目横穴	〃　〃　〃　〃	古墳	
21	日南為	〃　〃　〃　日南為	縄文	
22	下桑鶴	〃　〃　〃　上中尾刎	縄文	
23	袴野	〃　〃　〃　袴ノ霍	縄文・弥生	
24	出ノ口	阿蘇郡西原村大字宮山字出ノ口霍	縄文	
25	奈良山	〃　〃　〃　奈良山	縄文	
26	千人塚	〃　〃　〃　馬場頭	縄文	石匙，石槍
27	宮山本村	〃　〃　大字宮山字宮山	縄文・弥生	
28	河原大野Ａ	〃　〃　大字河原字大野	先土器・縄文	
29	河原大野Ｂ	〃　〃　〃　〃	先土器・縄文	
30	冠ケ岳・一ノ峯南方の谷	〃　〃　〃　〃	弥生	
31	冠ケ岳頂上	〃　〃　〃　〃	縄文	石鏃，石匙
32	河原Ｃ	〃　〃　〃　〃	先土器・縄文	
33	河原Ｂ	〃　〃　〃　〃	先土器・縄文	
34	河原Ｄ	〃　〃　〃　〃	先土器・縄文	
35	河原Ａ	〃　〃　〃　〃	先土器・縄文	
36	中桑鶴	〃　〃　大字小森字桑霍	縄文	
37	揺ケ池西側台地	〃　〃　〃　字土橋	縄文・弥生	
38	外牧	菊池郡大津町大字外牧	縄文	
39	瀬田裏	〃　〃　大字瀬田裏字萩の平	縄文・弥生	1988，89年発掘調査

打　碎　遺　跡

第Ⅱ章　打砕遺跡

第１節　調査の方法と経過

当該地点での熊本高森線改良工事は、現道を東側に拡幅する計画である。この工事により、道路東側に広がる打砕遺跡の西端にかかる。このため、約315㎡の発掘調査を実施した。

また拡幅工事に伴う調査で、調査区が幅が狭く距離が長いため任意に５×５ｍのグリッドを設定した。

このようにして設定したグリッド軸を、調査区の長軸方向を東から西へＡ～Ｋとし、短軸方向の北から南へ１～３として調査を実施した。

調査の手順と方法は、以下のとおりである。

まず、表土の層厚が約20㎝程度であるとの確認調査結果から、人力による表土除去を行なった。

その後清掃を行なった後、トランシットを使用して５×５ｍのグリッドを設定した。

調査は、遺構と遺物の検出を中心に実施した。

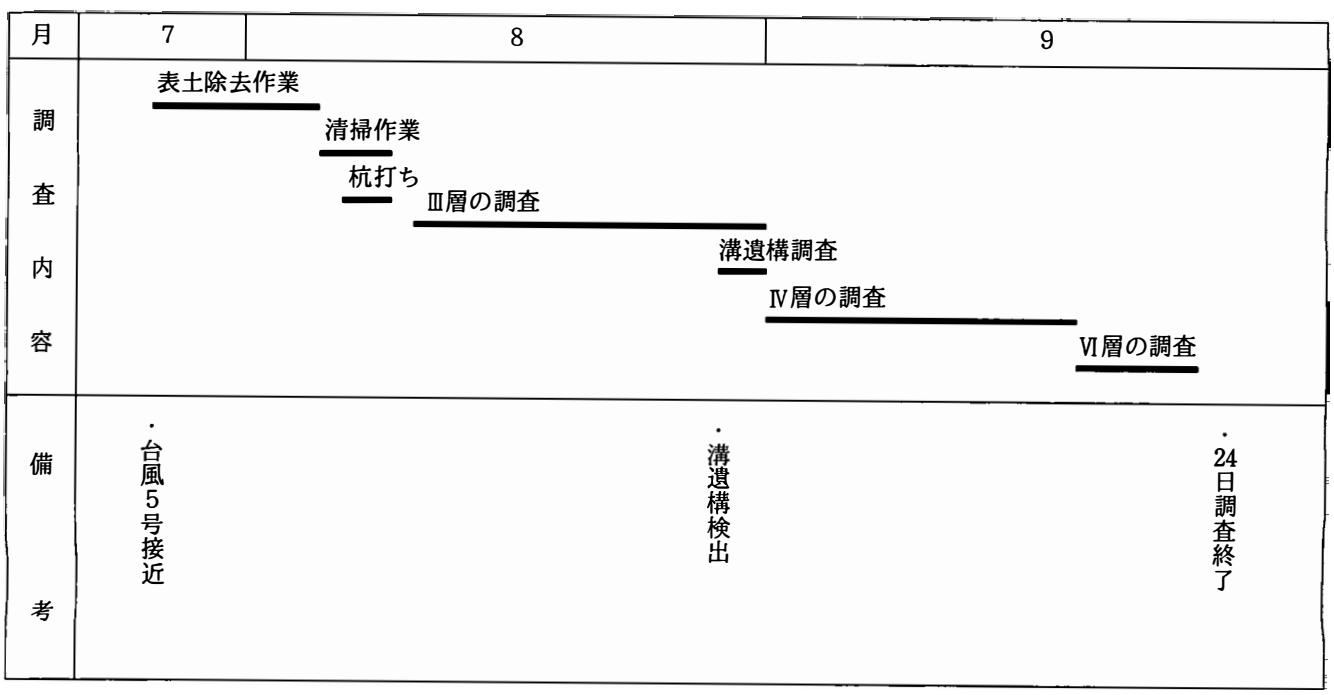
遺構は、平面形の確認を行なった後に、土層観察のため土手を残し掘り下げた。その観察後、土手を取り除いて全体像を確認する。その間に作成される資料には、1/10、1/20に縮尺して作る平面図、土層断面図、断面図などがある。

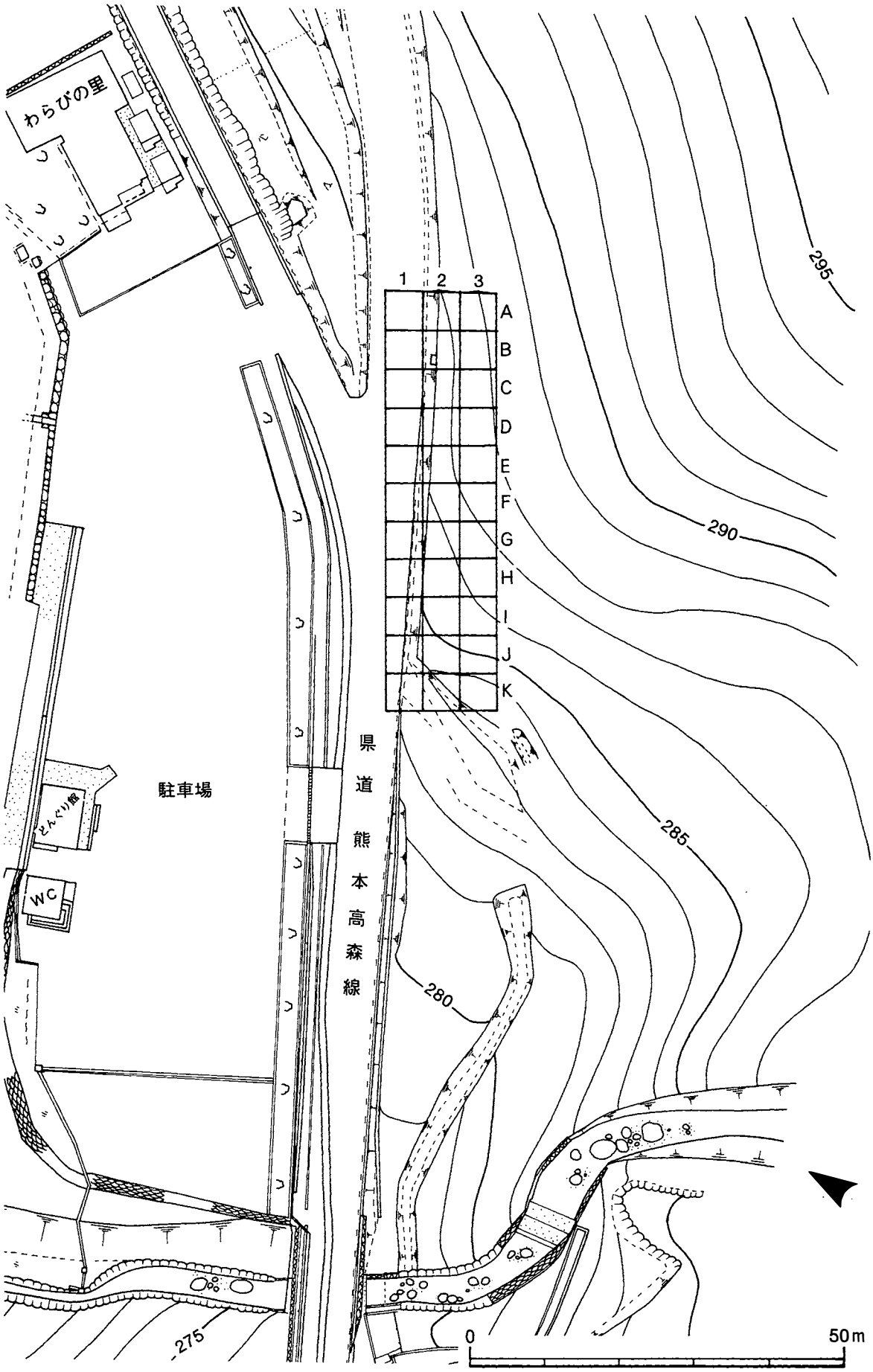
遺物の検出は、上記した遺構調査の完了後に実施した。検出遺物は、グリッド別、基本土層別、遺物の種類別に、台帳を作り遺物番号を付した。この台帳に記載する事項には、土器型式、文様、石器器種、石材などがある。

こうした発掘作業のほかに、関連調査として周辺に分布する遺跡の所在確認調査を行なった。その成果は、第Ⅰ章第３節歴史的環境の項に示している。

調査の経過については、第２表のとおりである。

第２表　調査工程表




わらびの里
1
2
3
A
B
C
D
E
F
G
H
I
J
K
295
290
285
280
275
駐車場
どんぐり館
WC
県道熊本高森線
0
50m

第3図　グリッド配置図

第２節　層位と包含層

打砕遺跡では、黄褐色粘質土を第Ⅷ層として、８枚の土層が確認された。その堆積は、俵山から連なる緩斜面に立地しているため、北に向かって緩やかに傾斜している。

以下、各層ごとに説明を行なう。

第Ⅰ層　表土層（耕作土）

第Ⅱ層　黒褐色土層

この層は、耕作などによる削平を受けているため、５～15cmと層厚は薄い。粒子は細かくフカフカとした土質である。遺物は検出されなかった。

第Ⅲ層　暗褐色土層

この層の層厚は、15～30cmで、粒子は細かく１mm大の砂粒を含みフカフカとした土質である。古墳時代の包含層で、土師器が出土した。

第Ⅳ層　暗黄褐色土層

アカホヤ火山灰を含む、土層である。この層は、第Ⅴ層と比べてややにごりがある。層厚は、25～40cmである。縄文時代晩期の包含層である。

第Ⅴ層　黄褐色土層

アカホヤ火山灰層である。土質は、粒子は細かくフカフカしている。層厚は、30～50cmである。遺物は

第Ⅵ層　黒褐色土層

この層は、粒子が細かくやや粘性をおび、しまりのある土質である。層厚は、10～30cmである。縄文時代早期の包含層である。

第Ⅶ層　黒色土層

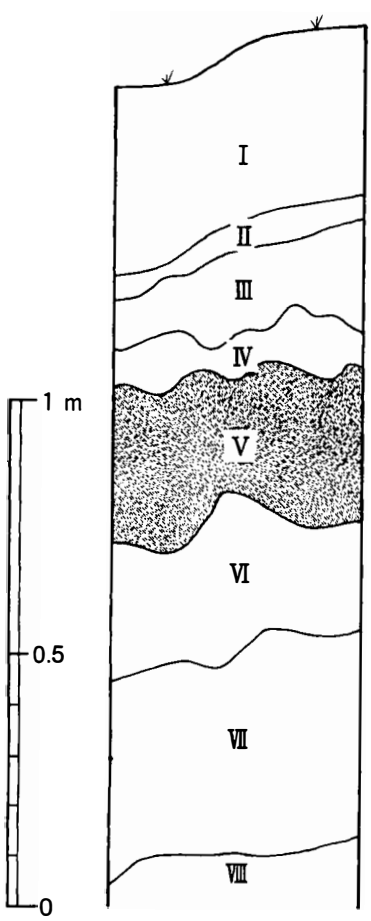
この層は、粒子は細かく粘性をおび、固くしまった土質である。遺物は、検出されなかった。

第Ⅷ層　黄褐色粘質土層

ソフトロームに相当する土層である。わずかに掘り下げを行なったが、遺物は検出されなかった。

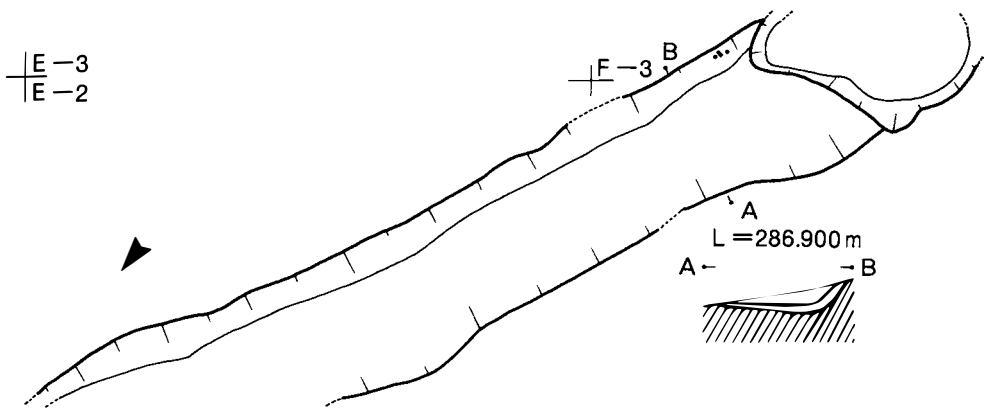
打砕遺跡の基本土層は、以上のとおりである。また、この基本土層を近接する桑鶴土橋遺跡、塩井社遺跡と対比させると、打砕遺跡で確認された第Ⅴ層（アカホヤ火山灰）が、両遺跡ではややにごりのある状態か、ブロック状に含まれている点で異なる。このように、細かな点では違いが認められるが、大まかには打砕遺跡第Ⅳ層と桑鶴土橋遺跡第Ⅱ層、塩井社遺跡第Ⅲ層が対比できる。

さらに打砕遺跡第Ⅵ層（縄文時代早期の包含層）は、桑鶴土橋遺跡第Ⅴｂ層と塩井社遺跡の第Ⅳ層に対比でき、それぞれ検出された遺物の所属時期も、同様の様相が認められる。



第４図　土層図

第３節　調査の成果



第５図　溝遺構実測図

１．遺構について

打砕遺跡では、Ｅ、Ｆ－２、３区において南北方向に溝遺構を検出した。この溝は、幅約 120cm、深さ約20cmである。

また、南側で一辺が 220cmの不整形の土坑により切られている。Ｆ－３区溝の東側法面から土師器の小破片が４点検出されたが、その外は溝及び土坑からは遺物は検出されていない。

溝遺構の埋土は、２枚に分層できた。①は、黒褐色土で粒子は細かく固くしまった感をうける。粘性はなく、色調的にややにごりがみられるが、基本土層の第Ⅱ層に類似する。②は、暗褐色土で粒子は細かい。上層よりフカフカしている。色調的にややにごりがみられるが、基本土層の第Ⅲ層に類似する。

２．遺物について

打砕遺跡では、全部で 435点の遺物が検出された。その内訳は、土器 422点、石器13点である。これらのうち土器は、すべて破片が小さく接合関係は認められなかった。また、石器についても剝片・砕片が中心で定形的な石器は認められなかった。

遺物の分布の在り方は、ほぼ調査区全域で確認されたが、標高286.50mより西側の斜面部により濃密に分布する傾向が窺える（第６図②）。このことは、調査区が当該遺跡の範囲の中で縁辺部に位置していることを示しているものと考えられる。

また、Ⅲ～Ⅳ層からは満遍無く遺物が検出された。そのため、同層から検出された遺物には、若干の混在があるものと考えられる。

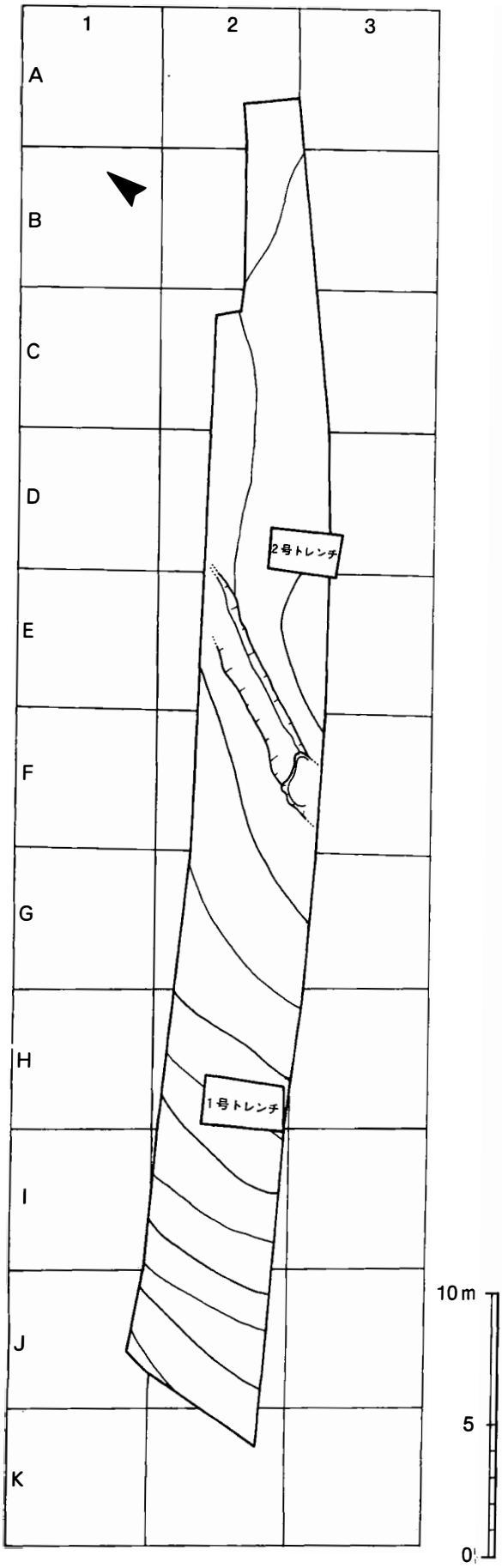
このように、小破片が多く接合関係も認められないため、全資料の中から特徴的な遺物を選びだし図示した（第７図）。

１は、小破片であるがその文様の特徴から、縄文時代早期末に属する資料である。撚糸文帯を縦位に施文し無文帯も認められることから、塞ノ神式系土器の栫ノ原式か、もしくは石坂上式に比定できる資料である。２は、凸帯文を貼りつけその上に交差する刻み目を施文する。破片が小さいため、全体の器形は不明であるが、縄文時代晩期後半～弥生時代前期に属する資料であると考えられる。

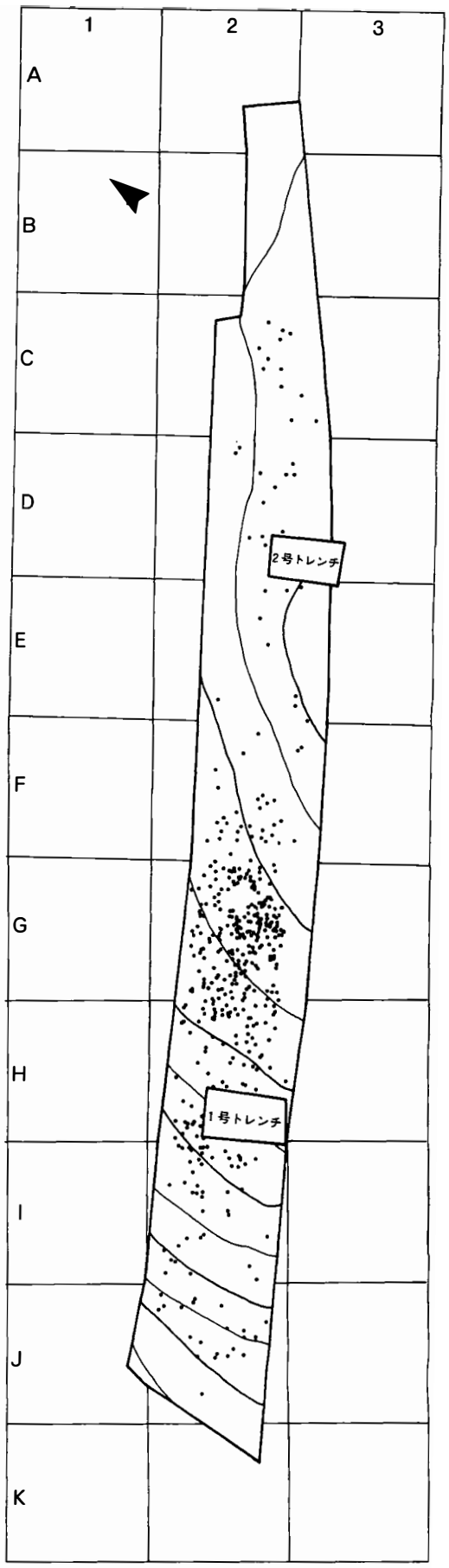
これらの外に、刷毛目のみられるもの（第７図6,10,11,13,14）や、ヘラ削りがみられるもの（第７図5,9,11,16）などの土師器も認められる。

しかし、これらの資料は破片が小さく全体の器形が想定できないため、具体的な所属時期は不明であるが、古墳時代に属する可能性が指摘できる。

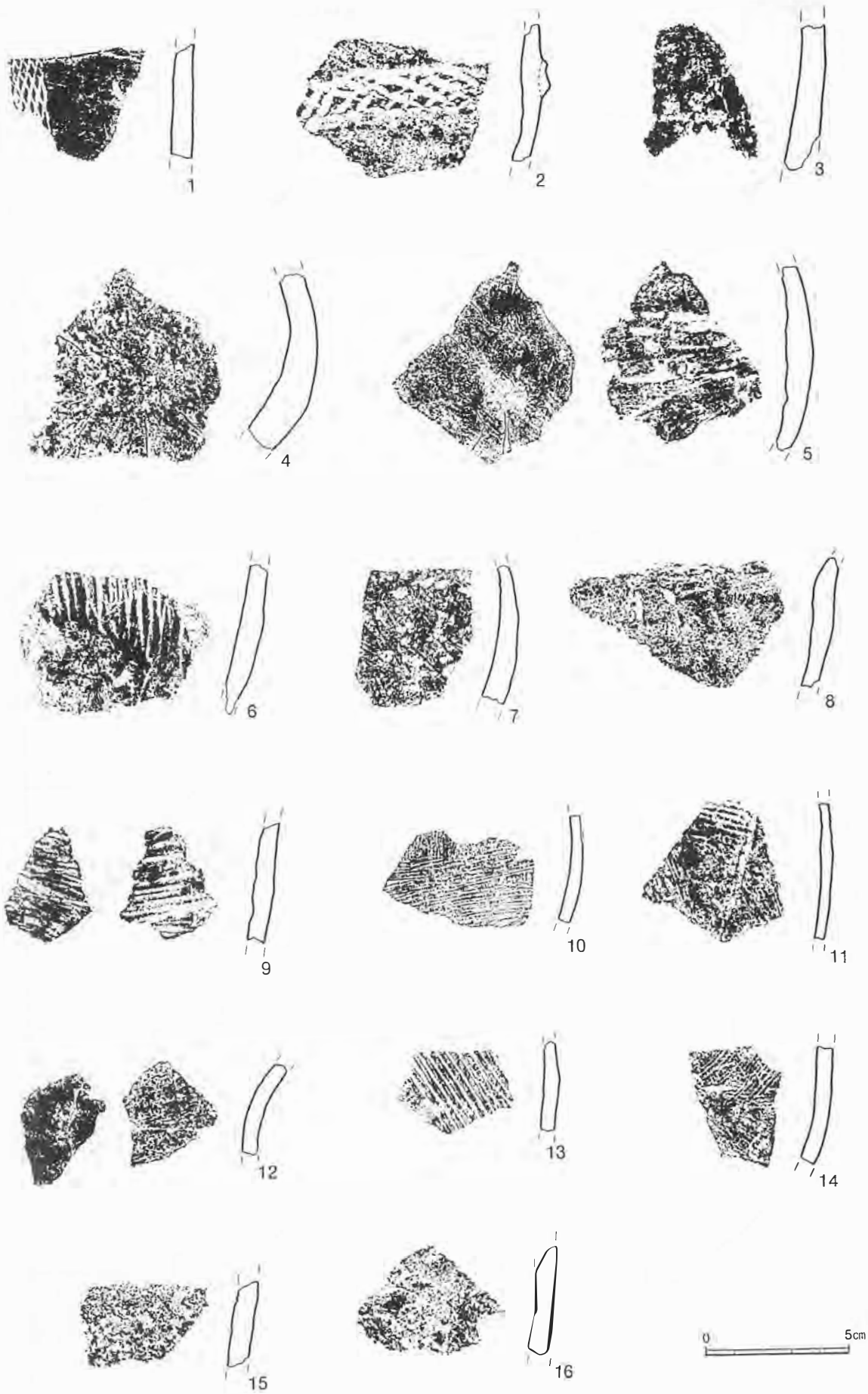
①遺構配置図



②遺物分布図



第６図　遺構配置図及び遺物分布図



第７図　遺物実測図

第3表　遺物観察表

番号	グリッド	層位	器種	部位	色調	胎土	調整・文様 外器面	調整・文様 内器面	焼成
1	H－2	Ⅳ	深鉢	胴部	(外)赤褐色4/8, 5YR (内)赤褐色4/6, 5YR	細かい砂粒，角セン石を多量に含む	撚糸文帯の縦走施文	ナデ	良好
2	H－2	Ⅲ		胴部	(外)橙色6/6, 5YR (内)暗褐色6/3, 5YR	1～3mmの砂粒，長石石英、角セン石を多量に含む	凸帯上に交差する刻み	ナデ	良好
3	H－2	Ⅲ		胴部	(外)暗橙色6/4, 7.5YR (内)灰褐色5/1, 7.5YR	2～3mmの砂粒，長石角セン石を多く含む繊維質を含む	ナデ	ナデ	良好
4	G－2	Ⅲ		胴部	(外)暗褐色5/3, 7.5YR (内)灰褐色4/1, 7.5YR	砂粒，長石，角セン石を多量に含む	ナデ	ナデ	良好
5	I－2	Ⅳ		胴部	(外)明赤褐色5/6, 5YR (内)黒褐色3/1, 5YR	細かい砂粒，石英，角セン石，雲母を含む，2～3mm大の長石を多量に含む	ナデ	ヘラ削り	良好
6	H－2	Ⅲ		胴部	(外)橙色6/4, 5YR (内)暗褐色5/3, 5YR	1～4mmの砂粒，長石，石英、角セン石を多量に含む、繊維質を含む	刷毛目	ナデ	良好
7	I－2	Ⅲ		胴部	(外)暗橙色6/4, 5YR (内)暗赤褐色5/4, 5YR	1～3mmの砂粒，長石，石英、雲母を含む	ナデ	ナデ	良好
8	I－2	Ⅳ		胴部	(外)橙色7/6, 7.5YR (内)暗褐色5/4, 7.5YR	1～3mm大の砂粒，長石，角セン石を多量に含む	指によるナデ	ナデ	良好
9	H－2	Ⅲ		胴部	(外)褐色4/3, 7.5YR (内)褐色5/4, 7.5YR	2～3mmの砂粒，角セン石，繊維質を含む	ヘラ削り	ヘラ削り	良好
10	G－2	Ⅳ		胴部	(外)灰黄褐色4/2, 10YR (内)黄橙色7/3, 10YR	長石，石英，角セン石を含む	刷毛目	ナデ	良好
11	G－2	Ⅲ		胴部	(外)橙色6/6, 7.5YR (内)黄橙色5/3, 10YR	細かい砂粒，長石，石英、角セン石を含む	ヘラ削り，刷毛目	ナデ	良好
12	G－2	Ⅲ		胴部	(外)橙色6/3, 7.5YR (内)暗橙色6/4, 7.5YR	細かい砂粒，長石，雲母を含む	ナデ	ナデ	良好
13	H－2	Ⅲ		胴部	(外)褐色5/4, 7.5YR (内)灰褐色4/2, 7.5YR	細かい砂粒，長石，角セン石を含む	刷毛目	ナデ	良好
14	G－2	Ⅳ		胴部	(外)灰黄色7/2, 2.5YR (内)淡黄色8/4, 2.5YR	1～2mmの砂粒，長石を多量に含む	刷毛目，ナデ	ナデ	良好
15	G－2	Ⅲ		胴部	(外)赤褐色4/6, 5YR (内)明赤褐色5/6, 5YR	細かい砂粒，長石，角セン石を多量に含む，繊維質を含む	ナデ	ナデ	良好
16	I－2	Ⅲ		胴部	(外)褐色5/4, 7.5YR (内)橙色7/4, 7.5YR	細かい砂粒，長石，角セン石を多量に含む，繊維質を含む	ヘラ削りの後、ナデ	ナデ	良好

第４節　まとめ

今回調査を行なった打砕遺跡の周辺では、縄文時代早期～晩期までの遺物が検出された桑鶴土橋遺跡や翡翠製の大珠が発見されたお池さん遺跡等がある。お池さん遺跡は、翡翠製の大珠が存在することから、当該地域の有力な集団であると考えられる。打砕遺跡は、これらの遺跡の南側に位置し、同一丘陵の西端には塩井社遺跡等がある。

打砕遺跡は、過去に縄文時代晩期～弥生時代の遺物が採集され、当該期に属する遺跡として認識されていた。

また、遺跡の範囲についても、県道熊本高森線の南東側に広がる原野に、広く存在することが知られていた。現在遺跡の大半は、放牧地となっているため遺物の採集等はできず、遺跡の正確な範囲を知ることはできない。

今回の調査区は、この遺跡の範囲からすると北端部に位置することになる。

出土遺物は多く、全部で 435点検出され、その内訳は土器 422点、石器13点である。その出土層位は、第Ⅲ～Ⅳ層と第Ⅵ層であり、その大半が第Ⅲ～Ⅳ層から出土している。

分布の在り方では、比較的傾斜の緩やかな調査区東側で少なく、標高 286.50mより西側の斜面部に濃密に分布する傾向が窺える。検出された遺物は、すべて小破片であり、接合関係は認められなかった。このことからも、遺跡の中心が今回の調査区より高所に存在することが明らかであり、従来認識されていたように現在放牧地となっている原野一帯に存在することが確かな確率で予想される。

そのため、詳細については不明な点が多いが、その所属時期についてはいくつかに分けることが可能である。

つまり、第Ⅵ層から検出された塞ノ神式系土器を含む縄文時代早期の段階と凸帯文土器の段階、ヘラ削りや刷毛目等の調整を施す土師器の段階に分けられる。

この遺物の様相が、調査区に隣接する打砕遺跡の一様相として捉えることができる。

また遺構としては、溝遺構が検出された。しかし、遺構埋土から検出された遺物は小破片で、具体的な所属時期については不明である。

※参考文献

松村道博編　1978『谷頭遺跡』
熊本大学考古学研究室　1979『桑鶴土橋遺跡』研究室活動報告５
熊本大学考古学研究室　1980『塩井社遺跡』研究室活動報告８
坂田義廣　1993『西原の文化財を語る』

古池さん遺跡

第Ⅲ章　古池さん遺跡

第１節　調査の方法と経過

当該地点での熊本高森線改良工事は、現道の西側に新設される計画である。この工事により、湧水地（古池さん）の南西に広がる古池さん遺跡の西側の大半がかかることになる。しかし、事前に実施した確認調査の結果、一部にすでに破壊され遺物包含層が残存していない箇所が存在したため、約1000㎡の発掘調査を実施した。調査区が狭いため任意に５×５ｍのグリッドを設定した。

このようにして設定したグリッド軸を、西から東へＡ～Ｉ、北から南へ１～12として調査を実施した。

調査の手順と方法は、以下のとおりである。

まず、重機による表土除去を行ない、その清掃の後トランシットを使用して５×５ｍのグリッドを設定した。

調査は、遺構と遺物の検出を中心に実施した。

遺構は、平面形の確認を行なった後に、土層観察のため土手を残し掘り下げた。その観察後、土手を取り除いて全体像を確認する。その間に作成される資料には、1/10、1/20に縮尺して作る平面図、土層断面図、断面図などがある。

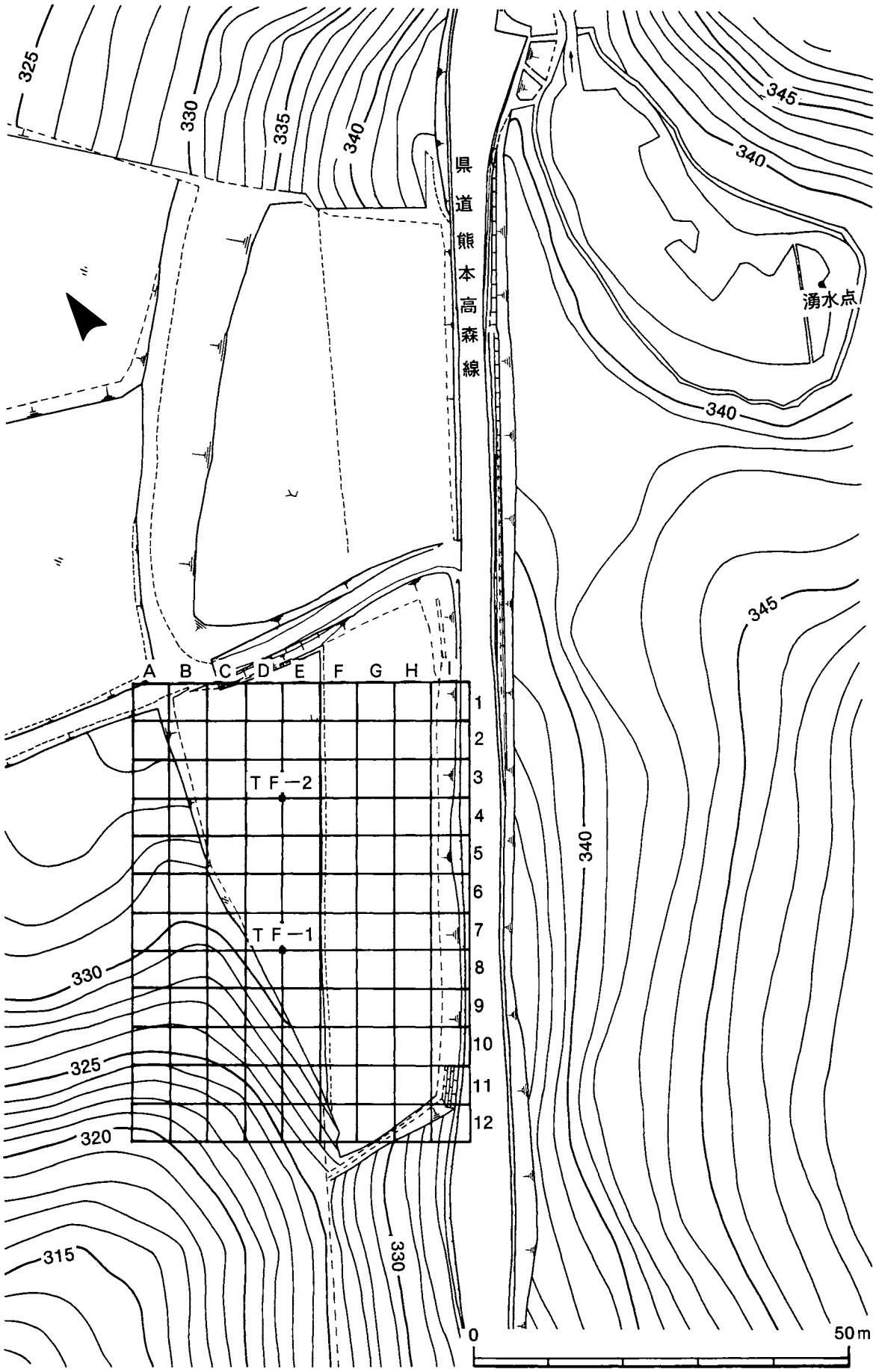
遺物の検出は、上記した遺構調査の完了後に実施した。検出遺物は、グリッド別、基本土層別、遺物の種類別に、台帳を作り遺物番号を付した。この台帳に記載する事項には、土器型式、文様、石器器種、石材などがある。

こうした発掘作業のほかに、関連調査として周辺に分布する遺跡の所在確認調査を行なった。その成果は、第Ｉ章第３節歴史的環境の項に示している。

調査の経過については、第４表のとおりである。

第４表　調査工程表

月	7	8	9
調査内容	表土除去作業 清掃作業 杭打ち 旧地形の検出 Ⅲ層の調査	集石遺構調査 Ⅳ層の調査	Ⅴ・Ⅳ層の掘り下げ
備考	・台風５号接近 ・客土中から注口土器を採取	・集石遺構検出	・16日調査終了


325
330
335
340
県道熊本高森線
345
340
湧水点
340
345
340
A B C D E F G H I
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
TF−2
TF−1
330
325
320
315
330
0
50m

第8図　グリッド配置図

第２節　層位と包含層

今回調査を実施した箇所は、現況では一筆の畑となっていた地点で、桑が栽培されていた。そのため、ほぼ傾斜のない平坦な地形であった。

しかし、確認調査及び表土除去の段階で、調査区の西側に広く客土が存在し、大規模に造成が行なわれた痕跡が認められた。

地元の聞き込み等では、調査区北側の畑地及び調査区内の北側～南東側にかけて削平し、西側の谷部を埋める作業を約30年程前に実施したと聞き取った。

このことから、旧地形は現況と大きく異なる。調査区は、湧水地の南西部に広がる遺跡の南西端に位置し、大半は谷部が占めることになる。そのため、土層の堆積は南西に向かって緩やかに傾斜し、谷部へと至る。遺物包含層は、この谷部をとりまく緩傾斜地で検出された。

古池さん遺跡では、黄褐色粘質土層を第Ⅶ層として、７枚の土層が確認された。

以下、各層ごとに説明を行なう。

第Ⅰ層　表土層（耕作土）

灰褐色を呈した土層で、第Ⅶ層の黄褐色粘質土のブロックを含む客土である。

第Ⅱ層　暗黄褐色土層

アカホヤ火山灰を、ブロック状に含む。層厚は、10～50㎝である。縄文時代前～後期の包含層である。

第Ⅲ層　褐色土層

粒子は細かく、ややしまりのある土層である。調査区全域に分布が認められた。縄文時代早期の包含層である。

第Ⅳ層　暗褐色土層

粒子は細かく、ややしまりのある土層で、第Ⅲ層に比べてやや弱い粘性を帯びる。調査区南側では、同層の堆積は薄いが、ほぼ全域に分布が認められた。縄文時代早期の包含層である。

第Ⅴ層　黒色土層

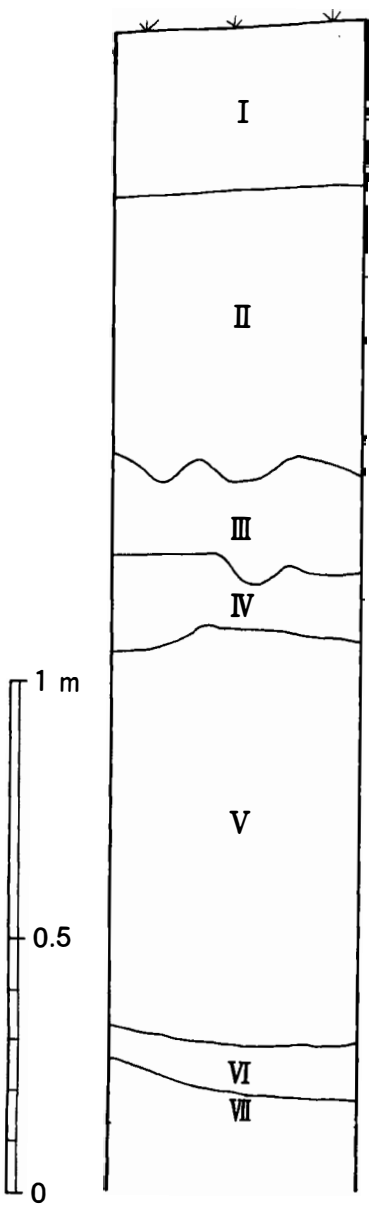
粒子は細かく、しまりがあり粘性を帯びた土層である。遺物は、検出されなかった。

第Ⅵ層　暗褐色粘質土層

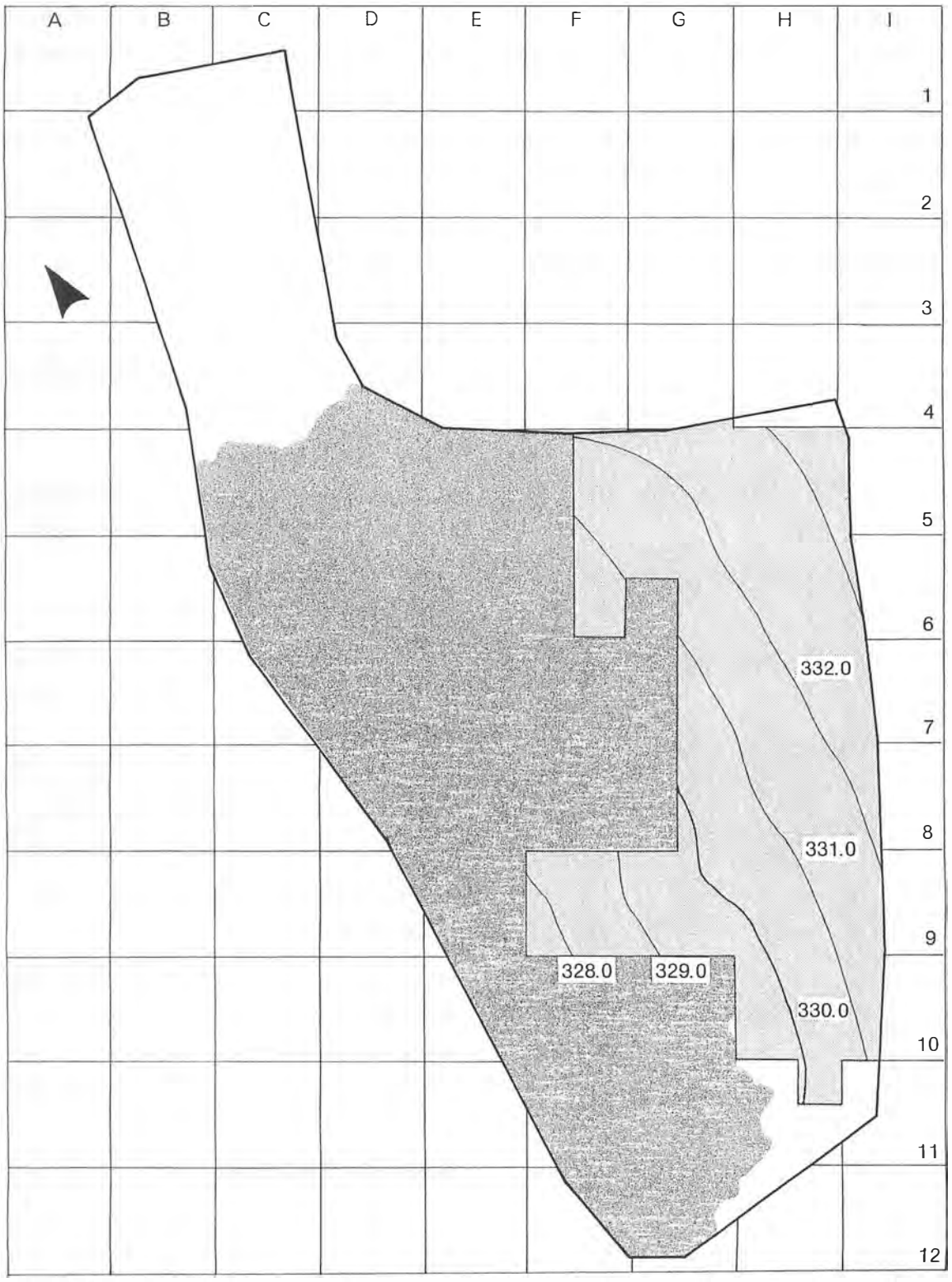
漸移層である。粒子は細かく、しまりがあり粘性を帯びた土層である。無遺物層である。

第Ⅶ層　黄褐色粘質土層

ソフトロームに相当する土層である。客土中から採集されたナイフ形石器等が、本来包含されている層であると考えられる。わ
たが、遺物は検出されなかった。



第９図　基本土層図



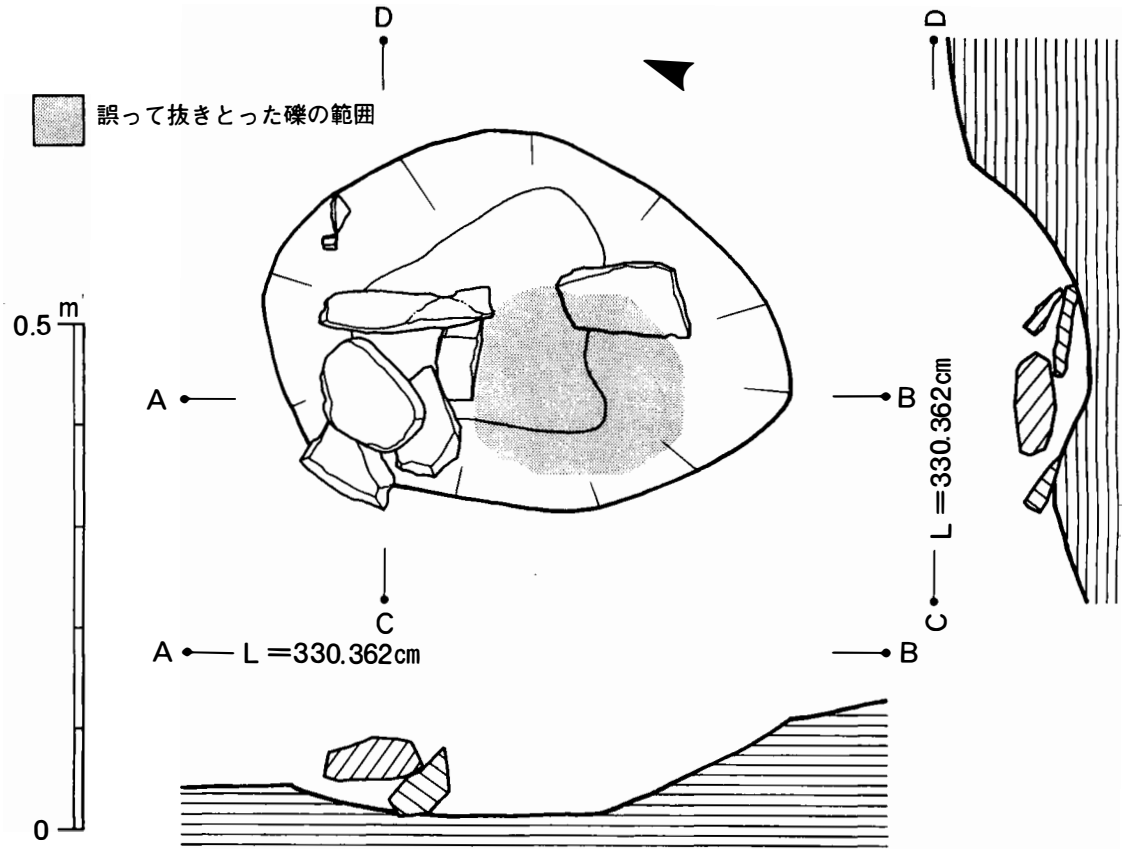
調査を実施した区域

畑地造成の盛土が確認された範囲

0　10　20m

第10図　調査区域図

第３節　調査の成果



第11図　集石遺構実測図

１．遺構について

古池さん遺跡では、Ｇ－８区で集石遺構を１基検出した。その規模は、長軸 0.6m、短軸 0.4mの楕円形の土坑で深さ 0.1mを測る。集石を構成する礫は、板状の砂岩で13個検出された。

しかし、遺構確認の段階で誤って７個の礫をはずしてしまったため、第11図には残り６個の礫の検出状態が記録されている。

この集石遺構は、第Ⅱ層を掘り下げていく際に検出された。遺物は、土坑北側壁で２点の土器片を検出したが、部位は胴部でいずれも破片が小さく型式等は不明である。

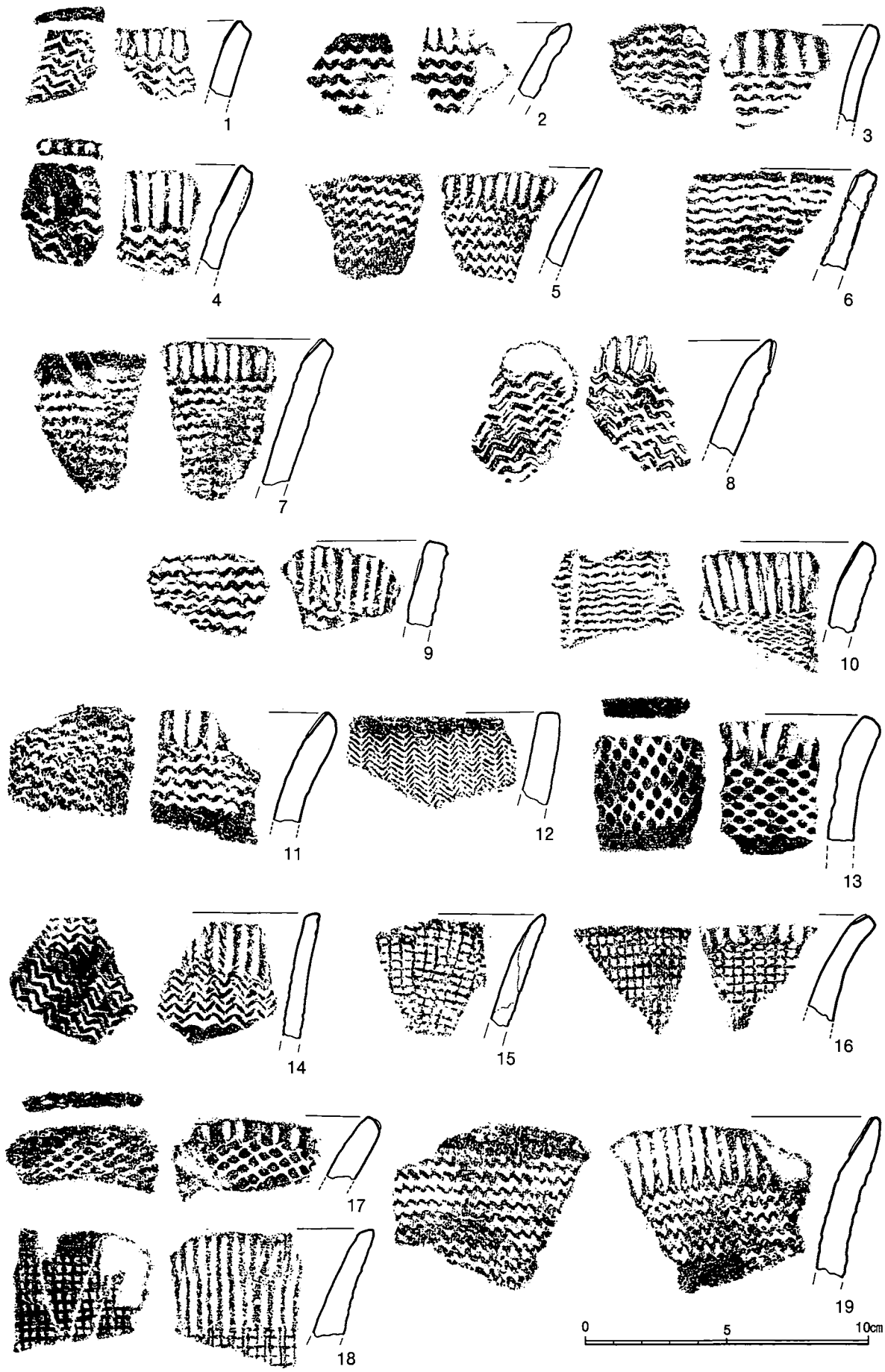
埋土は暗褐色を呈し、粒子はやや粗くしまりがない。

２．遺物について

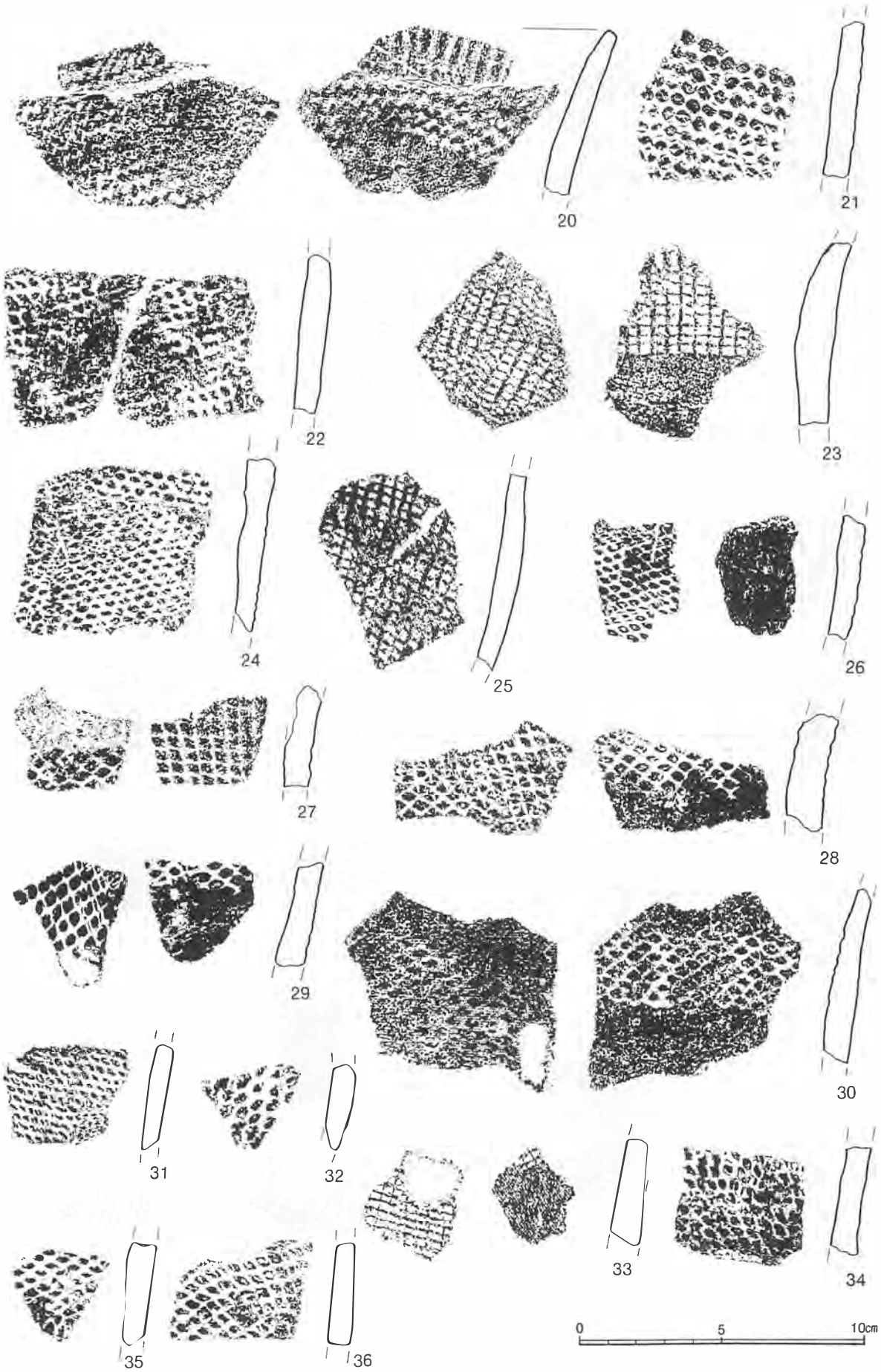
古池さん遺跡では、全部で 266点の遺物が出土した。その内訳は、土器 217点、石器49点である。これらの遺物は、第Ⅱ層～第Ⅳ層から検出され、その大半は第Ⅲ層から検出された押型文土器である。

また、この他に客土中から多くの遺物を採集した。その中には、先土器時代の遺物も含まれていた。

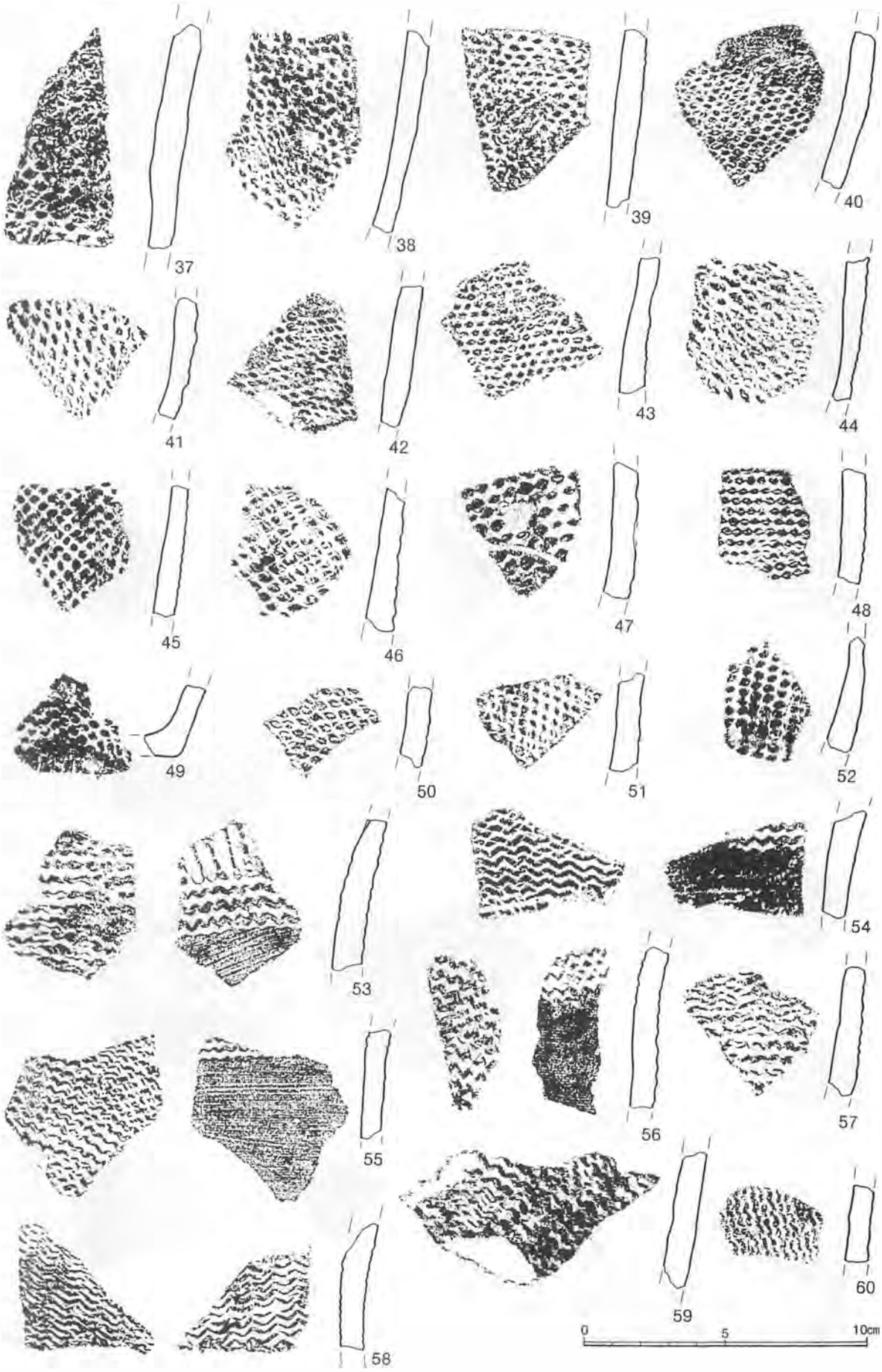
このことから当該遺跡では本来、先土器時代から縄文時代後期までの生活の痕跡が残されていたことになる。その中心は、出土した遺物及び採集された遺物等から、縄文時代早期であると考えられ、遺跡の中心は、調査区北東側及び湧水地南側に存在するものと考えられる。



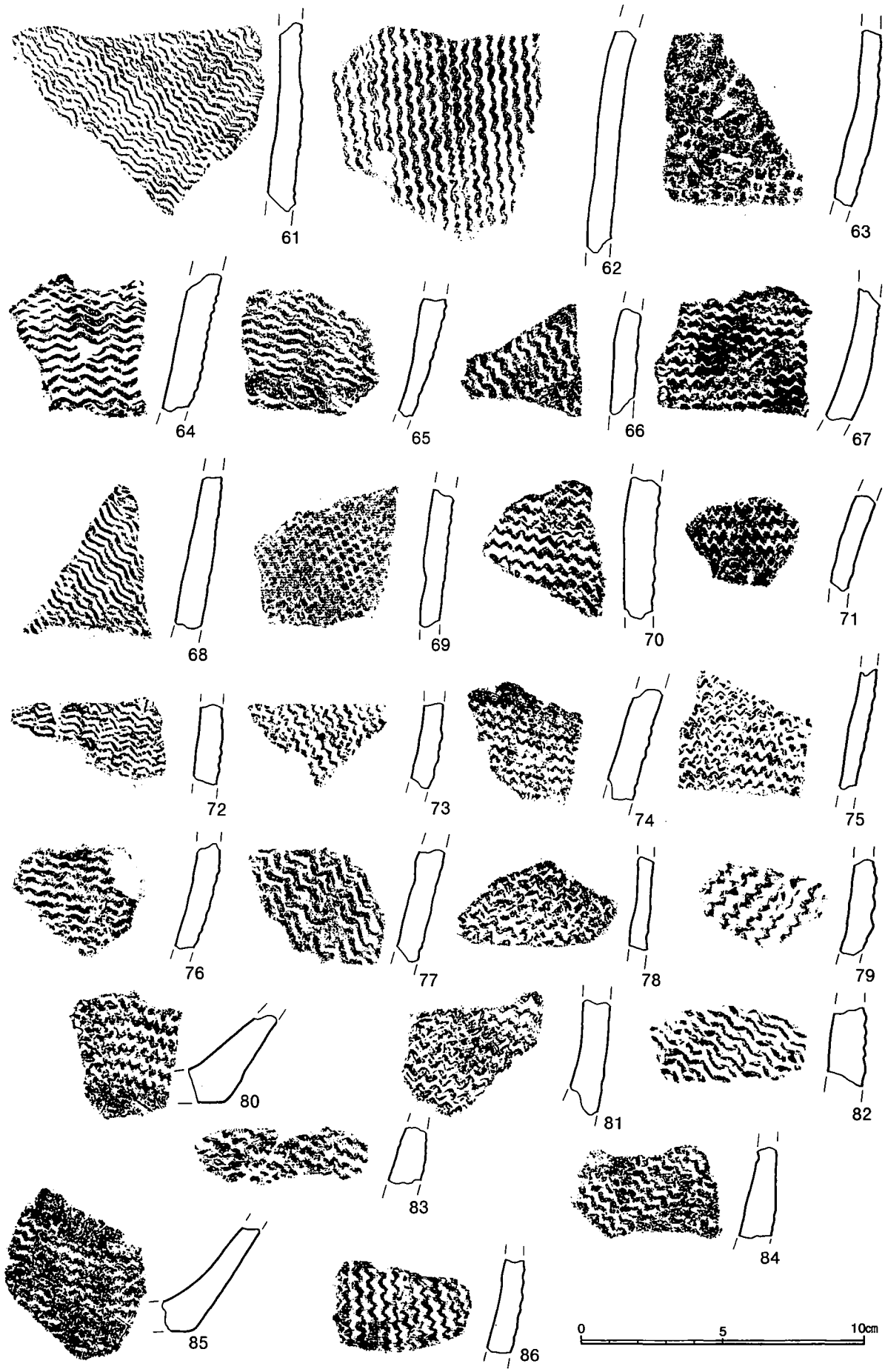
第12図　遺物実測図



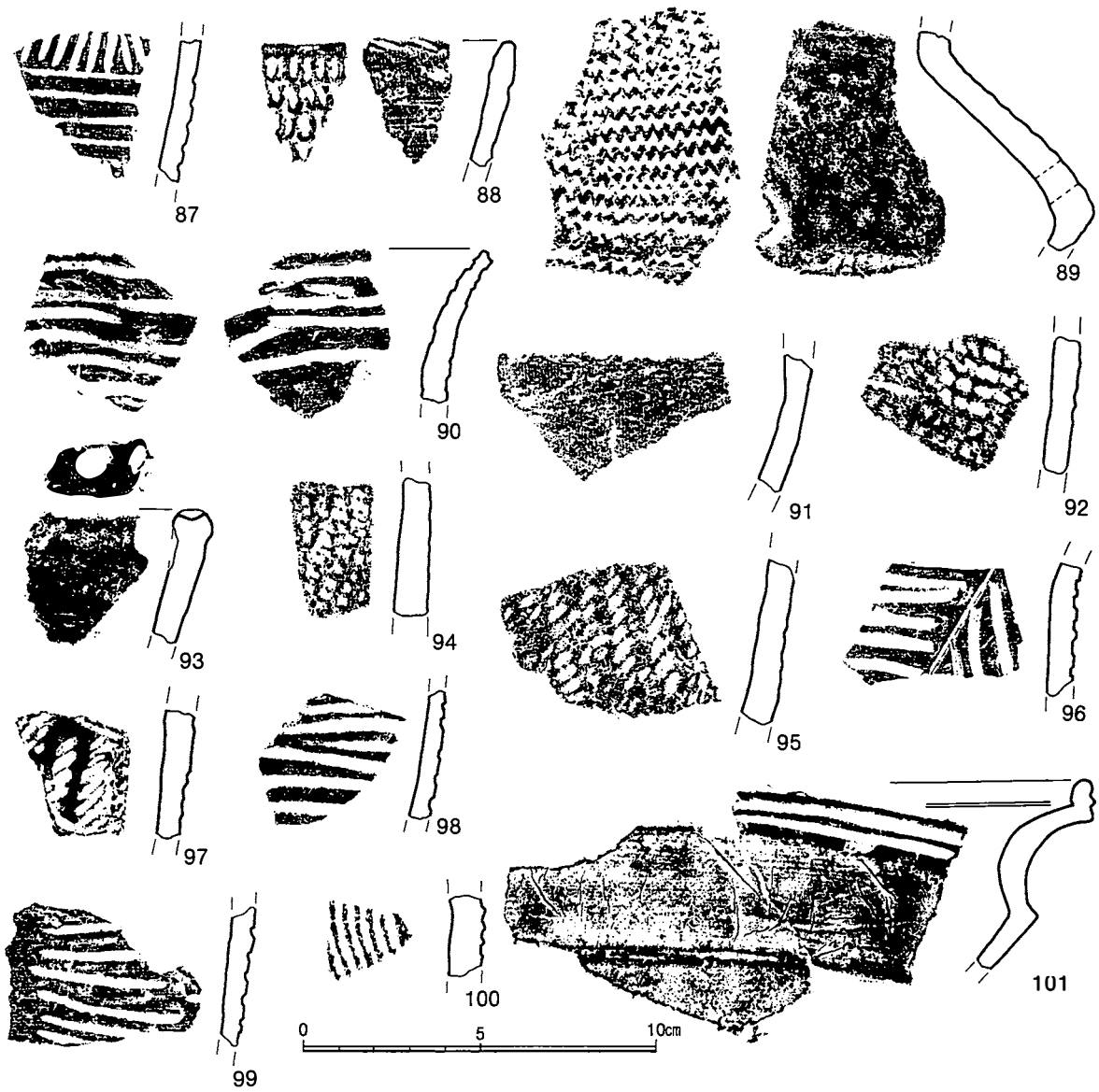
第13図　遺物実測図


37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
0
5
10cm

第14図　遺物実測図


61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
0
5
10cm

第15図　遺物実測図



第16図　遺物実測図

（1）土器

古池さん遺跡では、217 点の土器が出土した。この内、Ⅲ層を主体として出土した押型文土器は、151点で最も多い。この押型文土器を文様別でみてみると、楕円文67点、山形文76点、格子目文 8点である。

また、部位別では口縁部30点、胴部 118点、胴部～底部 3点である。これらの資料から押型文土器の器形は、口縁部がやや外反し胴部は小さく膨らみ窄まりながら底部に至る。底部は、平底である。

これらの土器片は口縁部の観察から、内器面に原体条痕と外器面と同種の文様を横位に施文するものと、内器面が無文のものとがある。数量的には、前者の資料が圧倒的に多い。

また、客土から採集した資料のなかに、大津町瀬田裏遺跡で検出された注口土器と類似する土器が1点存在した。瀬田裏遺跡では、多くの注口土器が検出され、楕円文、山形文、条痕文、絡条帯圧痕文など施文される文様にはバラエティーが認められる。器形では、胴部の屈曲が明確なものと緩やかなものの二者が認められている。古池さん遺跡で確認された資料は、胴部の屈曲が明確で楕円押型文を施文している（第16図89）。注口部は、胴部屈曲部のやや上位に設定されている。

Ⅱ層からは、縄文時代前期の曽畑式土器などが出土しているが、数量的にはそれほど多いものではない。

第5表　遺物観察表

番号	グリッド	層位	器　種	部　位	色　　調	胎　　土	調　整・文　様		焼　成
							外器面	内器面	
1	H－8	Ⅱ	深鉢	口縁部	(外)暗黄褐色5/4, 10YR (内)暗黄褐色5/4, 10YR	砂	山形文	原 山	良　好
2	H－5	Ⅲ	深鉢	口縁部	(外)暗黄褐色5/4, 10YR (内)暗黄橙色6/4, 10YR	砂	山形文	原 山	良　好
3	H－9	Ⅲ	深鉢	口縁部	(外)暗黄橙色6/4, 10YR (内)暗黄橙色7/4, 10YR	砂粒 石を	山形文	原 山	良　好
4	H－7	Ⅱ	深鉢	口縁部	(外)暗橙色6/4, 7.5YR (内)暗黄橙色6/4, 10YR	砂粒，石英，黒雲母 を含む	山形文	原 山	良　好
5	H－9	Ⅲ	深鉢	口縁部	(外)暗黄橙色7/4, 10YR (内)暗黄橙色6/4, 10YR	砂	山形文	原 山	良　好
6	H－5	Ⅲ	深鉢	口縁部	(外)暗黄褐色5/3, 10YR (内)暗黄褐色4/3, 10YR	砂粒，長 含む	山形文	原 山	良　好
7	H－8	Ⅲ	深鉢	口縁部	(外)明赤褐色5/6, 5YR (内)暗褐色5/4, 7.5YR	砂	楕円文	原体 楕円	良　好
8	H－7	Ⅲ	深鉢	口縁部	(外)灰黄褐色5/2, 10YR (内)灰黄褐色5/2, 10YR	砂粒 を	山形文	原 山	良　好
9	H－7	Ⅱ	深鉢	口縁部	(外)暗黄橙色6/3, 10YR (内)暗黄橙色6/3, 10YR	砂粒，長 石を含	山形文	原体条 山形	良　好
10	H－7	Ⅲ	深鉢	口縁部	(外)暗黄橙色7/4, 10YR (内)暗黄橙色6/4, 10YR	砂粒，石英，黒雲母 を含む	山形文	原 山	良　好
11	H－7	Ⅲ	深鉢	口縁部	(外)暗黄褐色5/4, 10YR (内)暗黄褐色6/4, 10YR	砂粒，長 角セン石	山	原 山	良　好
12	H－9	Ⅲ	深鉢	口縁部	(外)明褐色5/6, 7.5YR (内)明褐色5/6, 7.5YR	砂 石	山	ナデ	良　好
13	H－9	Ⅲ	深鉢	口縁部	(外)暗黄褐色5/4, 10YR (内)明褐色5/6, 7.5YR	砂粒，石英，黒雲母 を含む	楕円文	原体 楕	良　好
14	H－9	Ⅲ	深鉢	口縁部	(外)暗橙色6/4, 7.5YR (内)暗橙色6/4, 7.5YR	砂粒，石英，黒雲母 を含む	山	原 山	良　好
15	G－5	Ⅲ	深鉢	口縁部	(外)暗黄橙色6/4, 10YR (内)暗黄橙色6/4, 10YR	砂	格子	ナデ	良　好
16	G－5	Ⅲ	深鉢	口縁部	(外)明褐色5/6, 7.5YR (内)明褐色5/6, 7.5YR	砂	格子	原体 格	良　好
17	H－5	Ⅲ	深鉢	口縁部	(外)暗黄橙色7/4, 10YR (内)暗黄褐色5/3, 10YR	砂 石	楕円	原体 楕	良　好
18	H－10	Ⅲ	深鉢	口縁部	(外)暗黄褐色4/3, 10YR (内)暗黄橙色7/4, 10YR	砂	格子目文	原体 格子	良　好
19	H－6	Ⅲ	深鉢	口縁部	(外)灰黄褐色6/2, 10YR (内)灰黄褐色6/2, 10YR	砂 を	山	原体条痕 山形文	良　好
20	H－5	Ⅲ	深鉢	口縁部	(　　7.5YR (　　5YR	砂粒，長 含む	山形文	原 山	良　好
21	H－7	Ⅲ	深鉢	胴部	(外)暗黄橙色6/3, 10YR (内)黒褐色3/2, 10YR	砂	楕円文	ナデ	良　好
22	H－9	Ⅲ	深鉢	胴部	(外)橙色7/6, 7.5YR (内)灰黄褐色5/2, 10YR	砂粒，長石，石英， 角セン石を少量含む	楕円文	ナデ	良　好
23	H－9	Ⅲ	深鉢	口縁部	(外)暗黄橙色7/3, 10YR (内)灰黄褐色6/2, 10YR	砂粒，長石，石英， 角セン石を多く含む	格子目	原体 格	良　好
24	G－5	Ⅲ	深鉢	胴部	(外) (	砂粒，長 角セン石	楕円文	ナデ	良　好
25	H－8	Ⅲ	深鉢	胴部	(外) (	砂粒，長石，石英， 角セン石を少量含む	格子目文	ナデ	良　好
26	H－6	Ⅲ	深鉢	胴部	(外)灰 (内)	砂 多	楕円文	楕円文 ナデ	良　好

第6表　遺物観察表

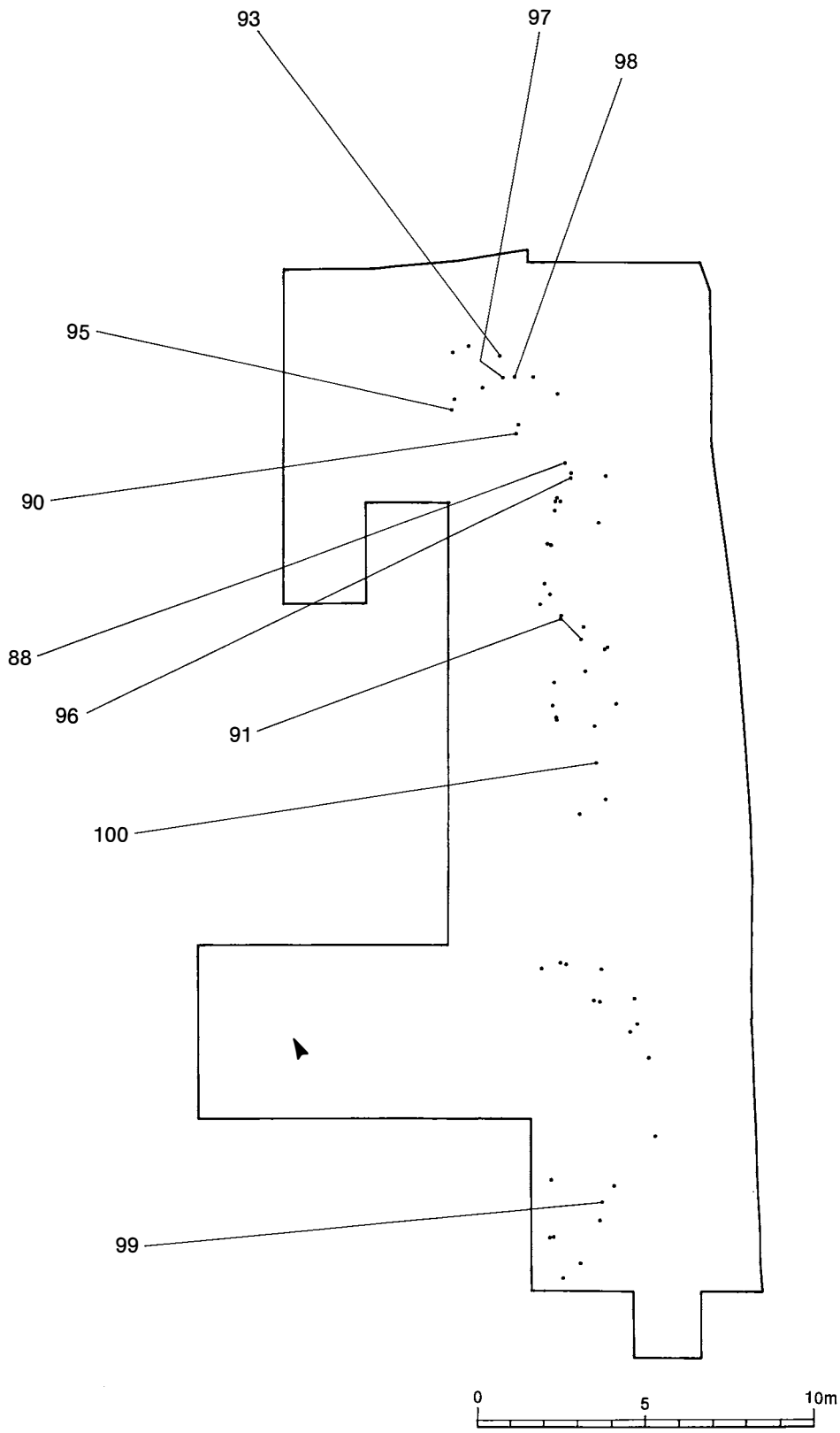
番号	グリッド	層位	器種	部位	色調	胎土	調整・文様 外器面	調整・文様 内器面	焼成
27	H－5	Ⅲ	深鉢	胴部	(外)暗黄橙色7/4, 10YR (内)暗黄橙色7/4, 10YR	砂粒，長石，石英， 角セン石を多く含む	楕円文	楕円文	良　好
28	H－5	Ⅲ	深鉢	胴部	(外)橙色7/6, 7.5YR (内)暗黄橙色7/3, 10YR	砂粒， 角セ	楕円	楕円文 ナデ	良　好
29	H－7	Ⅲ	深鉢	胴部	(外)暗橙色7/4, 7.5YR (内)暗黄橙色7/4, 10YR	砂粒， 角セ　　， 含む	楕円	楕円文 ナデ	良　好
30	H－5	Ⅲ	深鉢	口縁部	(外)暗黄橙色7/3, 10YR (内)暗黄橙色6/3, 10YR	砂粒， 角セ	楕円文	楕円文 ナデ	良　好
31	H－8	Ⅱ	深鉢	胴部	(

第７表　遺物観察表

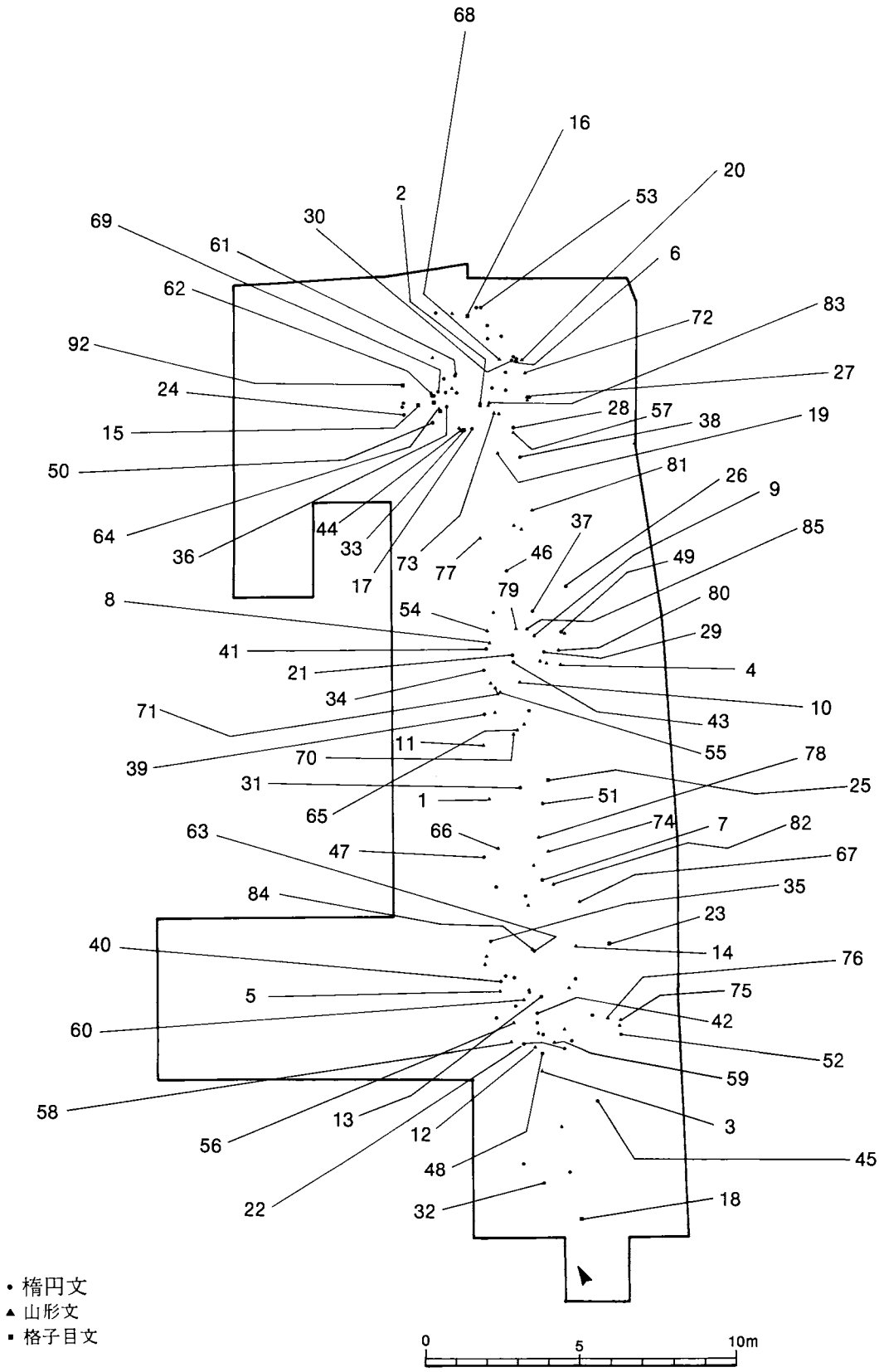
番号	グリッド	層位	器　種	部　位	色　　調	胎　　土	調　整・文　様		焼　成
							外器面	内器面	
53	Ｈ－５	Ⅲ	深鉢	口縁部	(外)暗黄橙色6/4, 10YR (内)暗黄褐色5/3, 10YR	砂粒, 角セ	山形文	原 山	良　好
54	Ｈ－７	Ⅲ	深鉢	胴部	(外)暗黄橙色6/3, 10YR (内)暗黄褐色5/3, 10YR	砂粒，長 石を少	山形文	原体 山	良　好
55	Ｈ－７	Ⅲ	深鉢	胴部	(外)暗黄橙色6/4, 10YR (内)暗黄橙色7/3, 10YR	砂粒，長 石を多	山形文	山	良　好
56	Ｈ－９	Ⅲ	深鉢	胴部	(外)暗黄橙色7/4, 10YR (内)暗黄褐色5/3, 10YR	砂粒, 角セ	山形文	山形文 ナデ	良　好
57	Ｈ－５	Ⅲ	深鉢	胴部	(外)明赤褐色5/6, 5YR (内)暗赤褐色5/4, 5YR	砂粒, 角セ	山形文	ナ	良　好
58	Ｈ－９	Ⅲ	深鉢	胴部	(外)暗橙色7/4, 7.5YR (内)暗黄橙色7/4, 10YR	砂粒, 角セ	山形文	山形文	良　好
59	Ｈ－９	Ⅲ	深鉢	胴部	(外)暗黄橙色6/4, 10YR (内)暗黄橙色7/4, 10YR	砂粒, 石を多	山形文	ナデ	良　好
60	Ｈ－９	Ⅲ	深鉢	胴部	(外)橙色6/6, 7.5YR (内)暗灰黄色4/2, 2.5Y	砂粒, 角セ	山	ナデ	良　好
61	Ｇ－５	Ⅲ	深鉢	胴部	(外)暗黄橙色6/3, 10YR (内)暗黄橙色6/3, 10YR	砂粒, 角セ	山形文	ナデ	良　好
62	Ｇ－５	Ⅲ	深鉢	胴部	(外)暗黄橙色6/3, 10YR (内)暗黄橙色6/4, 10YR	砂粒, 角セ	山形文	ナデ	良　好
63	Ｈ－９	Ⅱ	深鉢	胴部	(外)暗黄橙色7/4, 10YR (内)暗黄橙色6/3, 10YR	砂粒, 角セ	楕円文	ナデ	良　好
64	Ｇ－５	Ⅱ	深鉢	胴部	(外)橙色7/6, 7.5YR (内)暗褐色6/3, 7.5YR	砂	山形文	ナデ	良　好
65	Ｈ－７	Ⅱ	深鉢	胴部	(外)橙色6/6, 7.5YR (内)灰黄褐色4/2, 10YR	砂粒, 角セ	山形文	ナデ	良　好
66	H	Ⅲ	深鉢	胴部	(外)暗褐色5/4, 7.5YR (内)暗黄橙色6/3, 10YR	砂粒, 角セ	山形文	ナデ	良　好
67	Ｈ－８	Ⅱ	深鉢	胴部	(外)暗橙色7/4, 7.5YR (内)暗黄橙色7/4, 10YR	砂	山形文	ナデ	良　好
68	Ｈ－５	Ⅲ	深鉢	胴部	(外)暗黄橙色7/4, 10YR (内)暗黄褐色5/3, 10YR	砂粒, 角セ	山形文	ナデ	良　好
69	Ｇ－５	Ⅲ	深鉢	胴部	(外)暗黄褐色5/3, 10YR (内)暗黄橙色7/4, 10YR	砂粒, 石を	山形文	ナデ	良　好
70	Ｈ－７	Ⅱ	深鉢	胴部	(外)暗黄褐色5/4, 10YR (内)明黄橙色6/4, 10YR	砂粒, 石を	山形文	ナデ	良　好
71	Ｈ－７	Ⅲ	深鉢	胴部	(外)暗黄橙色7/4, 10YR (内)橙色7/6, 7.5YR	砂粒，長石，石英, 角セン石を少量含む	山形文	山	良　好
72	Ｈ－５	Ⅲ	深鉢	胴部	(外)暗橙色6/4, 7.5YR (内)暗灰黄色4/2, 2.5Y	砂粒, 角セ	山	ナデ	良　好
73	H	Ⅲ	深鉢	胴部	(外)　　5/6, 5YR (内)褐　　10YR	砂粒, 角セ	山	ナデ	良　好
74	Ｈ－８	Ⅱ	深鉢	胴部	(外)暗橙色7/4, 7.5YR (内)暗黄橙色6/3, 10YR	砂粒, 角セ	山	ナデ	良　好
75	Ｈ－９	Ⅲ	深鉢	胴 底	(外)暗黄橙色7/4, 10YR (内)暗黄橙色7/4, 10YR	砂粒，長石，石英を 少量含む	山	ナデ	良　好
76	Ｈ－９	Ⅲ	深鉢	胴部	(外)暗橙色6/4, 7.5YR (内)暗橙色7/4, 7.5YR	砂粒, 角セ	山	ナデ	良　好
77	Ｈ－６	Ⅱ	深鉢	胴部	(外)暗橙色7/4, 7.5YR (内)暗黄褐色5/3, 10YR	砂粒，長石，石英, 角セン石を多く含む	山形文	ナデ	良　好
78	Ｈ－８	Ⅲ	深鉢	胴部	(外)暗黄橙色7/4, 10YR (内)暗黄橙色6/3, 10YR	砂粒, 角セ	山形文	ナデ	良　好

第８表　遺物観察表

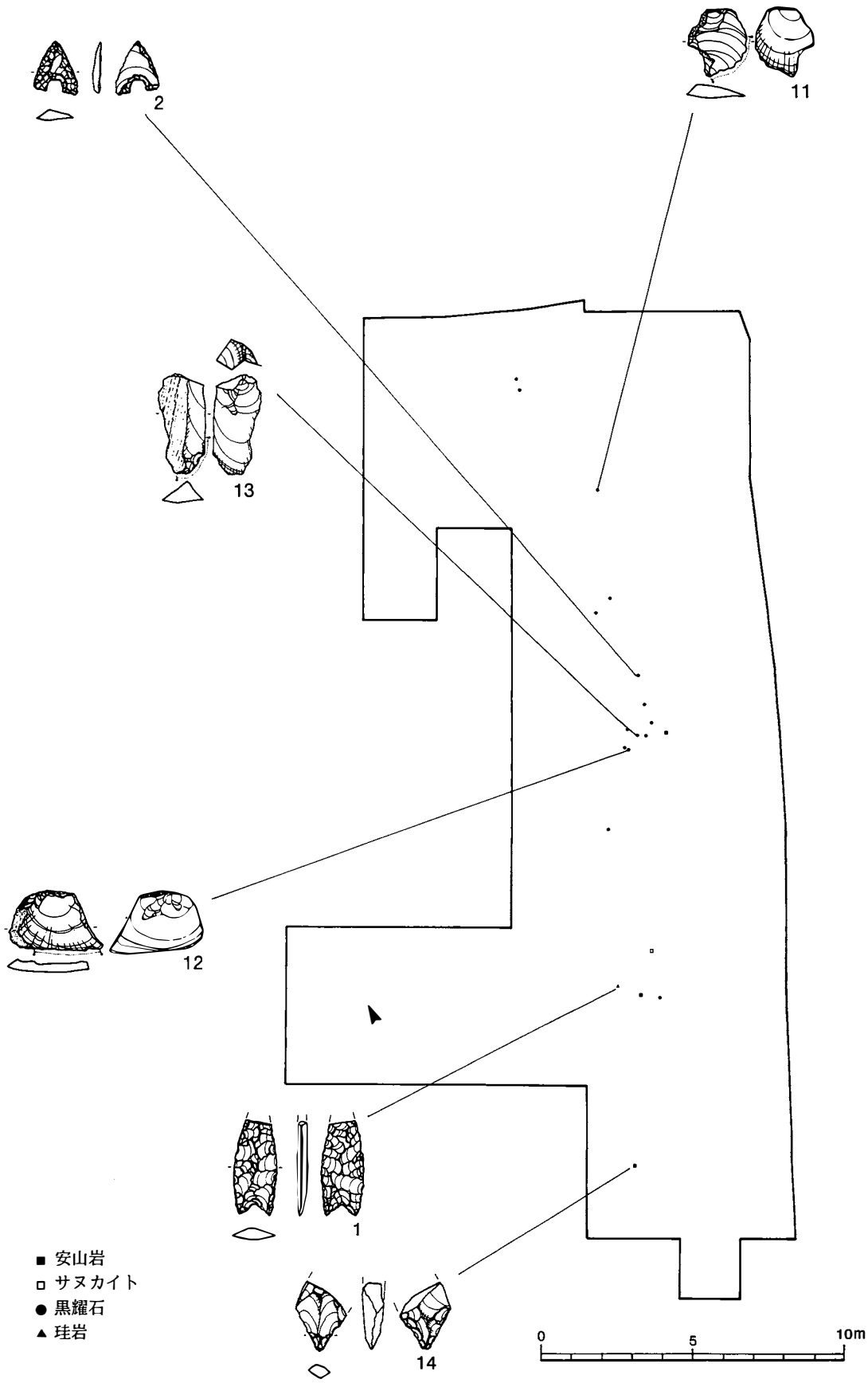
番号	グリッド	層位	器　種	部　位	色　　調	胎　　土	調　整・文　様		焼　成
							外器面	内器面	
79	H－7	Ⅲ	深鉢	胴部	(外)灰褐色6/2, 7.5YR (内)黒褐色3/2, 7.5YR	砂粒，長石，石英， 角セン石を多く含む	山形文	ナデ	良　好
80	H－7	Ⅲ	深鉢	胴 底	(外)暗黄橙色7/4, 10YR (内)暗黄橙色6/3, 10YR	砂粒，長石，石英， 角セン石を多く含む	山形文	ナデ	良　好
81	H－6	Ⅲ	深鉢	胴部	(外)浅黄橙色8/3, 10YR (内)灰黄褐色6/2, 10YR	砂粒，　　， 角セン	山形文	ナデ	良　好
82	H－8	Ⅲ	深鉢	胴部	(外)暗黄橙色6/3, 10YR (内)暗黄橙色6/3, 10YR	砂粒，長石，石英， 角セン石を多く含む	山形文	ナデ	良　好
83	H－5	Ⅲ	深鉢	胴部	(外)暗橙色6/4, 7.5YR (内)暗褐色4/3, 7.5YR	砂粒，長石，石英， 角セン石を多く含む	山形文	ナデ	良　好
84	H－9	Ⅱ	深鉢	胴部	(外)暗黄橙色7/4, 10YR (内)灰黄褐色5/2, 10YR	砂粒，長石，石英， 角セン石を多く含む	山形文	ナデ	良　好
85	H－7	Ⅲ	深鉢	胴部	(外)橙色7/6, 7.5YR (内)暗黄橙色7/4, 10YR	砂粒，　　， 角セ　　含む	山形文	ナデ	良　好
86	H－8	Ⅱ	深鉢	胴部	(外)暗黄橙色7/4, 10YR (内)暗黄橙色6/3, 10YR	砂粒，長　　， 角セン　　含む	山形文	ナデ	良　好
87	G－5	一括	深鉢	口縁部	(外)黒褐色3/1, 10YR (内)暗黄橙色6/4, 10YR	砂	沈線文	ナデ	良　好
88	H－6	Ⅲ	深鉢	口縁部	(外)灰褐色5/1, 7.5YR (内)灰黄褐色5/2, 10YR	砂粒，長石，石英， 角セン石を多く含む	刺突文	ナデ	良　好
89	F－9	一括	壷	胴部	(外)浅黄橙色8/4, 10YR (内)暗黄橙色7/4, 10YR	砂粒，角セン石を少 量含む	山形文	ナデ	良　好
90	G－5	Ⅲ	深鉢	口縁部	(外)灰黄褐色4/2, 10YR (内)灰褐色4/1, 10YR	砂	沈線文	沈線文 ナデ	良　好
91	H－7	Ⅱ	深鉢	胴部	(外)Ⅱ (内)灰　　5/	砂 多	ナデ	ナデ	良　好
92	G－5	Ⅲ	深鉢	胴部	(外)暗橙色7/4, 7.5YR (内)暗橙色6/	砂	格子目文	ナデ	良　好
93	G－5	Ⅱ	深鉢	口縁部	(外)明赤褐色5/6, 5YR (内)暗橙色3/6, 5YR	砂粒， 角セ	ナデ	ナデ	良　好
94	G－5	Ⅲ	深鉢	胴部	(外)暗黄橙色7/3, 10YR (内)暗黄褐色5/3, 10YR	砂粒，長石，石英， 角セン石を少量含む	格子目文	ナデ	良　好
95	G－5	Ⅱ	深鉢	胴部	(外)暗黄橙色7/4, 10YR (内)暗黄橙色6/3, 10YR	砂粒，長石，石英， 角セン石を少量含む	縄文	ナデ	良　好
96	H－6	Ⅱ	深鉢	胴部	(外)暗褐色5/4, 7.5YR (内)暗橙色6/4, 7.5YR	砂粒，長　　， 角セン石	沈線文	ナデ	良　好
97	G－5	Ⅱ	深鉢	胴部	(外)暗橙色7/4, 7.5YR (内)灰黄褐色4/2, 10YR	砂粒， 角セ	絡 痕	ナデ	良　好
98	G－5	Ⅱ	深鉢	胴部	(外)暗赤褐色5/3, 5YR (内)暗赤褐色5/4, 5YR	砂粒，長石，石英， 角セン石を多く含む	沈線文	ナデ	良　好
99	H－10	Ⅱ	深鉢	胴部	(外)暗黄橙色6/3, 10YR (内)暗黄橙色7/3, 10YR	砂粒， 角セ	沈線文	ナデ	良　好
100	H－7	Ⅲ	深鉢	胴部	(外)暗黄橙色7/4, 10YR (内)暗黄橙色6/4, 10YR	砂粒，長石，石英， 角セン石を少量含む	条痕文	条痕文	良　好
101	F－5	一括	深鉢	口縁部	(外)暗黄橙色6/4, 10YR (内)暗黄橙色7/4, 10YR	砂	磨き	磨き	良　好



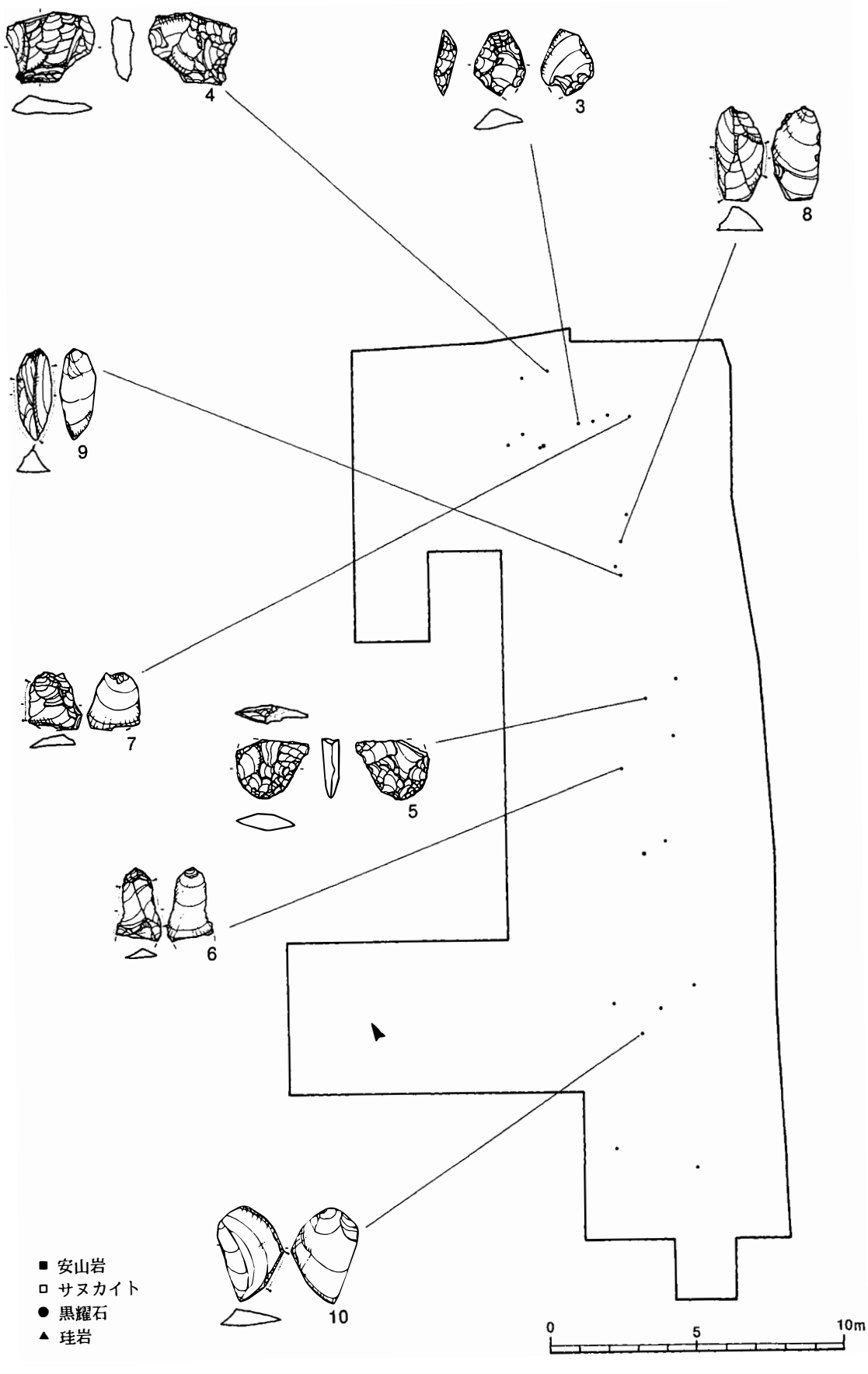
第17図　遺物分布図（Ⅱ層土器）



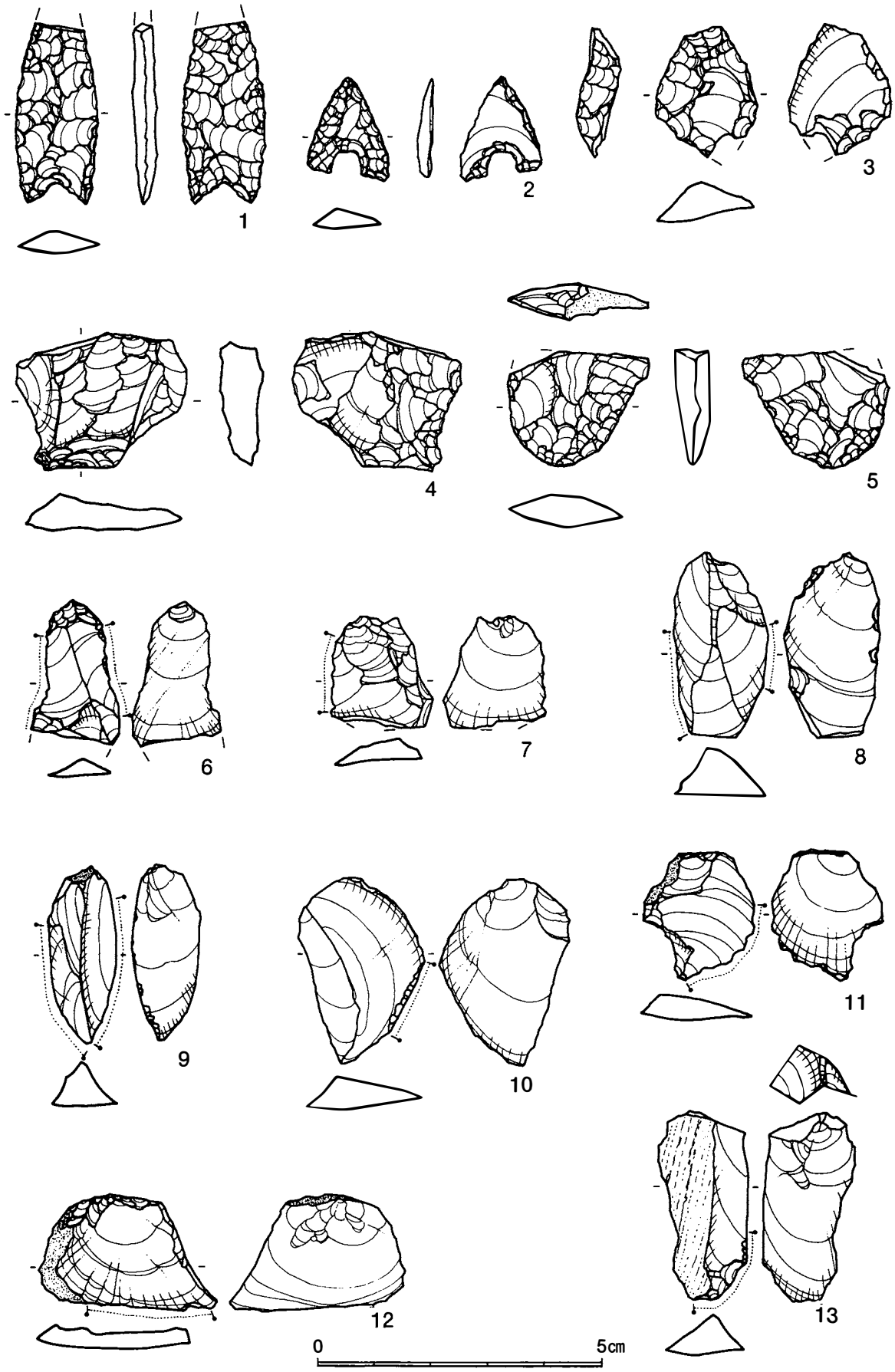
第18図　遺物分布図（Ⅲ層土器）



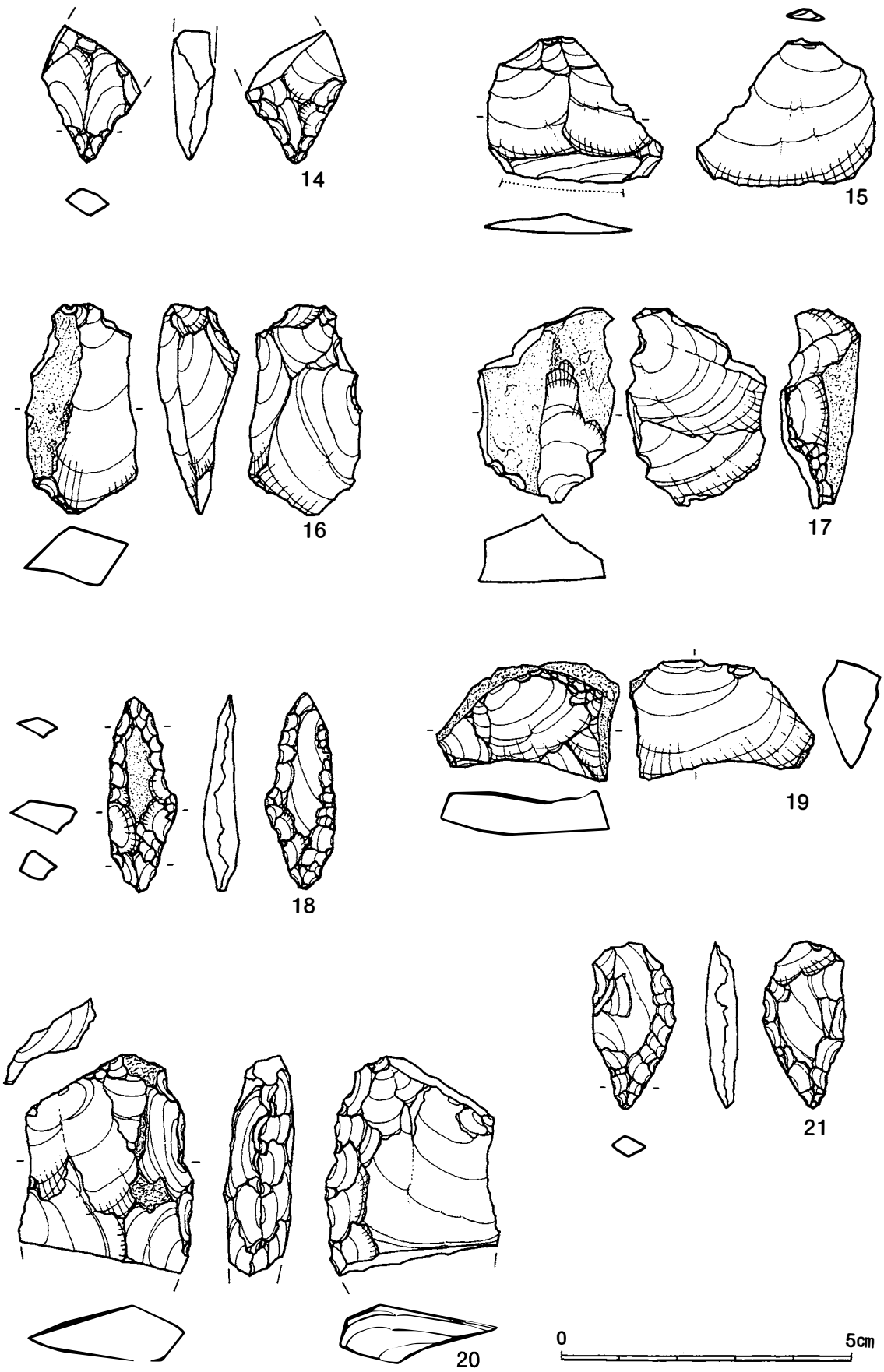
第19図　遺物分布図（Ⅱ層石器）



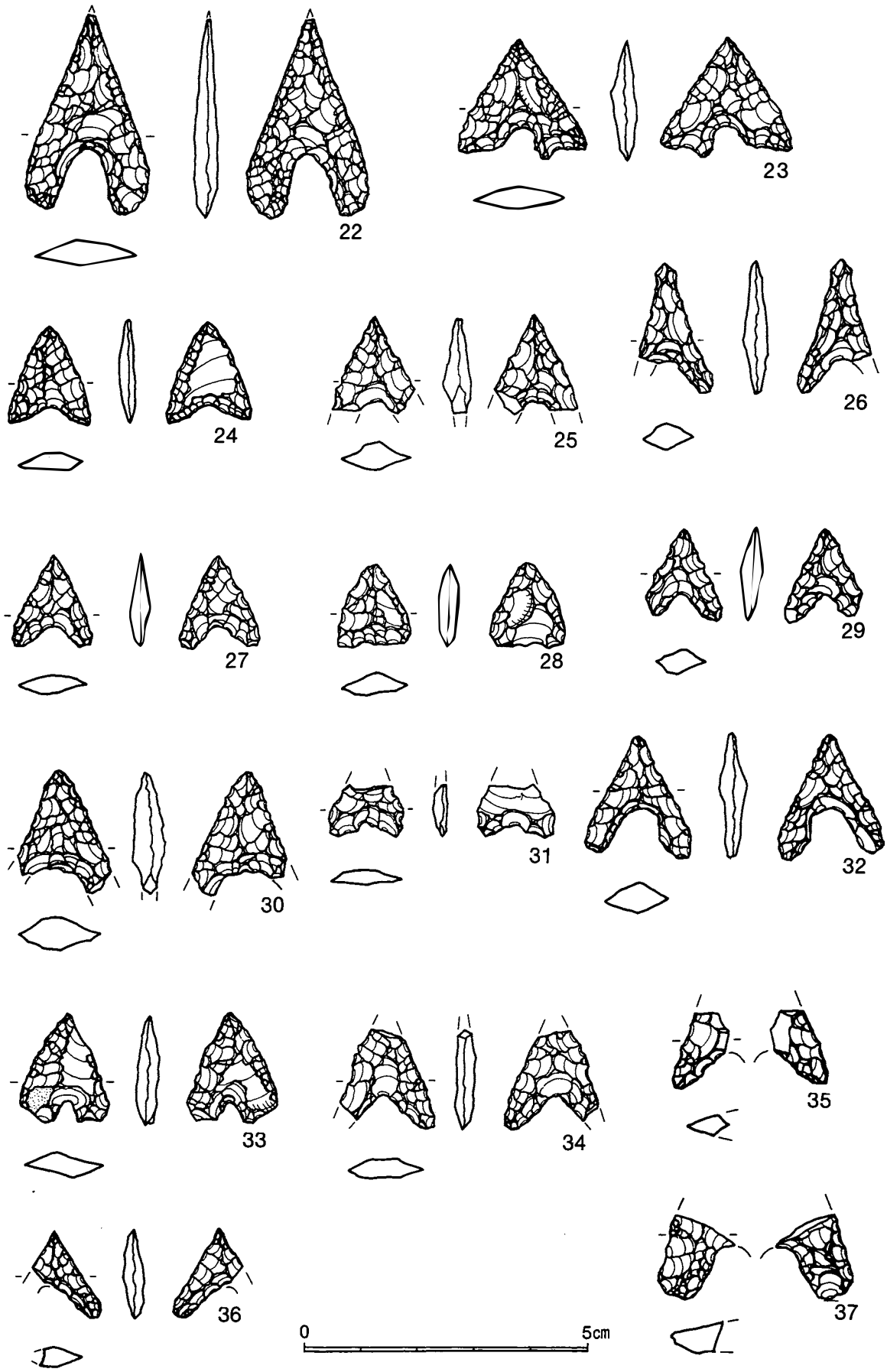
第20図　遺物分布図（Ⅲ層石器）



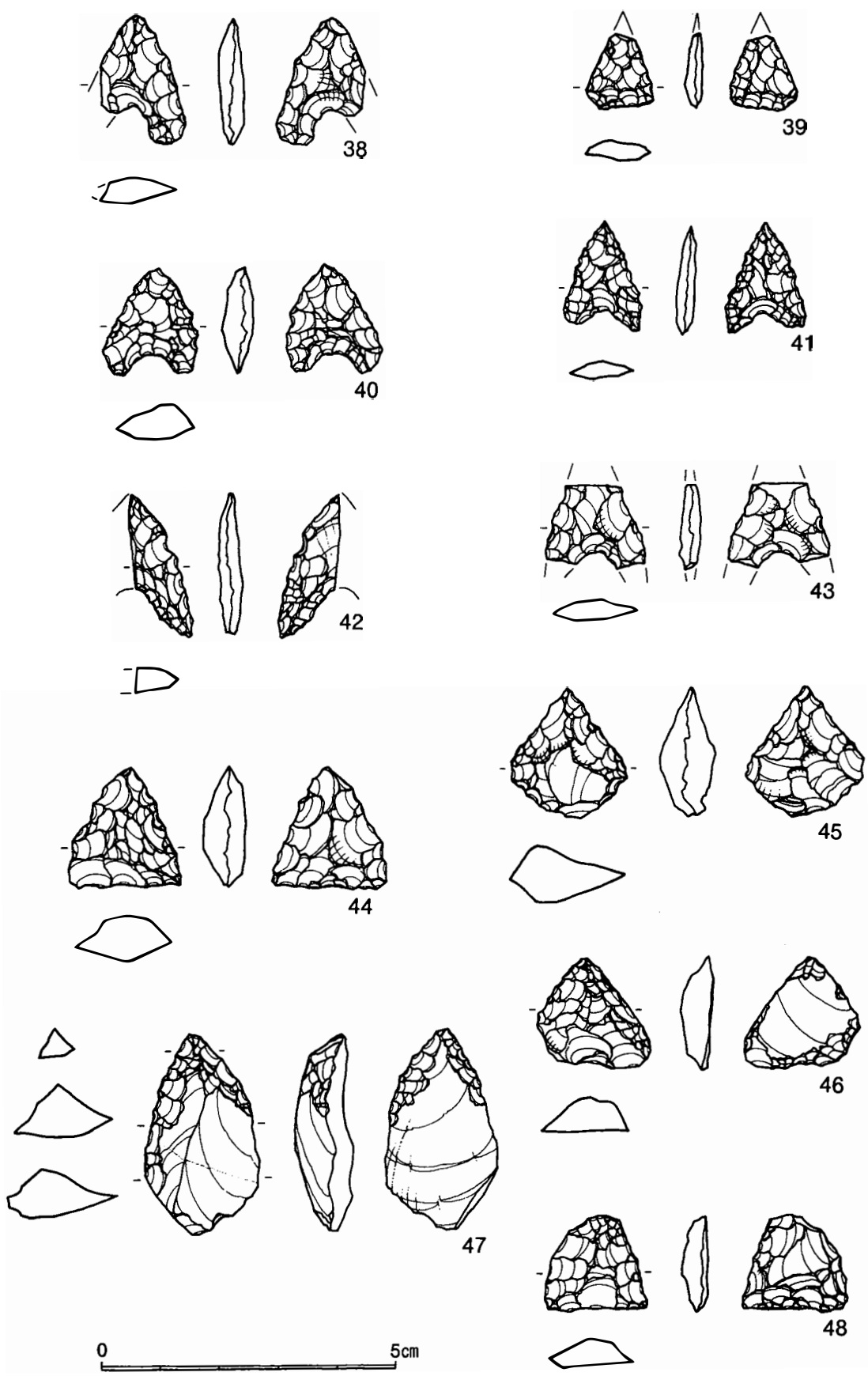
第21図　遺物実測図



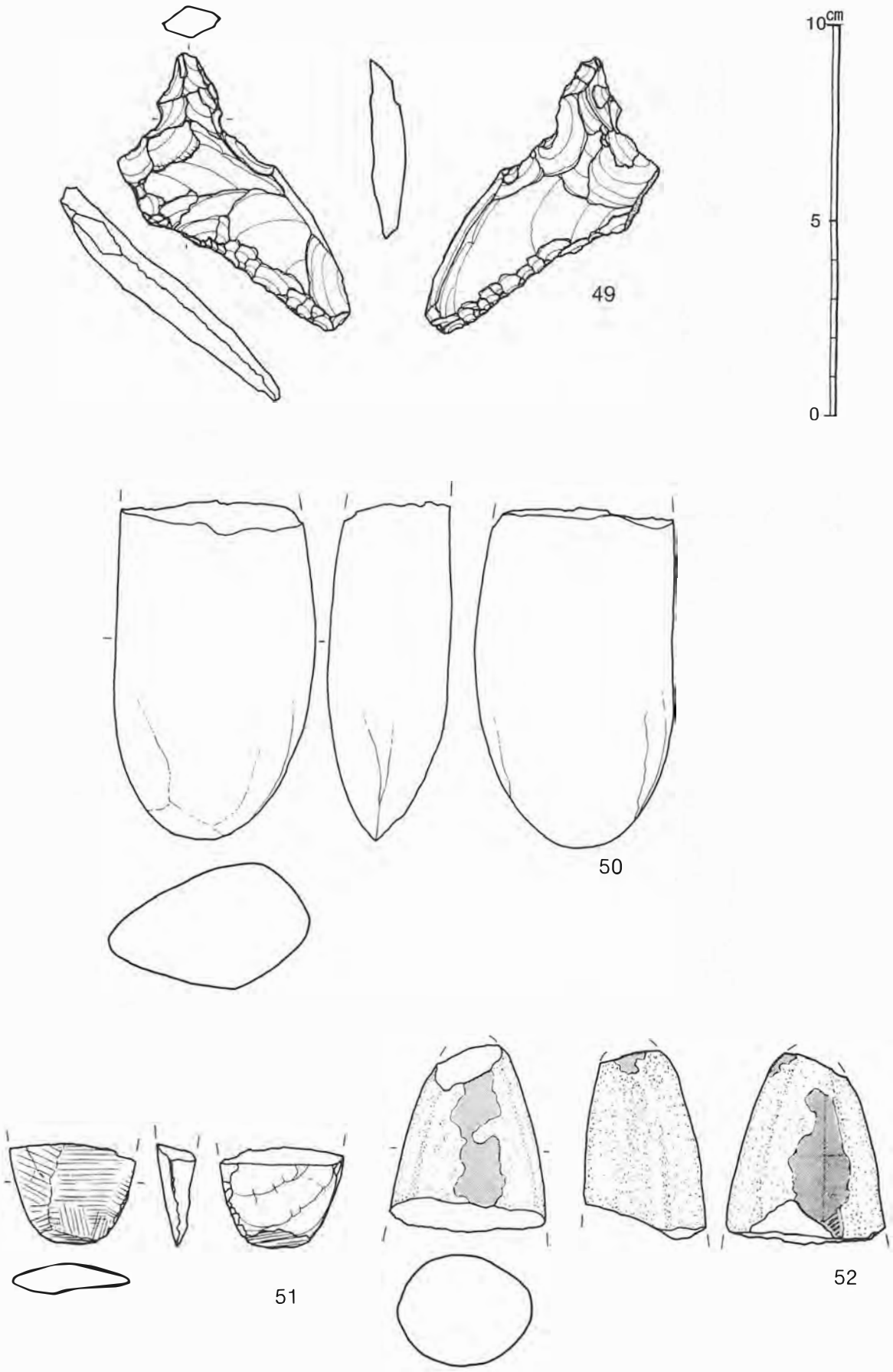
第22図　遺物実測図



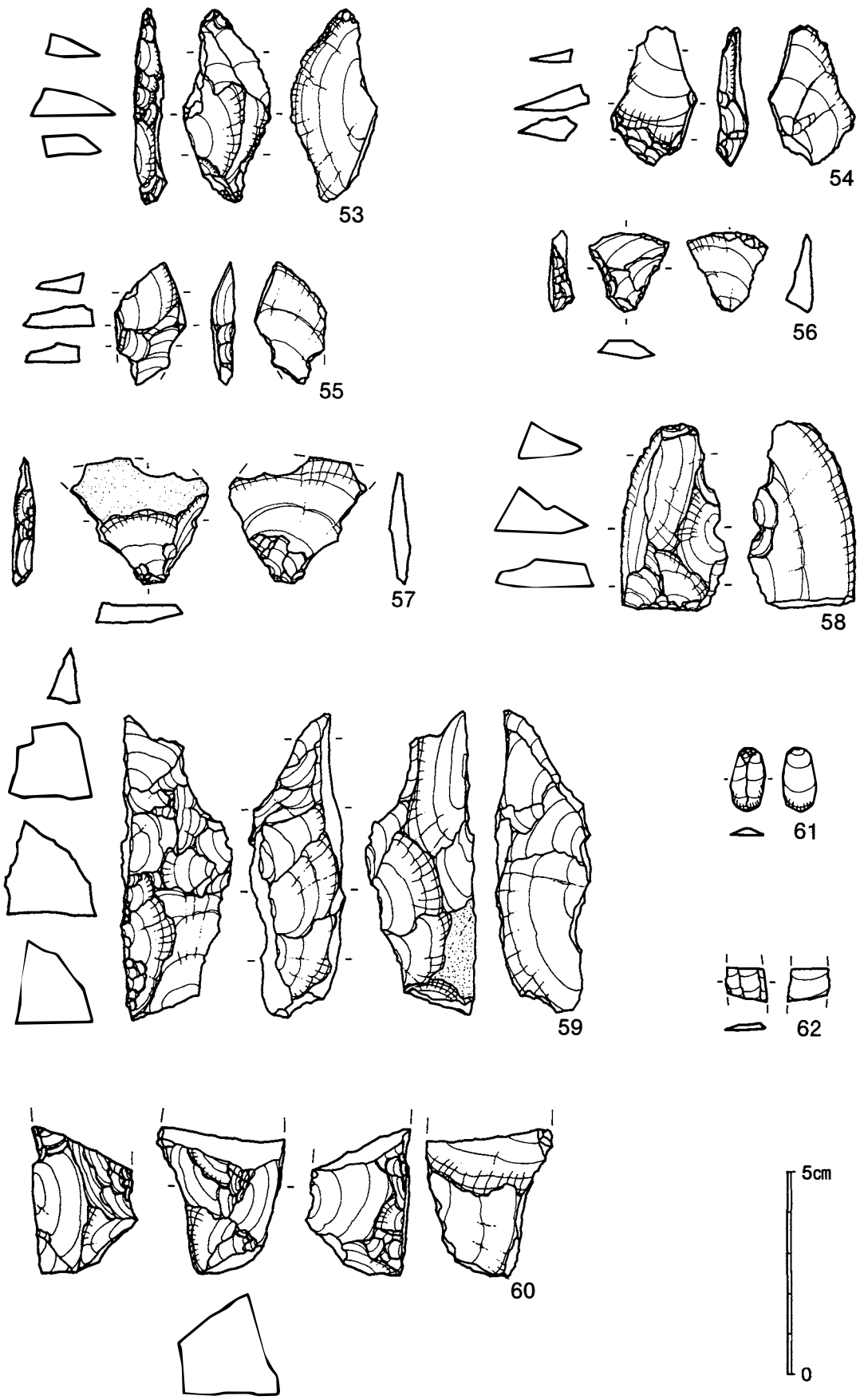
第23図　遺物実測図



第24図　遺物実測図



第25図　遺物実測図



第26図　遺物実測図

第9表　石器計測表

番号	器種	石材	計測値 長さ（mm）	幅（mm）	厚さ（mm）	重さ（g）	グリッド及び登録番号	備考
1	石鏃	珪岩	(30.5)	14.0	4.0	1.7	H-9,Ⅱ,148	
2	〃	黒耀石	17.5	14.0	3.0	0.3	H-7,Ⅱ,106	
3	二次加工ある石器	黒耀石	(22.0)	17.5	6.0	1.7	H-5,Ⅲ,235	
4	楔形石器	黒耀石	23.5	29.5	7.0	4.4	H-5,Ⅲ, 56	
5	二次加工ある石器	黒耀石	20.0	24.5	6.0	2.3	H-7,Ⅲ, 96	
6	使用痕ある剥片	黒耀石	(25.0)	15.0	3.0	1.0	H-7,Ⅲ,179	
7	使用痕ある剥片	黒耀石	19.0	18.0	3.0	1.1	H-5,Ⅲ,232	
8	使用痕ある剥片	黒耀石	31.0	16.0	8.0	3.5	H-6,Ⅲ, 48	
9	使用痕ある剥片	黒耀石	30.0	12.0	8.0	1.8	H-6,Ⅲ, 84	
10	使用痕ある剥片	黒耀石	32.0	23.0	6.0	2.7	H-9,Ⅲ,165	
11	使用痕ある剥片	黒耀石	22.0	19.0	4.0	1.2	H-6,Ⅱ, 45	
12	使用痕ある剥片	黒耀石	20.0	31.0	5.0	2.4	H-7,Ⅱ,120	
13	使用痕ある剥片	黒耀石	32.0	16.0	10.0	3.2	H-7,Ⅱ,117	
14	石錐	安山岩	(22.0)	(16.5)	8.0	1.8	H-10,Ⅱ,206	
15	使用痕ある剥片	安山岩	24.0	30.0	3.0	2.3	H-7,Ⅱ, 29	
16	石核	黒耀石	35.5	18.0	13.5	6.1	H-7,Ⅲ, 34	
17	二次加工ある石器	黒耀石	33.0	24.0	11.0	7.8	H-7,Ⅱ, 39	
18	尖頭器	珪岩	32.5	12.0	6.0	1.8	F-6,一括	
19	剥片	黒耀石	20.0	31.0	9.0	6.0	G-5,Ⅲ,268	
20	スクレイパー	安山岩	(36.5)	30.0	11.0	12.4	F-8,一括	
21	石錐	安山岩	28.0	13.5	5.0	1.9	F-10,一括	
22	石鏃	珪岩	(34.0)	21.0	4.0	2.0	F-9,一括	
23	石鏃	黒耀石	20.0	22.5	4.0	1.0	一括	
24	石鏃	珪岩	17.0	14.5	3.0	0.4	F-8,一括	
25	石鏃	珪岩	(16.5)	(14.5)	4.5	0.7	E-7,一括	
26	石鏃	安山岩	22.0	(12.5)	5.0	0.5	排土一括	
27	石鏃	黒耀石	15.5	14.0	3.5	0.4	G-11,一括	
28	石鏃	黒耀石	14.5	13.0	4.0	0.5	F-5,一括	
29	石鏃	珪岩	15.5	(13.5)	4.0	0.4	G-5,一括	
30	石鏃	黒耀石	(20.0)	(16.0)	5.0	1.1	F-9,一括	
31	石鏃	黒耀石	(9.0)	(13.5)	3.0	0.2	F-5,一括	
32	石鏃	黒耀石	20.5	18.0	5.0	0.7	G-9,一括	
33	石鏃	黒耀石	18.0	15.0	3.5	0.7	F-5,一括	
34	石鏃	黒耀石	(17.0)	(16.0)	3.5	0.5	F-5,一括	
35	石鏃	黒耀石	(13.0)	(10.0)	3.0	0.3	E-7,一括	
36	石鏃	黒耀石	15.0	(11.5)	3.5	0.3	G-7,一括	
37	石鏃	黒耀石	(14.5)	(13.0)	5.0	0.6	G-5,一括	
38	石鏃	黒耀石	21.0	(15.0)	4.5	0.9	G-5,一括	
39	石鏃	黒耀石	(12.5)	(11.0)	3.0	0.2	G-6,一括	
40	石鏃	黒耀石	17.5	16.0	7.5	1.1	F-9,一括	

第10表　石器計測表

番号	器種	石材	計測値 長さ（mm）	幅（mm）	厚さ（mm）	重さ（g）	グリッド及び登録番号	備考
41	石鏃	黒耀石	18.0	13.5	3.0	0.4	E-6,一括	
42	石鏃	黒耀石	(23.0)	(11.0)	3.5	0.4	F-5,一括	
43	石鏃	安山岩	(13.5)	(16.5)	3.5	0.7	G-8,一括	
44	石鏃	サヌカイト	19.5	18.5	7.5	2.3	E-7,一括	
45	石鏃	珪岩	21.0	19.0	9.0	2.4	F-5,一括	
46	石鏃	黒耀石	18.0	19.5	5.5	1.5	F-9,一括	
47	二次加工ある石器	珪岩	32.0	19.0	8.5	4.5	G-9,一括	
48	石鏃	サヌカイト	16.0	17.0	4.0	1.0	G-9,一括	
49	石匙	サヌカイト	70.5	60.0	10.0	24.6	F-6,一括	
50	磨製石斧	砂岩	(87.0)	52.0	32.5	212.0	F-11,一括	
51	磨製石斧	砂岩	(26.0)	(32.5)	(10.5)	7.9	F-6,一括	
52	石斧	砂岩	(48.5)	(41.5)	(29.0)	74.5	F-5,一括	
53	ナイフ形石器	サヌカイト	47.0	21.5	6.0	6.0	F-5,一括	
54	ナイフ形石器	サヌカイト	33.5	21.5	6.0	3.1	F-5,一括	
55	ナイフ形石器	サヌカイト	(29.5)	17.5	5.5	2.5	F-6,一括	
56	台形様石器	サヌカイト	19.5	20.0	6.5	1.5	G-5,一括	
57	台形様石器	サヌカイト	31.0	(34.5)	4.5	4.4	F-9,一括	
58	二次加工ある石器	サヌカイト	(45.5)	26.0	11.0	14.2	G-9,一括	
59	三稜尖頭器	サヌカイト	74.5	33.5	32.5	44.8	G-5,一括	
60	三稜尖頭器	サヌカイト	(35.5)	32.0	24.0	25.8	F-9,一括	
61	細刃器	黒耀石	15.0	8.0	2.0	0.2	F-9,一括	
62	細刃器	黒耀石	(8.0)	10.0	1.5	0.1	一括	

(2)石器

古池さん遺跡では、49点の石器が出土した。層位別では、第Ⅱ層から20点、第Ⅲ層から29点である。

石材別では、黒耀石が圧倒的に多く44点で、安山岩、サヌカイトが各2点、珪岩が1点であり、石材選択に偏りがみられる。器種別では、石鏃2点、石錐1点、楔形石器3点、二次加工ある石器6点、使用痕ある剥片9点、剥片・砕片25点、石核3点である。

しかし、今回は遺跡の縁辺部の調査であり、この在り方が遺跡の全容を表しているとは言えない。また、遺跡の中心部は、調査区の北東から湧水地（古池さん）の南側にある平坦地に位置するものと考えられる。このうち調査区の北東部については、すでに畑地造成等によって破壊されている。調査区内においても、厚い客土によって谷部は埋められている。この客土の中に、多量の遺物が混入されている。旧地形の復元のため、谷部に向かって一部掘り下げを行い遺物を採集した。これらの資料も、黒耀石製の石器類が多くみられることから、当該遺跡においては高い比率で黒耀石が選択され、利用されていたと考えられる。　この他、客土の中から先土器時代の遺物も採集されている（第26図53～62）。

器種は、ナイフ形石器3点、台形様石器2点、三稜尖頭器2点、二次加工ある石器1点、細刃器2点である。石材は、細刃器を除いてすべてサヌカイト製である。これらの資料の存在は、当該遺跡が先土器時代から生活の場として利用されていたことを示している。

第４節　まとめ

今回調査を行なった古池さん遺跡は、湧水地（古池さん）の南西に位置する小平坦地に営まれた遺跡である。南側には、俵山から連なる山塊が迫る北から西に向けて開けた地形である。従来この地は、押型文土器、撚糸文土器、曽畑式土器、轟式土器等の土器や、多くの石器類が採集されることで知られていた。

しかし、遺跡の中心部のうち北側については、すでに畑地造成等により破壊されているため、遺跡の全容については不明である。

今回の調査区は遺跡の縁辺部に位置している。調査区内の地形は、畑地造成等が行なわれたため旧地形とは大きく異なっているが、一部で旧地表面まで客土を取り除き旧地形の復元を試みた。その結果、調査区西側から深く谷部が湾入し、頂部はＦ－７区まで達している。

遺物が検出されたのは、この谷部に沿ってわずかに残った平坦面からで、全部で 266点出土した。その内訳は、土器 217点、石器49点である。出土層位は、第Ⅱ～Ⅲ層であり、その大半は第Ⅲ層から出土している。分布の在り方は、前述したように谷部に沿った狭い平坦面のほぼ全域にみられる。第Ⅲ層から出土した押型文土器は、大きく３ケ所の集中部が認められる（第18図）。この傾向は、第Ⅱ、Ⅲ層の石器の分布にも認められる（第19図、第20図）。しかし、押型文土器の接合関係は、少なく１例確認されたにすぎない。検出された押型文土器を文様別にみると、楕円文67点、山形文76点、格子目文 8点で、楕円文と山形文で全体の94.7％を占める。また部位別では、口縁部19.9％、胴部78.1％、胴部～底部 5.3％で胴部の資料が大半を占めている。器形は各部位の特徴の共通性から、口縁部が直口するかやや外反し胴部は小さく膨らみ窄まりながら底部に至る。底部は、出土した資料すべて平底である。これらの資料は、口縁部の観察から内器面に原体条痕と外器面と同種の文様を施文するものと、内器面はナデ調整を施し無文のまま残置するものとがある。数量的には、前者の資料が圧倒的に多い。施文される原体条痕は、比較的短く１～２㎝のものが圧倒的に多い。原体条痕が、４㎝を測り長大になるものは第12図18の格子目文施文の土器のみである。これらの特徴から、編年的位置付けを行なう。縄文時代早期の押型文土器については、菊池郡旭志村無田原遺跡の報告で編年が試みられ、熊本県を含む中九州西部では、稲荷山式→早水台式→下管生Ｂ式→沈目式→石清水式となる変遷観が示されている（木﨑1995）。古池さん遺跡で検出された土器では、内器面が原体条痕、押型文横位施文がそれぞれ単独で施文されている資料はみられない。このことから当該遺跡では、沈目式土器は検出されていないことになる。口縁部の形態から、早水台式、下管生Ｂ式、田村式に該当することが予想される。この様相は、大津町瀬田裏遺跡（緒方1992）、同中後迫遺跡（松村・勢田・瀬丸1978）と類似している。また、当該遺跡で採集された注口土器は、胴部屈曲部の破片で注口部をもつ（第16図89）。類似した資料が瀬田裏遺跡からも多量に検出されている。このことから、瀬田裏遺跡と同時期に営まれた遺跡であることが理解できる。

第Ⅱ層から検出された土器は、数量的には少ないが縄文時代前期～晩期に属する資料がみられ、従来認識されていた時期幅より存続期間は長い。

※　参考文献

坂田義廣　1993『西原の文化財を語る』
緒方　勉　1992『瀬田裏遺跡調査報告』Ⅱ
大津町教育委員会瀬田裏遺跡調査団
松村道博・勢田広行・瀬丸敬二
1978『中後迫遺跡調査報告書』
中後迫遺跡調査団
木﨑康弘　1995『無田原遺跡』 熊本県教育委員会

古池さん北遺跡

第Ⅳ章　古池さん北遺跡

第１節　調査の方法と経過

当該地点での熊本高森線改良工事は、現道の北側に新設される計画である。この工事により、現道西側の小平坦地に立地する古池さん北遺跡の北側縁辺部がかかることになる。試掘調査の結果、後期の土器片や石鏃、剥片類が検出された。このため、約600㎡の発掘調査を実施した。

また、古池さん遺跡とは、西側の谷を隔てて対峙している。湧水地（古池さん）からの距離は、約150mである。

調査区が狭いため、任意に５×５ｍのグリッドを設定した。

このようにして設定したグリッド軸を、西から東へＡ～Ｆ、北から南へ１～２として調査を実施した。

調査の手順と方法は、以下のとおりである。

調査は、遺構と遺物の検出を中心に実施した。

遺構は、平面形の確認を行なった後に、土層観察のため土手を残し掘り下げた。その観察後、土手を取り除いて全体像を確認する。その間に作成される資料には、1/10、1/20に縮尺して作る平面図、土層断面図、断面図などがある。

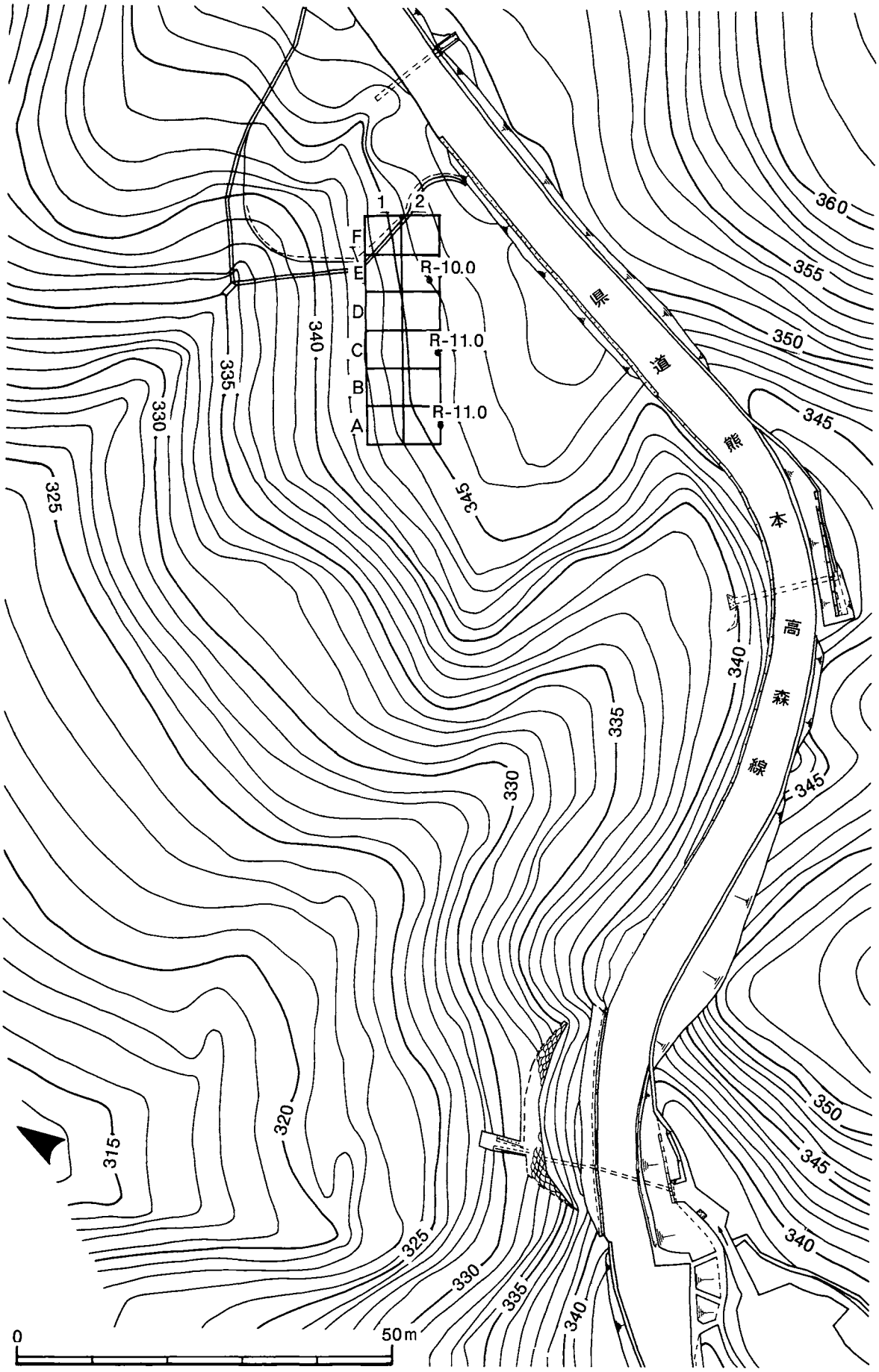
遺物の検出は、上記した遺構調査の完了後に実施した。検出遺物は、グリッド別、基本土層別、遺物の種類別に、台帳を作り遺物番号を付した。この台帳に記載する事項には、土器型式、文様、石器器種、石材などがある。

こうした発掘作業のほかに、関連調査として周辺に分布する遺跡の所在確認調査を行なった。その成果は、第Ⅰ章第３節歴史的環境の項に示している。

調査の経過については、第11表のとおりである。

第11表　調査工程表

月	2	3
調査内容	表土除去作業 清掃作業 杭打ち １号集石遺構調査 Ⅱ層の掘り下げ ２号集石遺構調査 住居址の調査 Ⅲ層の掘り下げ Ⅳ層の掘り下げ	
備考	・切り株の除去 ・Ｆ区の撹乱部分の除去 ・ＡＢＣ区の掘り下げ ・集石遺構検出 ・ＤＥＦ区の掘り下げ	・住居址を検出 ・25日調査終了



第27図　グリッド配置図

第２節　層位と包含層

今回調査を実施した箇所は、現況では山林となっていた地点で、調査前に伐採が行なわれ搬出されていた。その際、搬出のため大型の車両が進入し、地表面に大きな凹凸がみられた。そのため、一部では第Ⅱ層が露出している部分もみられた。

遺跡の範囲は、現道西側から調査区までの小平坦地であり、大半は現道と新道に挟まれて残ることになる。古池さん北遺跡では、黄褐色粘質土層を第Ⅴ層として、５枚の土層が確認された。

以下、各層ごとに説明を行なう。

第Ⅰ層　表土層（耕作土）

第Ⅱ層　暗黄褐色土層

アカホヤ火山灰を含む土層である。粒子は細かくサラサラでしまりがない。層厚は、約20～40cmである。Ⅲ層と比べて色調的にはやや暗い。縄文時代後～晩期と弥生時代後期の包含層である。

第Ⅲ層　黄褐色土層

アカホヤ火山灰である。粒子は細かくⅡ層に比べてやや粘性をおびる。層厚は、30～40cmである。遺物は、検出されなかった。

第Ⅳ層　暗褐色土層

この層は、粒子は細かくやや粘性をおび、しまりのある土質である。層厚は、約30～45cmである。

縄文時代早期の包含層である。

第Ⅴ層　黄褐色粘質土層

ソフトロームに相当する土層である。小平坦地の縁辺部にあたるためか、層上部に大小の礫を含んでいる。わずかに掘り下げを行なったが、遺物は検出されなかった。

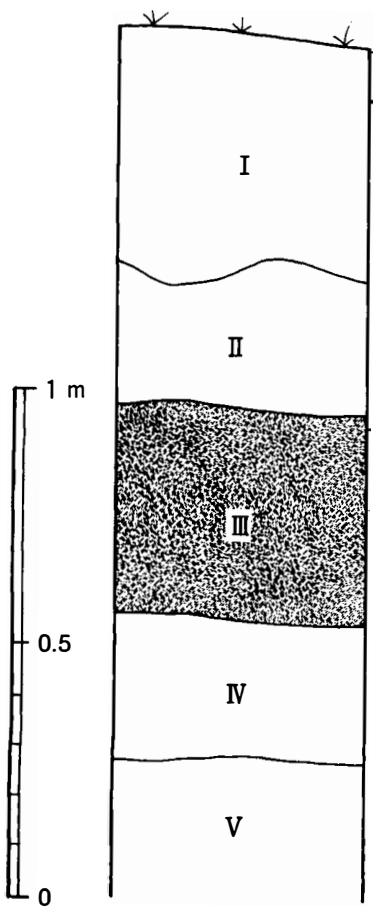
古池さん北遺跡の基本土層は、以上のとおりである。

また、この基本土層を今回調査を行なった打砕遺跡、古池さん遺跡と比較すると、打砕遺跡でアカホヤ火山灰層と表土の間に堆積している黒褐色土、暗褐色土が、古池さん遺跡、古池さん北遺跡では、認められない。このことは、遺跡の立地する平坦地が狭く、南東側に俵山から連なる山塊が迫る地形的な特徴のためであると予想される。

そのため、打砕遺跡と比べ古池さん遺跡や古池さん北遺跡では、全体的に土層の堆積が薄い。

さらに、古池さん北遺跡は、古池さん遺跡より土層の堆積が薄い。このことは、立地する平坦面がより狭く、山塊と谷に囲まれた地形によると思われる。

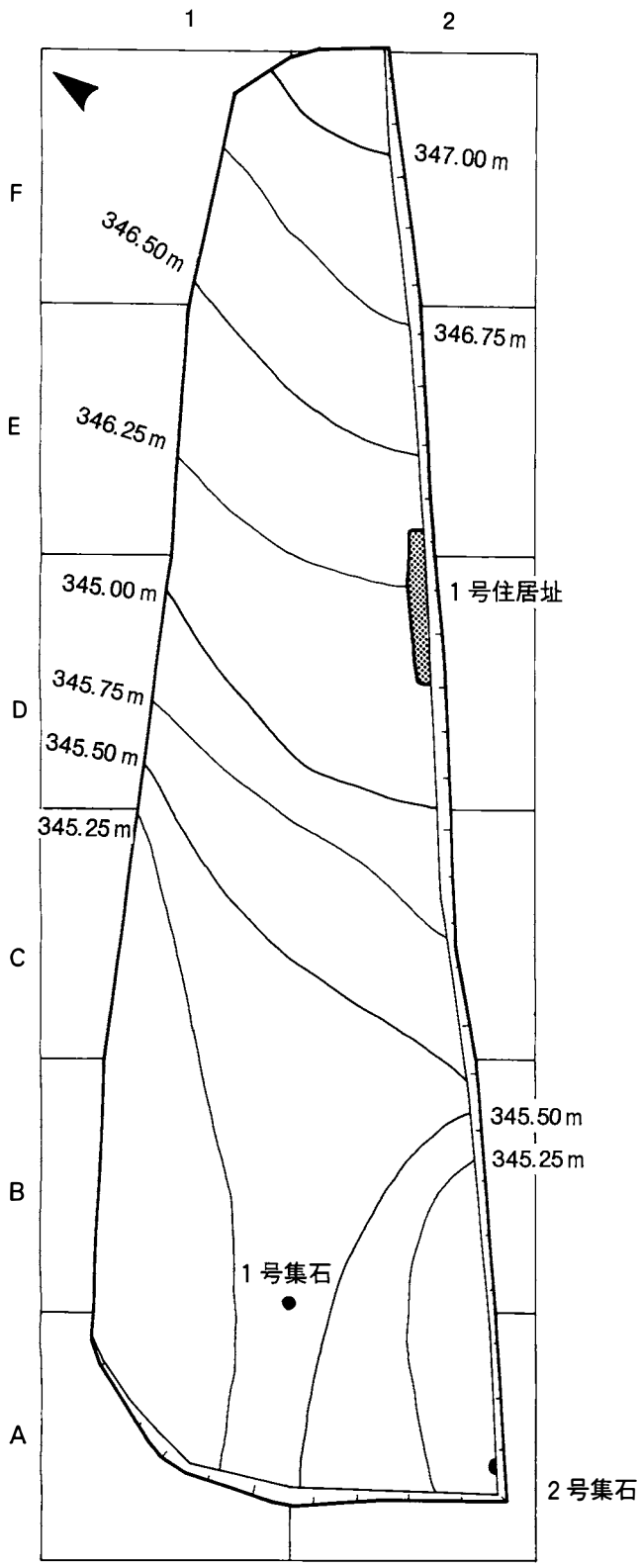
また、古池さん北遺跡は、湧水地（古池さん）から北に約 150mと近接した位置にある。



第28図　基本土層図

第３節　調査の成果

１．遺構について



第29図　遺構分布図

古池さん北遺跡では、集石遺構２基と住居址１基が検出された。その分布は、集石遺構が、調査区の南西部で比較的近接して検出されている。

これらの遺構は、第Ⅳ層中から検出されていることから縄文時代早期に属するものと考えられる。

住居址は、Ｄ、Ｅ－２区で検出され、遺構の大半は調査区南側の遺跡中心部が存在する調査区外に残る。遺構は、第Ⅱ層から掘り込まれ、覆土から磨消縄文施文の胴部破片が検出されていることから、縄文時代後期に属する可能性が高い。

以下、検出された遺構ごとに説明を行なう。

１号集石遺構（第30図）

１号集石遺構は、Ｂ－１、２区の南西隅に位置している。遺構は、確認段階では10～15cmの破砕礫が、短軸 1.5m、長軸 2mの範囲に集中して検出された。これらの礫は、火を受けて赤化しているものも認められた。

また、この礫を取り除くと下部に30cm前後の大型の扁平礫29個が検出された。これらの礫は、上層で検出された小型の礫に比べ、強く火を受けたと思われひび割れがあり、取り上げの段階でボロボロと割れる状態であった。

土坑は、不整の円形で直径 2.1mで、深さは礫の上面から測って40cmである。

覆土は、黒褐色で焼土を含み上部より下部で多くなる。

２号集石遺構（第31図）

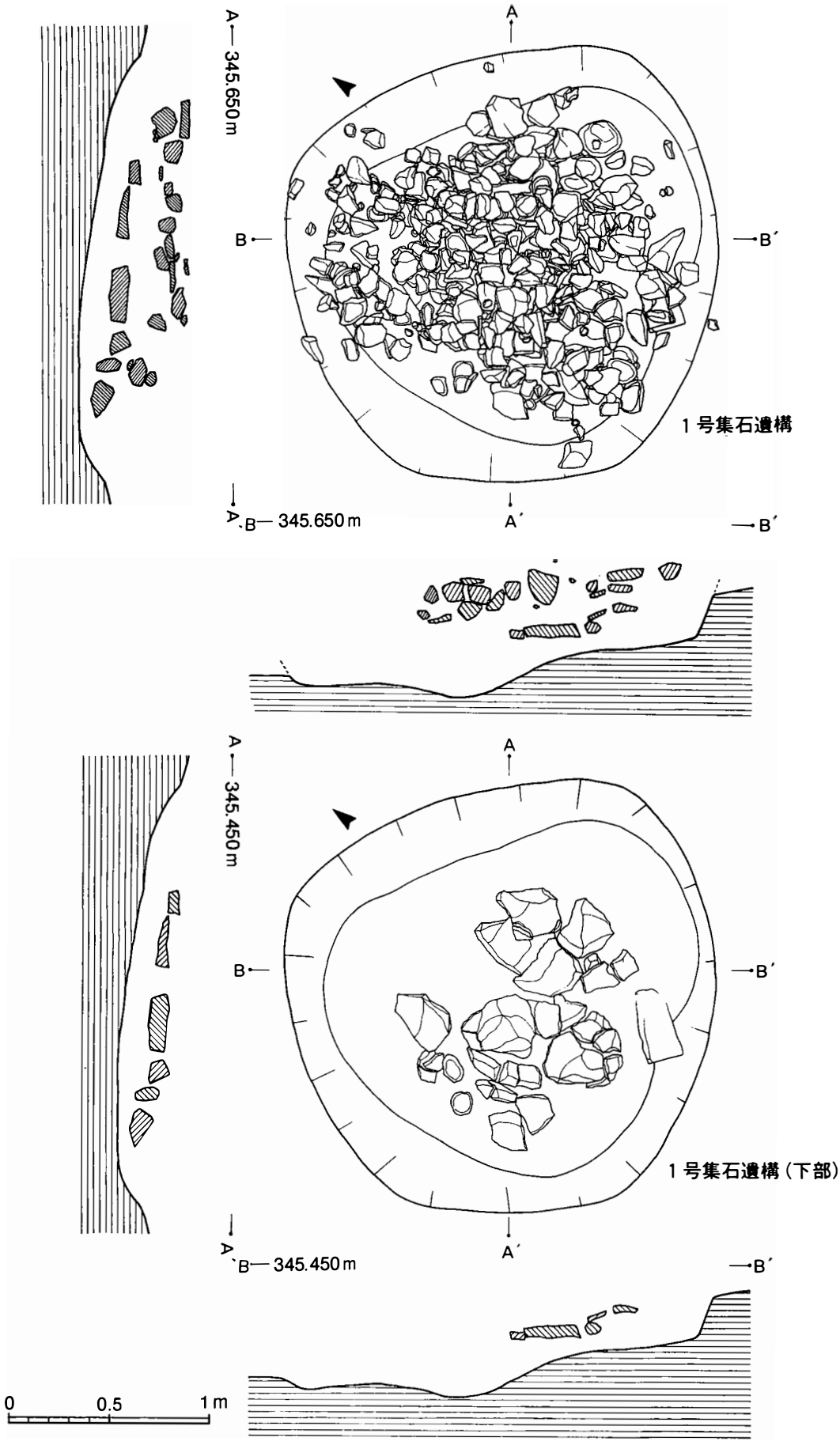
２号集石遺構は、Ａ－２区の調査区南隅で検出された。遺構の1/2は、調査区外に残る。

構成礫は、10～20cmの破砕礫や扁平礫である。

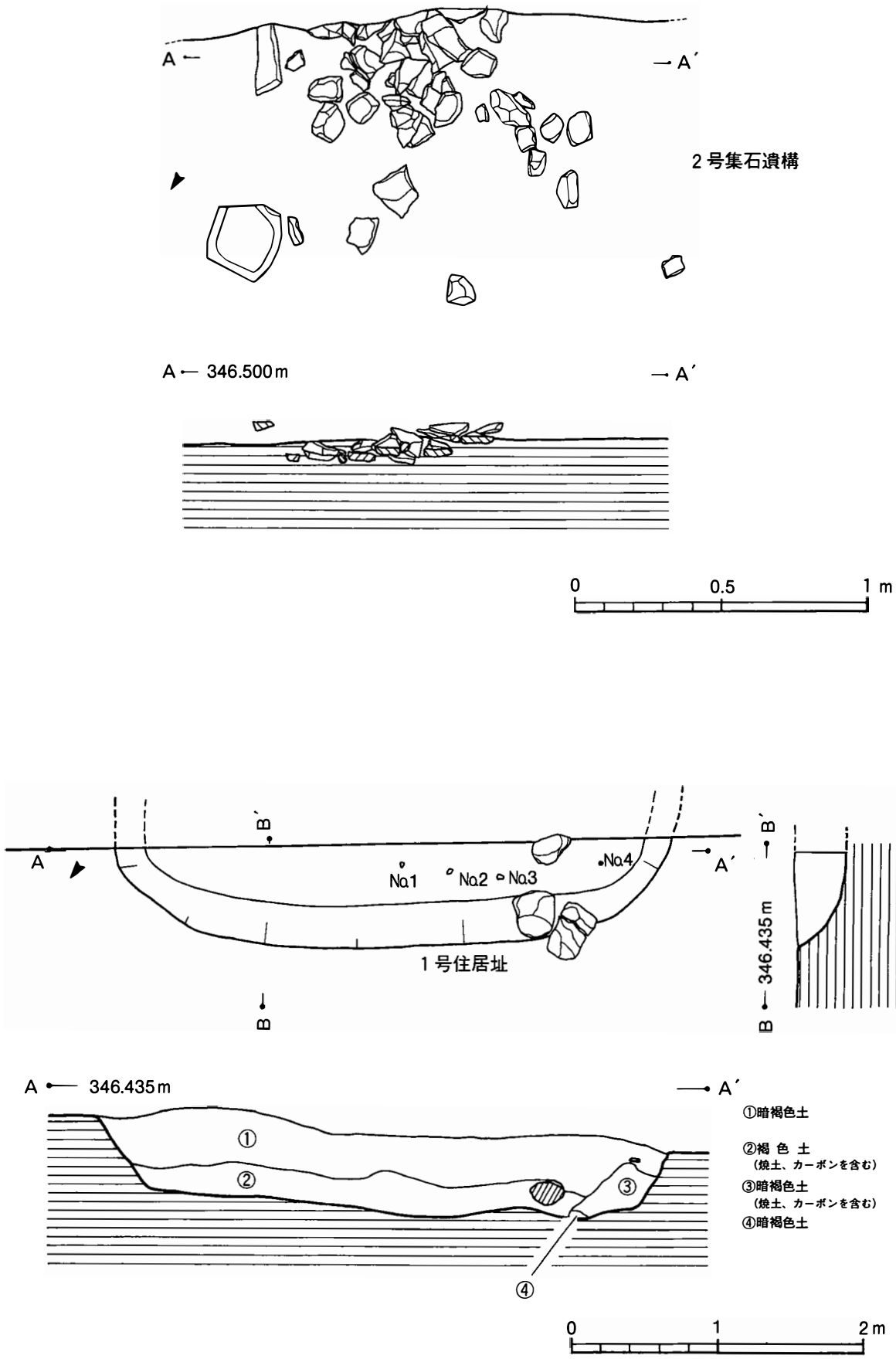
土坑の掘り込みは、確認されなかった。

１号住居址（第31図）

１号住居址は、Ｄ、Ｅ－２区で検出された。検出された遺構は、住居址の北西部の一部分で、全容は不明である。覆土中から検出された土器片から縄文時代後期に属すると考えられる。


A
A— 345.650m
B
B′
1号集石遺構
A′
A′B— 345.650m
B′
A
A— 345.450m
B
B′
1号集石遺構（下部）
A′
A′B— 345.450m
B′
0
0.5
1m

第30図　遺構実測図


A
A′
2号集石遺構
A 346.500m
A′
0
0.5
1 m
B′
A
No.1
No.2
No.3
No.4
A′
1号住居址
B
B′
B 346.435m
A 346.435m
A′
①
②
③
④
①暗褐色土
②褐 色 土
(焼土、カーボンを含む)
③暗褐色土
(焼土、カーボンを含む)
④暗褐色土
0
1
2m

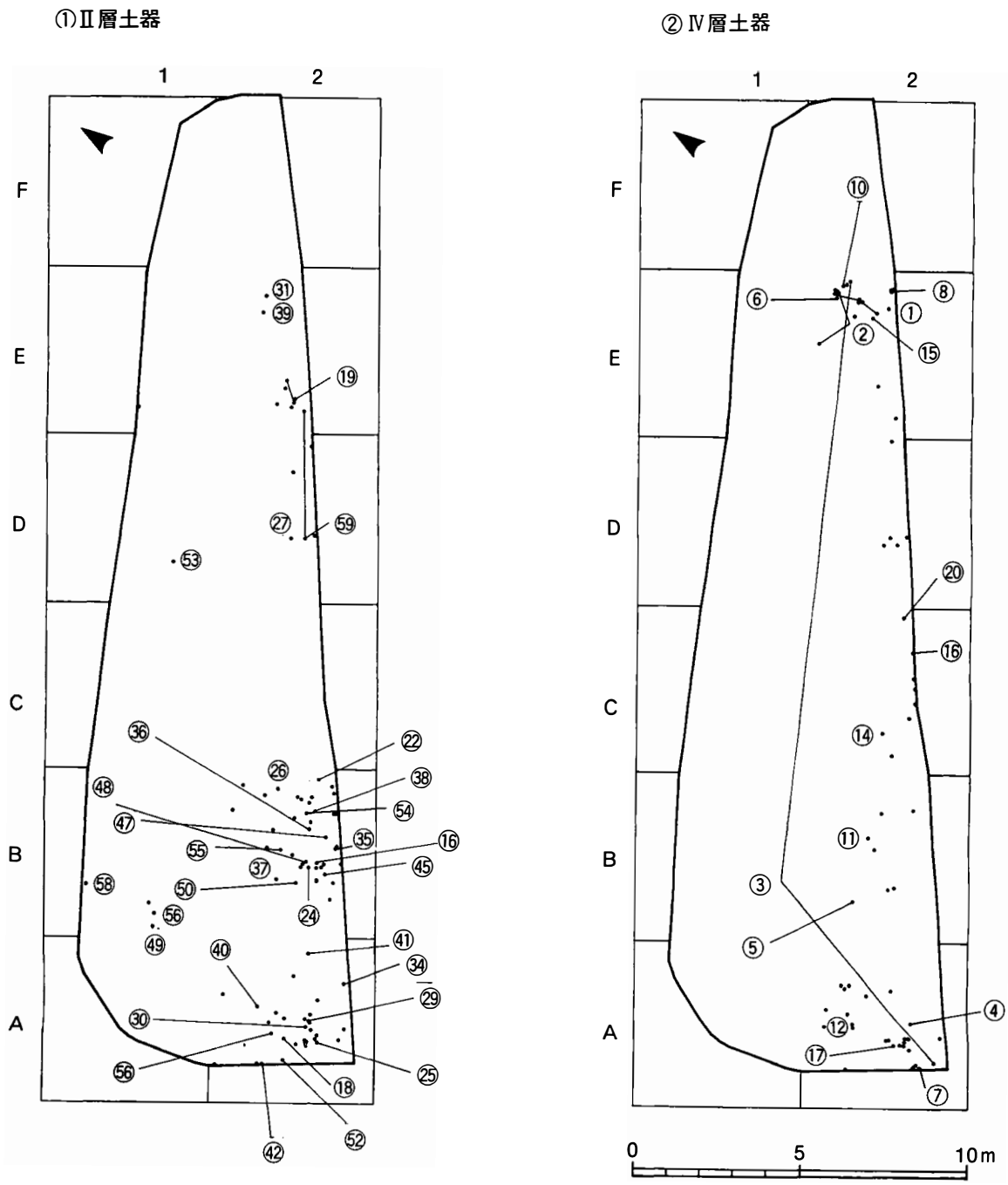
第31図　遺構実測図

2．遺物について

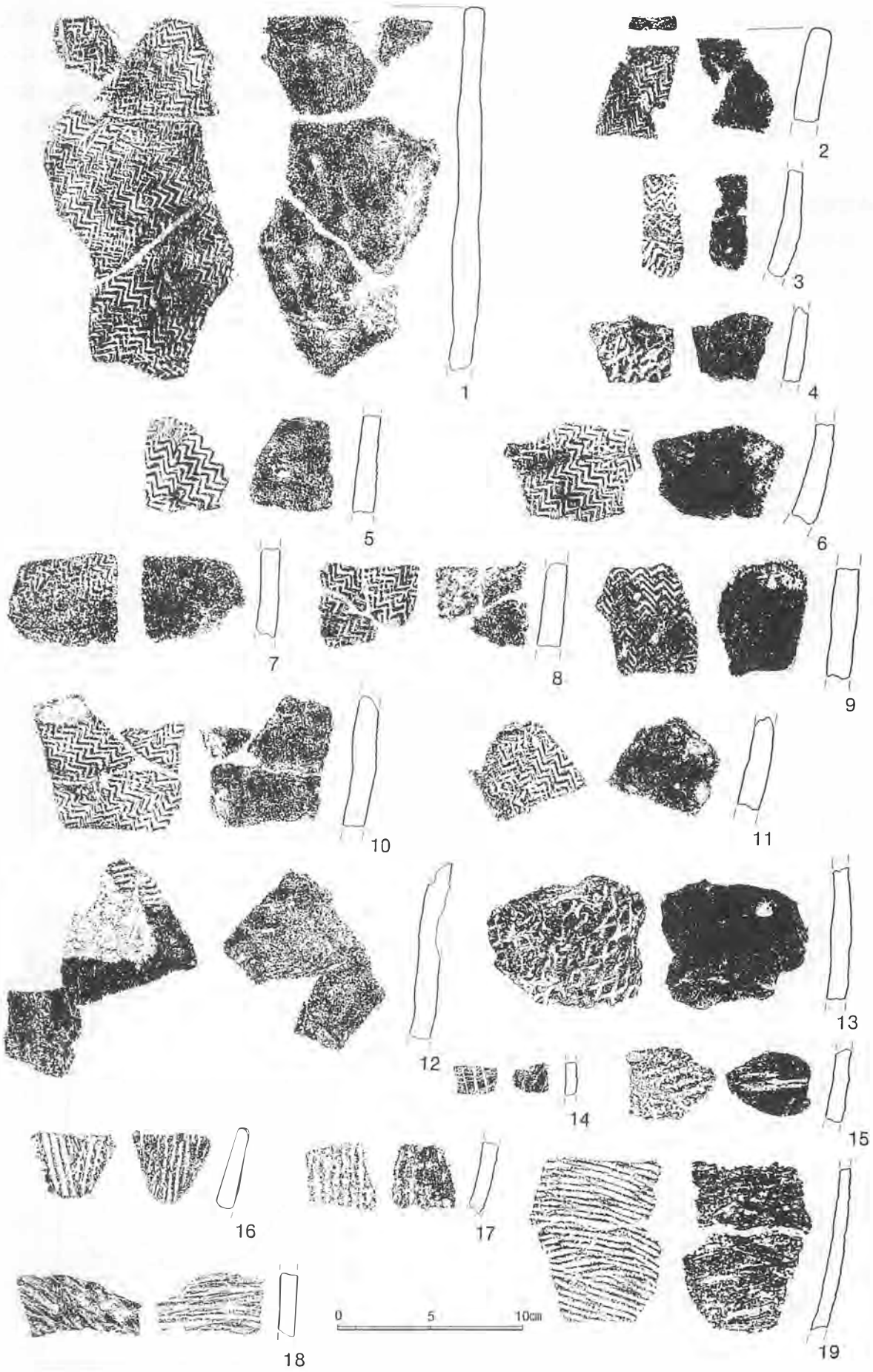
(1)土器

古池さん北遺跡では、全部で 172点の土器が出土した。出土層位別では、第Ⅱ層 102点、第Ⅳ層70点である。これらのうち、第Ⅱ層から出土した土器は、時期幅が長く曽畑式土器、阿高式系土器、三万田式土器等の縄文時代に属する土器や、刷毛目、ヘラ磨き等の調整痕のみられる土師器がある。

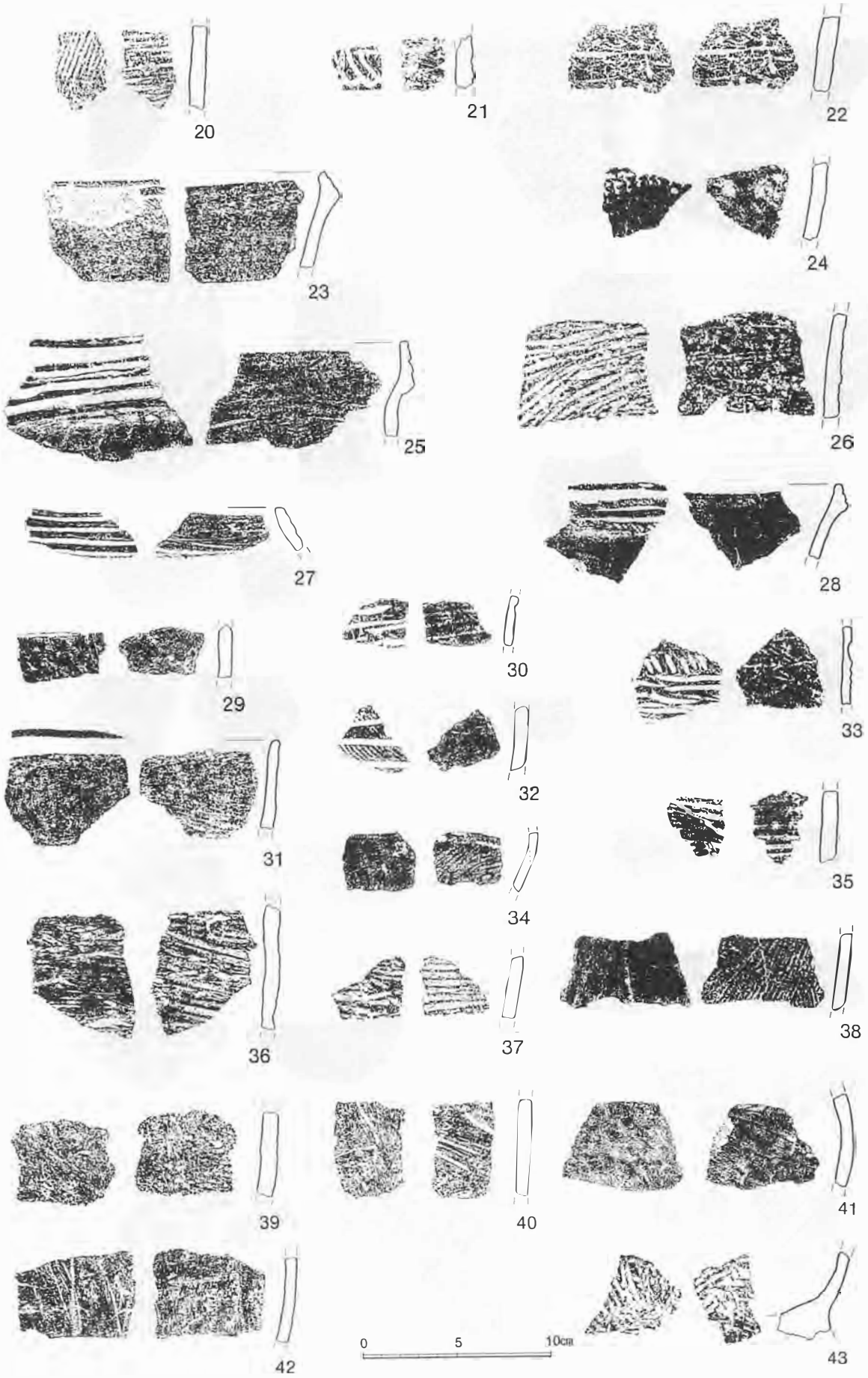
また、第Ⅳ層からは、押型文土器、中原西原式（円筒形条痕文）土器等が出土している。これらの分布では、第Ⅱ層が調査区南西部のＡ、Ｂ区に集中する傾向がみられ、第Ⅳ層は調査区のほぼ全域から出土するがＡ－２区、Ｅ－２区に集中部がみられる（第32図）。



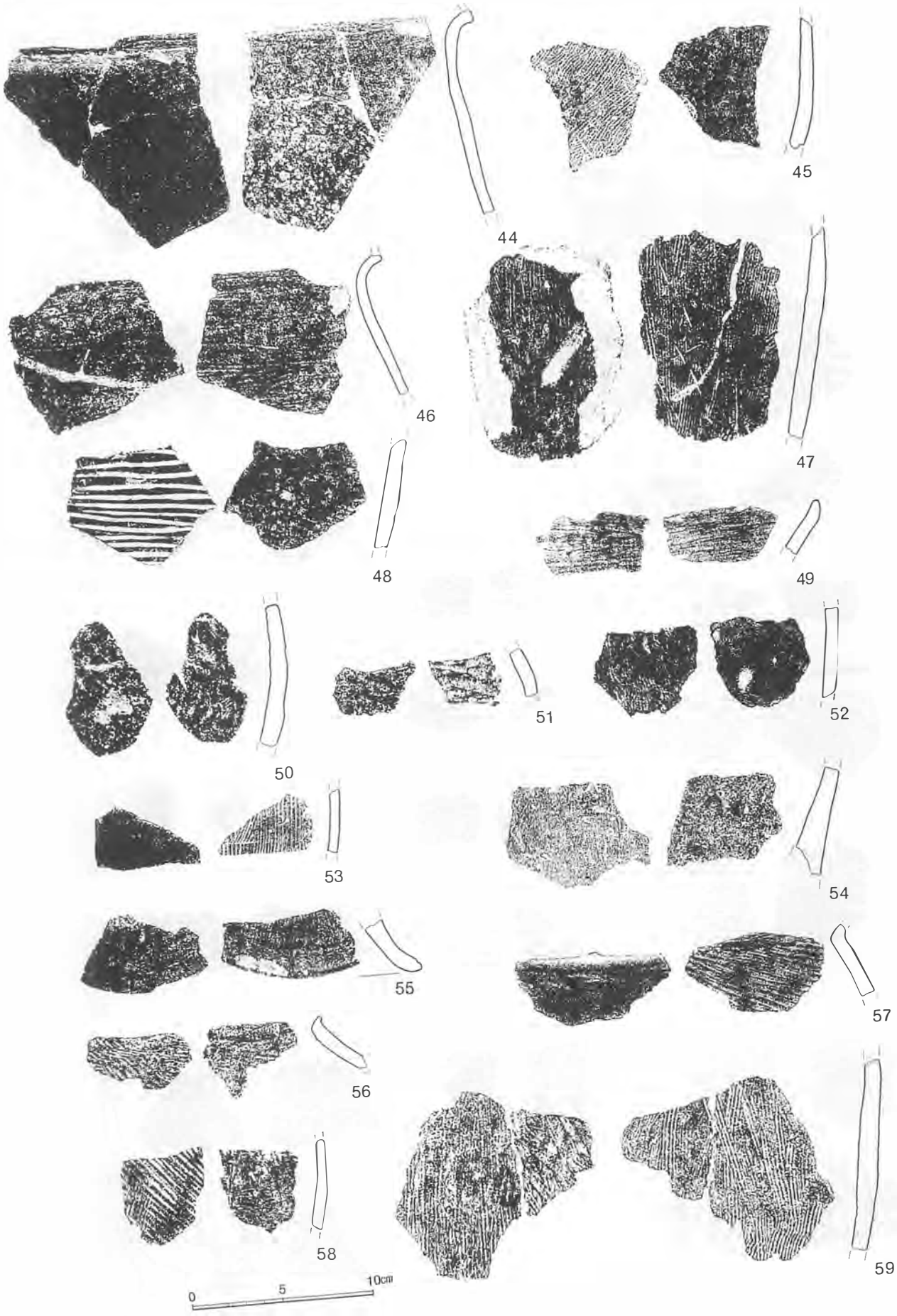
第32図　遺物分布図



第33図　遺物実測図


20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
0
5
10cm

第34図　遺物実測図



第35図　遺物実測図

第12表　遺物観察表

番号	グリッド	層位	器　種	部　位	色　　調	胎　　土	調　整・文　様		焼　成
							外器面	内器面	
1	E－2	Ⅳ	深鉢	口縁部～胴部	(外)暗黄橙色6/4, 10YR (内)暗黄橙色7/3, 10YR	砂粒，角セン石を多く含む	山形文	ナデ	良　好
2	E－2	Ⅳ	深鉢	口縁部	(外)暗橙色6/4, 7.5YR (内)暗黄橙色7/4, 10YR	砂粒，角セン石を少量含む	山形文	ナデ	良　好
3	E－2	Ⅳ	深鉢	胴部	(外)橙色6/6, 7.5YR (内)灰褐色6/2, 7.5YR	1㎜以下の砂粒を多く含む	山形文	ナデ	良　好
4	A－2	Ⅱ	深鉢	胴部	(外)橙色6/8, 7.5YR (内)橙色6/6, 7.5YR	1～4㎜程度の石英粒を多く含む	山形文	ナデ	良　好
5	B－2	Ⅳ	深鉢	胴部	(外)橙色6/6, 5YR (内)暗褐色6/3, 7.5YR	1㎜以下の砂粒，角セン石を多く含む	山形文	ナデ	良　好
6	E－2	Ⅳ	深鉢	胴部	(外)暗橙色6/4, 7.5YR (内)暗黄橙色6/3, 10YR	1㎜以下の砂粒，角セン石を多く含む	山形文	ナデ	良　好
7	A－2	Ⅳ	深鉢	胴部	(外)橙色7/6, 7.5YR (内)暗黄橙色7/4, 10YR	1㎜以下の砂粒，角セン石を多く含む	山形文	ナデ	良　好
8	E－2	Ⅳ	深鉢	胴部	(外)暗黄橙色6/3, 10YR (内)暗黄橙色6/4, 10YR	1㎜以下の砂粒，角セン石を多く含む	山形文	ナデ	良　好
9	A－2	2号集石	深鉢	胴部	(外)暗黄橙色6/3, 10YR (内)暗黄橙色6/3, 10YR	1～2㎜の砂粒，長石，角セン石を多く含む	山形文	ナデ	良　好
10	E－2	Ⅳ	深鉢	胴部	(外)橙色6/6, 5YR (内)暗黄橙色6/4, 10YR	1㎜以下の砂粒，角セン石を多く含む	山形文	ナデ	良　好
11	B－2	Ⅳ	深鉢	胴部	(外)暗橙色7/4, 7.5YR (内)暗橙色6/4, 7.5YR	1㎜以下の砂粒，角セン石を多く含む	山形文	ナデ	良　好
12	A－2	Ⅳ	深鉢	胴部	(外)明赤褐色5/8, 5YR (内)褐灰色4/1, 7.5YR	1～3㎜の砂粒，長石を多く含む	楕円文	ナデ	良　好
13	A－2	2号集石	深鉢	胴部	(外)灰褐色4/2, 7.5YR (内)褐灰色4/1, 7.5YR	1㎜以下の砂粒，角セン石を含む	条線文 ナデ	ナデ	良　好
14	D－1	Ⅳ	深鉢	胴部	(外)暗橙色6/4, 7.5YR (内)暗褐色5/4, 7.5YR	細かい砂粒，角セン石を少量含む	撚糸文 沈線文	ナデ	良　好
15	E－2	Ⅳ	深鉢	胴部	(外)赤褐色4/6, 5YR (内)暗赤褐色3/3, 5YR	砂粒，石英，角セン石を多く含む	縄文	ナデ	良　好
16	B－2	Ⅱ	深鉢	胴部	(外)赤褐色4/6, 5YR (内)暗赤褐色4/3, 5YR	砂粒，石英，角セン石を多く含む	ナデ	ナデ	良　好
17	C－2	Ⅳ	深鉢	口縁部	(外)褐色4/3, 7.5YR (内)暗褐色5/4, 7.5YR	砂粒，長石，角セン石を少量含む	沈線文	条痕文	良　好
18	A－2	Ⅱ	深鉢	胴部	(外)暗橙色6/4, 7.5YR (内)明赤褐色5/6, 5YR	砂粒，長石，石英を多く含む	縄文	ナデ	良　好
19	E－2	Ⅳ	深鉢	胴部	(外)暗黄橙色6/4, 10YR (内)暗橙色7/4, 7.5YR	砂粒，長石，石英を多く含む	縄文	ナデ	良　好
20	C－2	Ⅳ	深鉢	胴部	(外)暗赤褐色5/4, 5YR (内)褐灰色4/1, 5YR	砂粒，長石，石英，角セン石を含む	条線文	条痕文	良　好

第13表　遺物観察表

番号	グリッド	層位	器　種	部　位	色　　調	胎　　土	調　整・文　様		焼　成
							外器面	内器面	
21	B－2	Ⅱ	深鉢	胴部	(外)暗黄橙色6/3, 10YR (内)暗黄橙色6/3, 10YR	1～2mmの砂粒，長石，石英，雲母を含む	沈線文	ナデ	良　好
22	B－2	Ⅱ	深鉢	胴部	(外)明褐色5/6, 7.5YR (内)赤褐色4/6, 5YR	砂粒，角セン石を多く含む	沈線文	ナデ	良　好
23	D－2 E－2	1号住居址	深鉢	口縁部	(外)褐灰色5/1, 7.5YR (内)暗黄褐色5/3, 10YR	微細な砂粒を含む	磨消縄文	ナデ	良　好
24	B－2	Ⅱ	深鉢	胴部	(外)橙色6/6, 7.5YR (内)暗褐色5/4, 7.5YR	砂粒,長石,石英,角セン石を多く含む	刺突文	ナデ	良　好
25	A－2	Ⅱ	深鉢	口縁部	(外)褐色4/6, 7.5YR (内)褐色4/6, 7.5YR	1～2mmの砂粒，長石，石英，雲母を含む	沈線文 ナデ	ナデ	良　好
26	B－2	Ⅱ	深鉢	胴部	(外)暗黄橙色7/4, 10YR (内)灰黄褐色6/2, 10YR	砂粒，長石，角セン石を含む	条痕文	ナデ	良　好
27	A－2	Ⅳ	深鉢	胴部	(外)黒色2/1, 10YR (内)暗黄褐色5/3, 10YR	1mm以下の砂粒を含む	沈線文 ナデ	ナデ	良　好
28	A－2	一括	深鉢	口縁部	(外)灰黄褐色5/2, 10YR (内)褐灰色4/1, 10YR	1mm以下の砂粒を含む	磨消縄文	ナデ	良　好
29	A－2	Ⅱ	深鉢	胴部	(外)灰褐色6/2, 7.5YR (内)褐灰色4/1, 7.5YR	微細な石英，角セン石を多く含む	ナデ	ナデ	良　好
30	A－2	Ⅱ	深鉢	胴部	(外)暗黄褐色5/3, 10YR (内)灰黄褐色4/2, 10YR	砂粒，長石，石英を含む	沈線文	ナデ	良　好
31	E－2	Ⅳ	深鉢	口縁部	(外)暗橙色6/4, 7.5YR (内)褐色4/3, 7.5YR	砂粒，角セン石を多く含む	ナデ	ナデ	良　好
32	D－2 E－2	1号住居址	深鉢	胴部	(外)暗褐色5/4, 7.　R (内)明褐色5/6, 7.5YR	微細な砂粒，角セン石を含む	磨消縄文	ナデ	良　好
33	A－2	Ⅱ	深鉢	胴部	(外)黒褐色3/1, 10YR (内)灰黄褐色4/2, 10YR	砂粒，石英，角セン石を含む	沈線文	ナデ	良　好
34	A－2	Ⅱ	深鉢	胴部	(外)橙色6/6, 7.5YR (内)暗褐色5/4, 7.5YR	微細な砂粒を含む	ナデ	ナデ	良　好
35	B－2	Ⅱ	深鉢	胴部	(外)暗赤褐色4/4,　R (内)赤褐色4/6, 5YR	砂粒，長石，角セン石を含む	沈線文	ナデ	良　好
36	B－2	Ⅱ		胴部	(外)橙色6/6, 7.5YR (内)暗黄褐色5/3, 10YR	砂粒，角セン石を含む	粗い刷毛目	ヘラ削り	良　好
37	B－2	Ⅱ	深鉢	胴部	(外)暗褐色5/4, 7.5YR (内)暗褐色5/3, 7.5YR	砂粒，角セン石を含む	条痕文	条痕文	良　好
38	B－2	Ⅱ	深鉢	胴部	(外)褐灰色4/1, 7.5YR (内)黒褐色3/1, 7.5YR	砂粒，角セン石を含む	ナデ	ナデ	良　好
39	E－2	Ⅳ	深鉢	胴部	(外)橙色6/6, 7.5YR (内)褐色4/3, 7.　R	砂粒，角セン石を含む	ナデ	ナデ	良　好
40	A－2	Ⅳ	深鉢	胴部	(外)暗黄橙色6/4, 10YR (内)暗黄橙色6/4, 10YR	砂粒，長石を多く含む	ナデ	ナデ	良　好

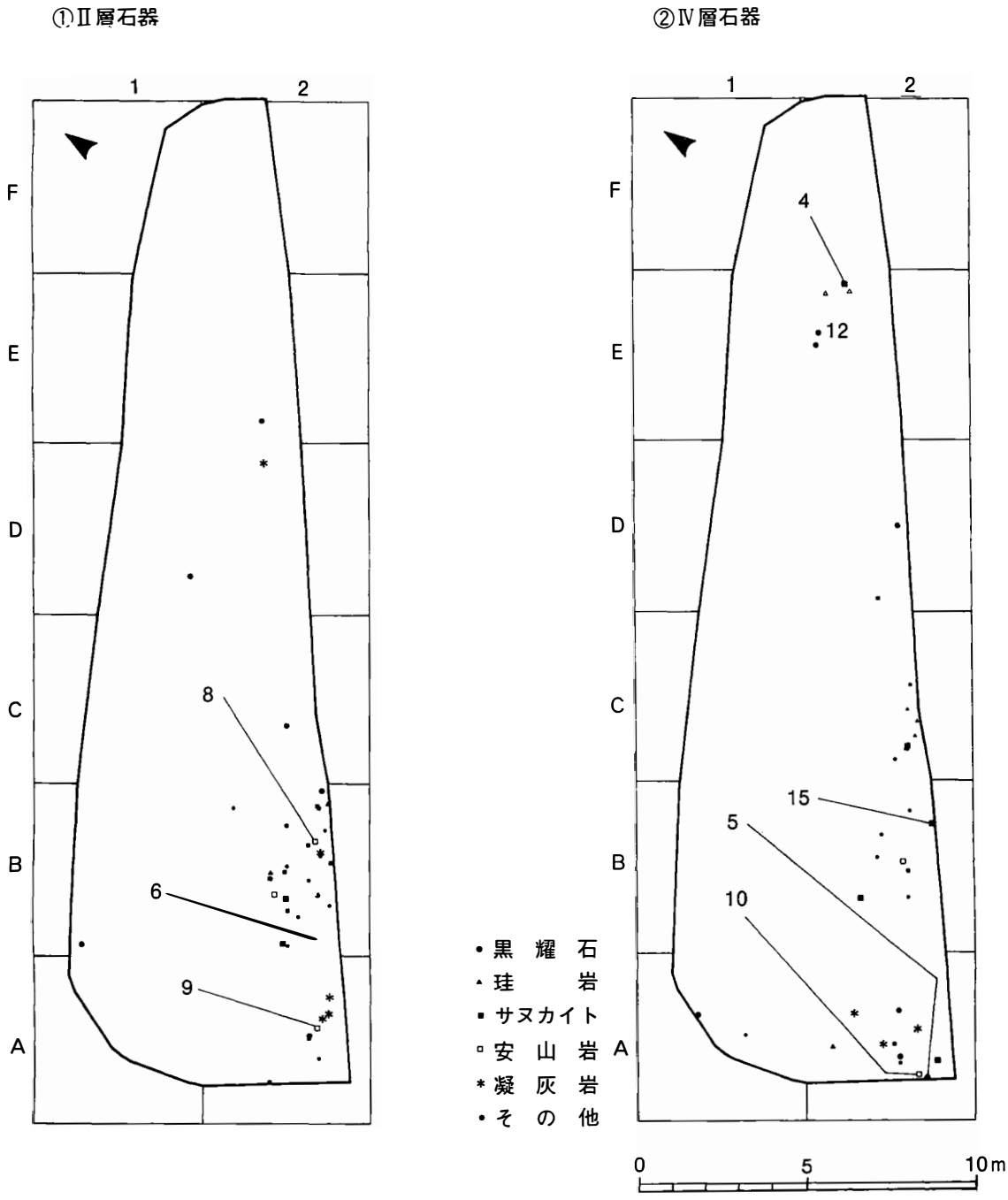
第14表　遺物観察表

番号	グリッド	層位	器種	部位	色調	胎土	調整・文様		焼成
							外器面	内器面	
41	A－2	Ⅱ		胴部	(外)暗橙色6/4, 7.5YR (内)褐灰色5/1, 7.5YR	砂粒，長石，石英，角セン石を含む	ナデ	ナデ	良好
42	A－2	Ⅱ		胴部	(外)橙色7/6, 7.5YR (内)暗橙色6/4, 7.5YR	砂粒，長石，角セン石を含む	ナデ	ナデ	良好
43	B－2	Ⅱ		胴部～底部	(外)明赤褐色5/8, 5YR (内)暗赤褐色4/3, 5YR	砂粒，角セン石を含む	ナデ	ナデ	良好
44	A－2	Ⅱ	鉢	口縁部～胴部	(外)暗黄褐色5/3, 10YR (内)暗黄橙色7/4, 10YR	微細な砂粒を多く含む	ヘラ磨き	ナデ	良好
45	B－2	Ⅱ		胴部	(外)橙色6/6, 7.5YR (内)暗橙色7/4, 7.5YR	微細な砂粒，長石，石英を多く含む	ナデ	刷毛目	良好
46	B－2	Ⅰ	鉢	口縁部～胴部	(外)暗黄橙色6/4, 10YR (内)灰黄褐色5/2, 10YR	砂粒，角セン石を多く含む	ヘラ磨き	ヘラ磨き	良好
47	D－1	Ⅱ		胴部	(外)橙色6/6, 7.5YR (内)橙色6/6, 7.5YR	砂粒，長石，石英を含む	刷毛目	刷毛目	良好
48	B－2	Ⅱ		胴部	(外)褐灰色4/1, 7.5YR (内)暗橙色6/4, 7.5YR	砂粒，石英，角セン石を多く含む	沈線文	ナデ 赤色顔料	良好
49	A－2	Ⅱ		口縁部	(外)橙色6/6, 7.5YR (内)明赤褐色5/6, 5YR	微細な砂粒，長石，角セン石を含む	ヘラ磨き 赤色顔料	ヘラ磨き	良好
50	B－2	Ⅳ		胴部	(外)暗黄褐色6/4, 10YR (内)暗褐色5/3, 7.5YR	砂粒，角セン石を含む	ナデ	ナデ	良好
51	D－2	Ⅱ		胴部	(外)橙色6/6, 7.5YR (内)灰褐色5/2, 7.5YR	砂粒，長石，石英，角セン石を多く含む	ナデ	ナデ	良好
52	A－2	Ⅱ		胴部	(外)暗褐色5/4, 7.5YR (内)灰褐色4/2, 7.5YR	砂粒，長石，石英，角セン石を多く含む	刷毛目	刷毛目	良好
53	D－1	Ⅱ		胴部	(外)暗赤褐色5/4, 5YR (内)赤褐色4/6, 5YR	砂粒，長石，石英を多く含む	刷毛目	刷毛目	良好
54	B－2	Ⅱ		胴部	(外)暗橙色6/4, 7.5YR (内)黒褐色3/1, 7.5YR	砂粒，長石，石英，角セン石を多く含む	ナデ	ナデ	良好
55	B－2	Ⅱ		脚	(外)暗黄橙色6/4, 10YR (内)橙色6/6, 7.5YR	砂粒，長石，角セン石を少量含む	刷毛目	ヘラ削り	良好
56	B－1	Ⅱ		胴部	(外)暗褐色5/4, 7.5YR (内)明褐色5/6, 7.5YR	砂粒，石英，角セン石を多く含む	ナデ	刷毛目	良好
57	A－2	Ⅱ		口縁部～胴部	(外)橙色6/6, 7.5YR (内)褐灰色4/1, 7.5YR	砂粒，角セン石を多く含む	ナデ	ナデ	良好
58	B－1	Ⅱ		胴部	(外)暗褐色6/3, 7.5YR (内)暗橙色6/4, 7.5YR	砂粒，石英，角セン石を多く含む	粗い刷毛目	ナデ	良好
59	D－2 E－2	Ⅳ		胴部	(外)橙色6/6, 7.5YR (内)灰褐色4/2, 7.5YR	砂粒，長石，石英を多く含む	刷毛目	刷毛目	良好

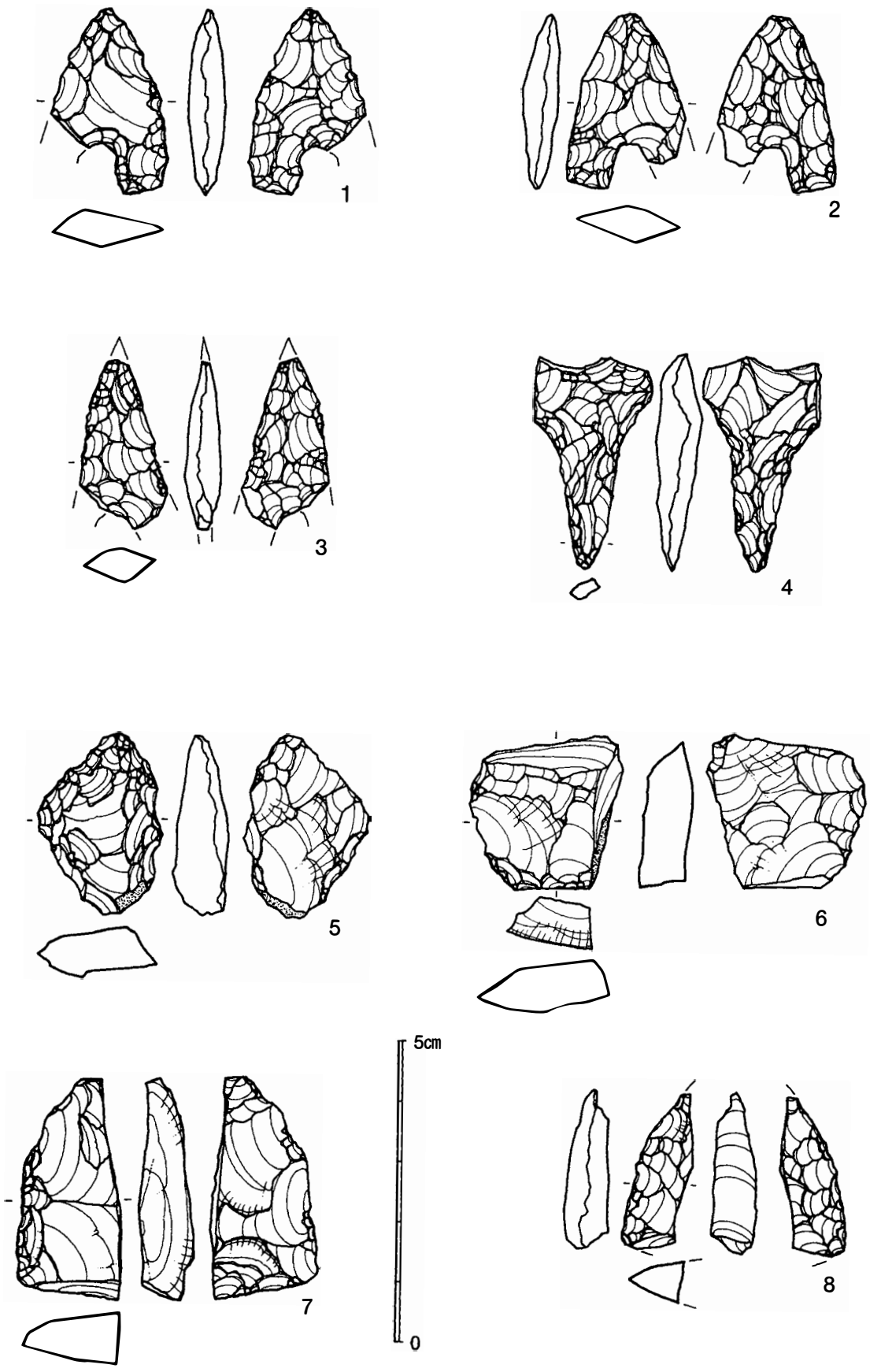
(2)石器

古池さん北遺跡では、全部で83点が出土した。出土層位別では、第Ⅱ層38点、第Ⅳ層45点である。さらに、出土した石器の器種別の内訳は、第Ⅱ層で石鏃 1点、スクレイパー 1点、楔形石器 3点、石皿 5点、二次加工のある石器 3点、原石 1点、剥片23点である。石材別では、黒耀石10点、珪岩 4点、安山岩 4点、サヌカイト12点、頁岩 2点、その他 6点である。

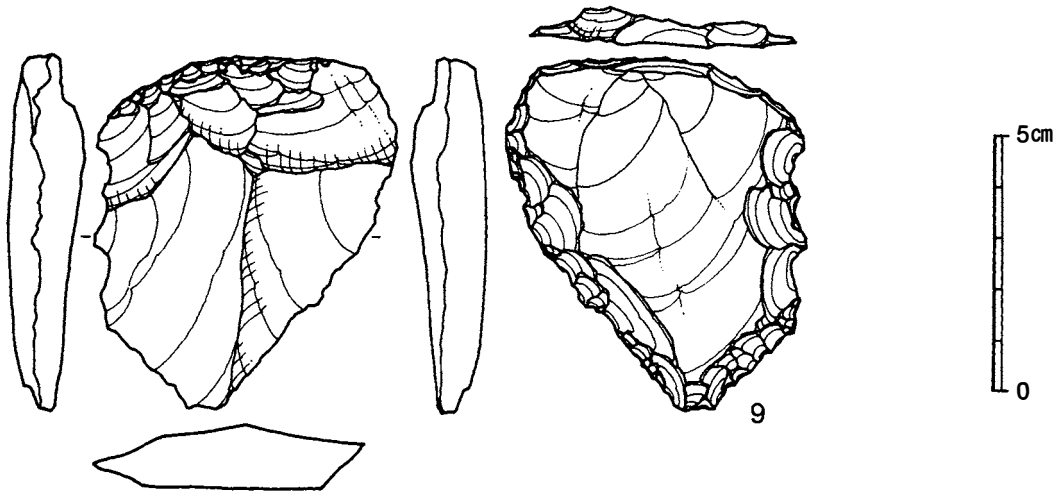
第Ⅳ層では、石鏃 2点、石錐 1点、抉入石器 1点、楔形石器 4点、石皿 2点、磨石 2点、二次加工ある石器 2点、使用痕ある剥片 2点、石核 1点、剥片27点である。石材別では、黒耀石17点、珪岩 7点、安山岩 3点、サヌカイト12点、頁岩 2点、その他 4点である。

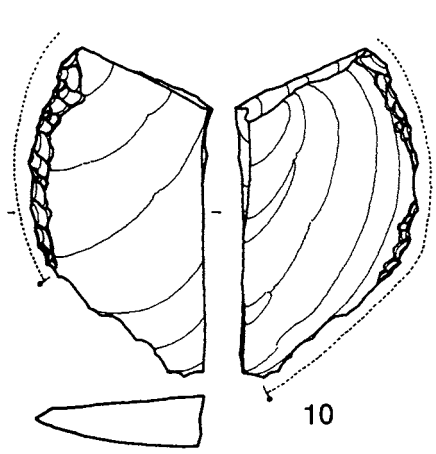


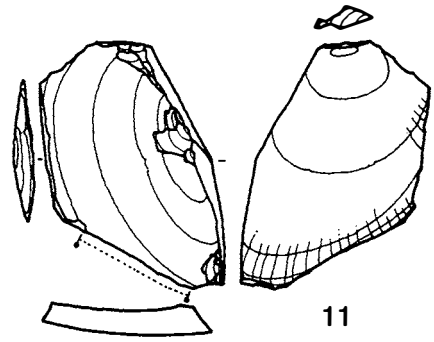
第36図　遺物分布図

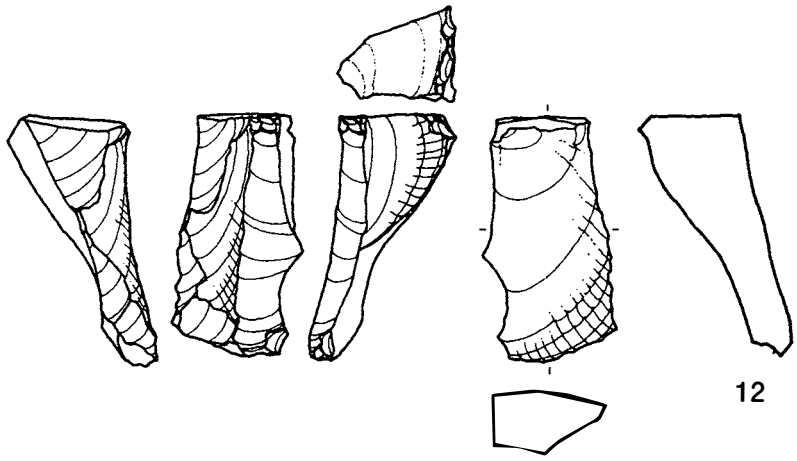


第37図　遺物実測図

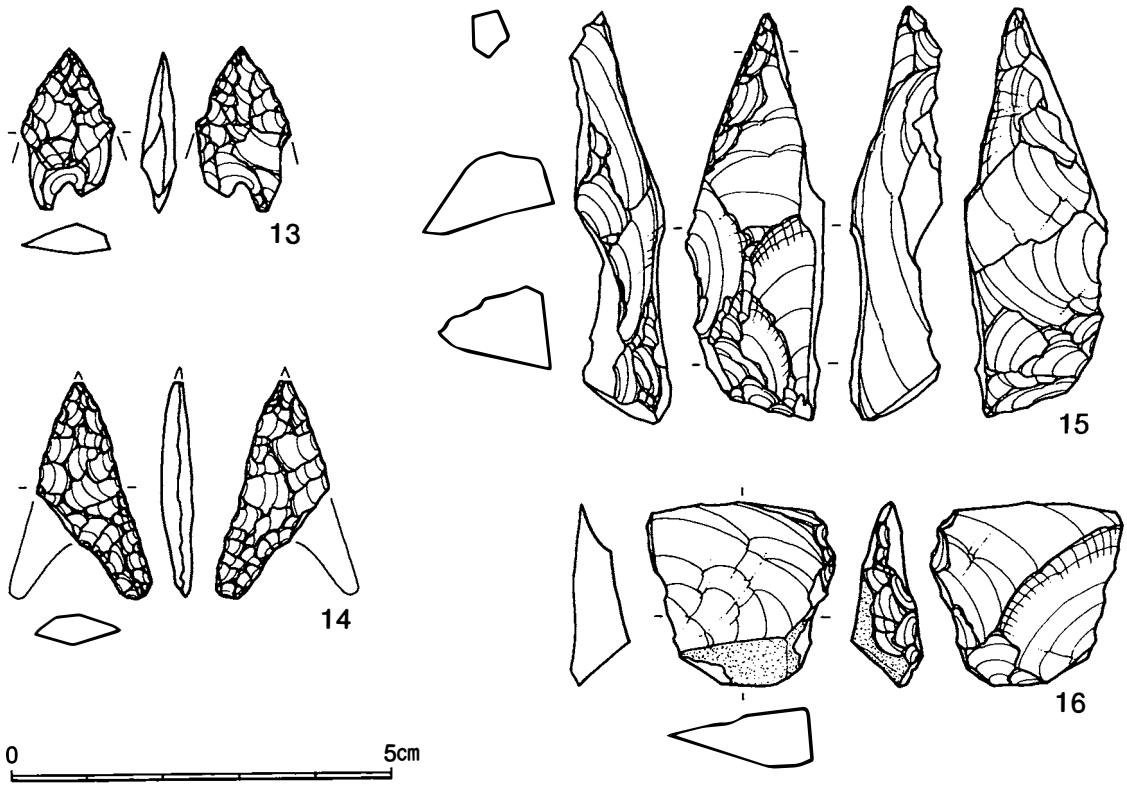








第38図　遺物実測図



第39図　遺物実測図

第15表　石器計測表

番号	器種	石材	計測値 長さ（mm）	幅（mm）	厚さ（mm）	重さ（g）	グリッド及び登録番号	備考
1	石鏃	サヌカイト	30.0	(	6.0	2.5	B-2,Ⅳ,220	片脚部欠失
2	石鏃	サヌカイト	29.0	(	6.0	2.3	B-2,Ⅳ,208	先端部潰れ，片脚部欠失
3	石鏃	黒耀石	(28.0)	(15.0)	6.0	1.7	A-1,Ⅳ,273	片脚部及び両脚部欠失
4	石錐	サヌカイト	35.0	20.0	7	2.8	E-2,Ⅳ,253	
5	楔形石器	黒耀石	30.0	21.0	9.0	4.6	A-2,Ⅳ,155	
6	楔形石器	珪岩	25.0	26.0	7.0	7	B-2,Ⅱ,166	
7	楔形石器	安山岩	37	17.0	8.0	5.7	A-1,Ⅱ,271	
8	二次加工ある石器	安山岩	(26.0)	11.0	8.0	1.7	B-2,Ⅱ,182	
9	スクレイパー	安山岩	69.0	60.0	15.0	59.0	A-2,Ⅱ, 28	
10	使用痕ある剥片	安山岩	42.0	24	9.0	6.6	A-2,Ⅳ,154	
11	使用痕ある剥片	サヌカイト	32.0	25.0	4.0	3.5	E-2,Ⅳ,204	
12	剥片	黒耀石	32.0	17.0	15.0	5.6	E-2,Ⅳ,257	
13	石鏃	黒耀石	(21.0)	(	4.0	0.8	一括	
14	石鏃	珪岩	(28.0)	(14	4.0	0.8	一括	
15	三稜尖頭器	サヌカイト	53.0	18.0	11.0	10.2	E-2,Ⅳ,231	
16	台形様石器	サヌカイト	24.0	25.0	8.0	3.9	D-2,Ⅰ,一括	

第４節　まとめ

今回調査を行なった古池さん北遺跡は、現道西側の小平坦地に立地している。調査区は、この北西側縁辺部に位置している。

また、遺跡は湧水地（古池さん）から北に約 150 mの距離にあり、西側谷部には湧水地から流れだした谷川が存在する。

調査区内からは、縄文時代早期に属する集石遺構が２基、同後期の住居址が１基検出された。集石遺構は、南西部に集中して検出され１号集石遺構は、上部に拳大の礫、土坑底面近くに大型の扁平礫が認められた。構成礫は、大半が火を受けたと思われ赤化している。下部にみられる大型の扁平礫は、特に顕著で赤化しひび割れが認められる。

２号集石遺構や１号住居址遺構は、その大半が調査区外におよび全容がはっきりしない。

しかし、１号住居址遺構からは、４点の土器破片が出土した。そのうち第34図23,32は、磨消縄文系土器で、その文様の特徴から三万田式土器であると考えられる。このことから、この住居址の所属時期は、縄文時代後期三万田式土器の段階である可能性が高い。

出土した遺物では、第Ⅱ層から曽畑式土器、三万田式土器や土師器等が検出され、その分布は調査区南西部に２ケ所の集中部が認められる。しかし、第Ⅱ層の堆積がさほど厚くなく、同種の土器破片が表土層から検出される等同層の包含状態は良好とは言えない。

第Ⅳ層は、間層として第Ⅲ層を挟み上層との遺物の混在がみられず、遺物の包含状態は良好である。この層から出土した遺物では、押型文土器、中原西原式（円筒形条痕文）土器等がある。当該遺跡で、検出された押型文土器の様相は、近接する古池さん遺跡と異なり、口唇部が平坦に作り出され器壁も厚い。形態的特徴から中原西原式土器との親和性が認められる。文様別では楕円文が１点存在する外、すべて山形文である。山形文が施文された土器（第33図 1～11）は、同一の施文原体を押捺しており同一固体である可能性も指摘できる。

また、同層から出土した第39図15の資料は、その形態的特徴から三稜尖頭器であると考えられる。この他一括資料のなかに、台形様石器（第39図16）も存在しており、当該遺跡が先土器時代から利用されていたことを示している。

※参考文献

坂田義廣　1993『西原の文化財を語る』
緒方　勉　1992『瀬田裏遺跡調査報告』Ⅱ
大津町教育委員会瀬田裏遺跡調査団
1978『中後迫遺跡』 中後迫遺跡調査団
木﨑康弘　1995『無田原遺跡』 熊本県教育委員会
1996『蒲生上の原遺跡』
熊本県教育委員会

報告書抄録

書　　名	打砕遺跡・古池さん遺跡・古池さん北遺跡
副　書　名	主要地方道路熊本高森線改良工事に伴う埋蔵文化財調査
シリーズ名	熊本県文化財調査報告
シリーズ番号	第１６２集
編 著 者 名	村崎　孝宏
編 集 機 関	熊本県教育委員会
所　在　地	〒８６２　熊本市水前寺６丁目１８番１号
発行年月日	西暦１９９７年３月３１日

所収遺跡名	所　　在　　地	コード 市町村：遺跡番号	調査期間	調査面積	調査原因
打　砕　遺　跡	熊本県阿蘇郡西原村大字小森字土橋	:	19930727～ 19930924	約 315㎡	道路建設
古池さん遺跡	熊本県阿蘇郡西原村大字小森字桑鶴	:	19940718～ 19940916	約1000㎡	道路建設
古池さん北遺跡	熊本県阿蘇郡西原村大字小森字桑鶴	:	19940218～ 19940325	約 600㎡	道路建設

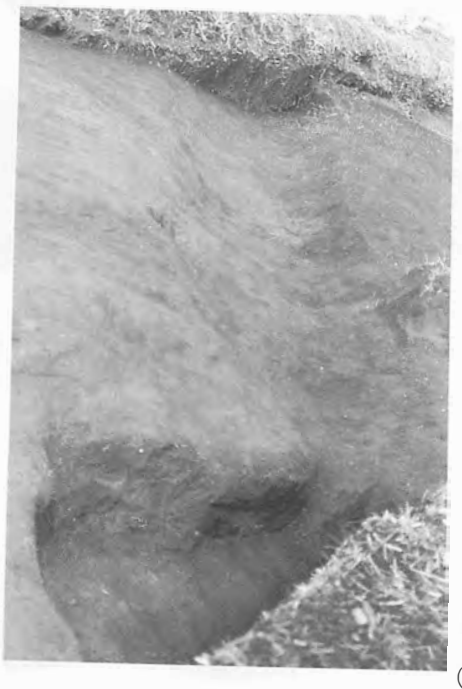
遺　跡　名	主な時代	主な遺構	主　な　遺　物	特　記　事　項
打　砕　遺　跡	縄文時代早期 縄文時代晩期～ 弥生時代前期 古墳時代	溝遺構	塞ノ神式系土器 凸帯文土器 土師器	
古池さん遺跡	先土器時代 縄文時代早期 縄文時代前～後期	集石遺構	ナイフ形石器、台形様石器、三稜尖頭器、細刃器 押型文土器、石器 曽畑式土器、石器等	押型文施文の注口土器破片（１点）
古池さん北遺跡	先土器時代 縄文時代早期 縄文時代後期	集石遺構２基 住居址１基	台形様石器、三稜尖頭器 押型文土器、中原西原式土器、石器 三万田式土器、石器	

図　　版

図版１　打砕遺跡

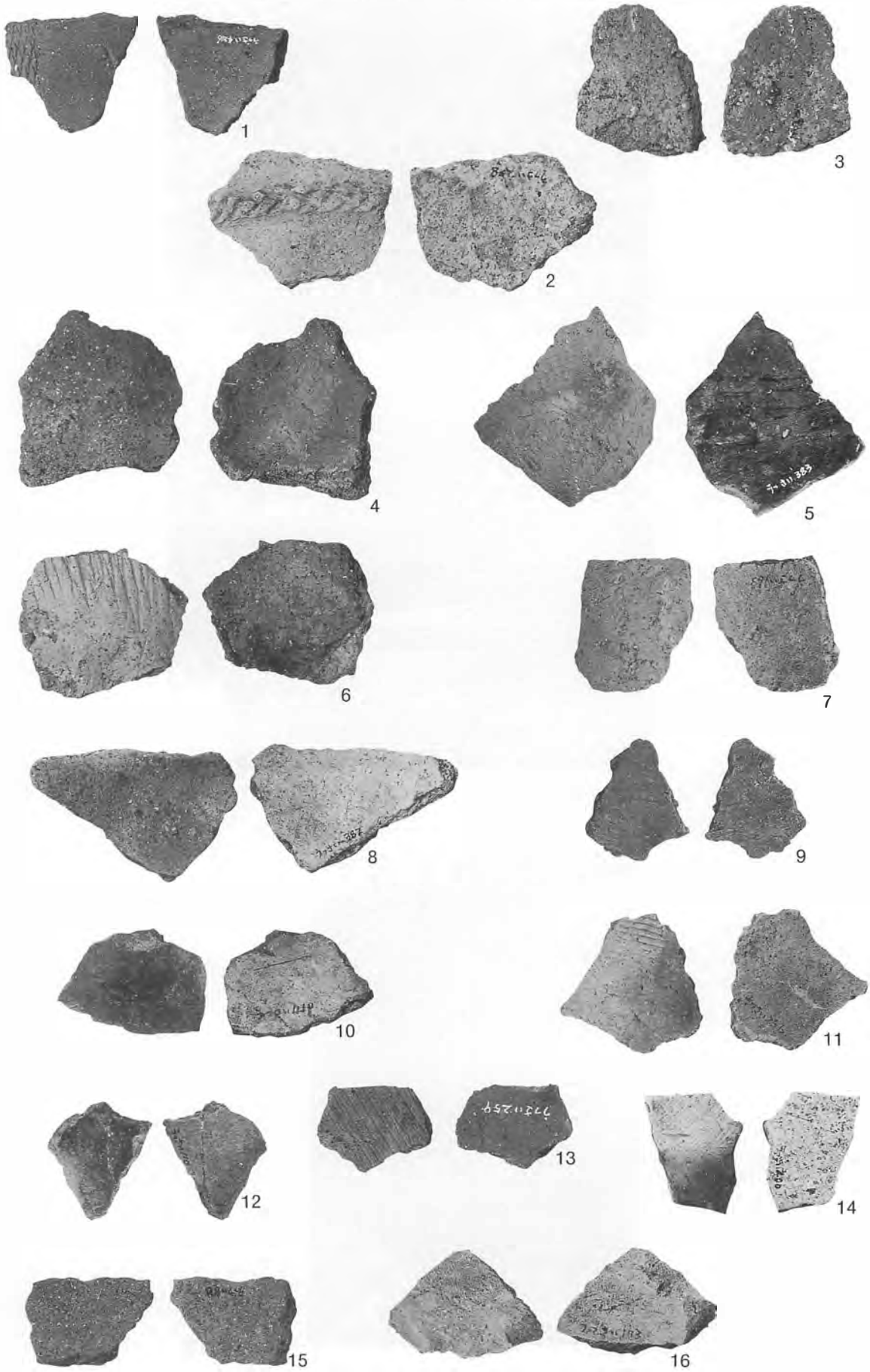
①　遠景

②　近景



③　溝遺構

図版２　打砕遺跡出土遺物



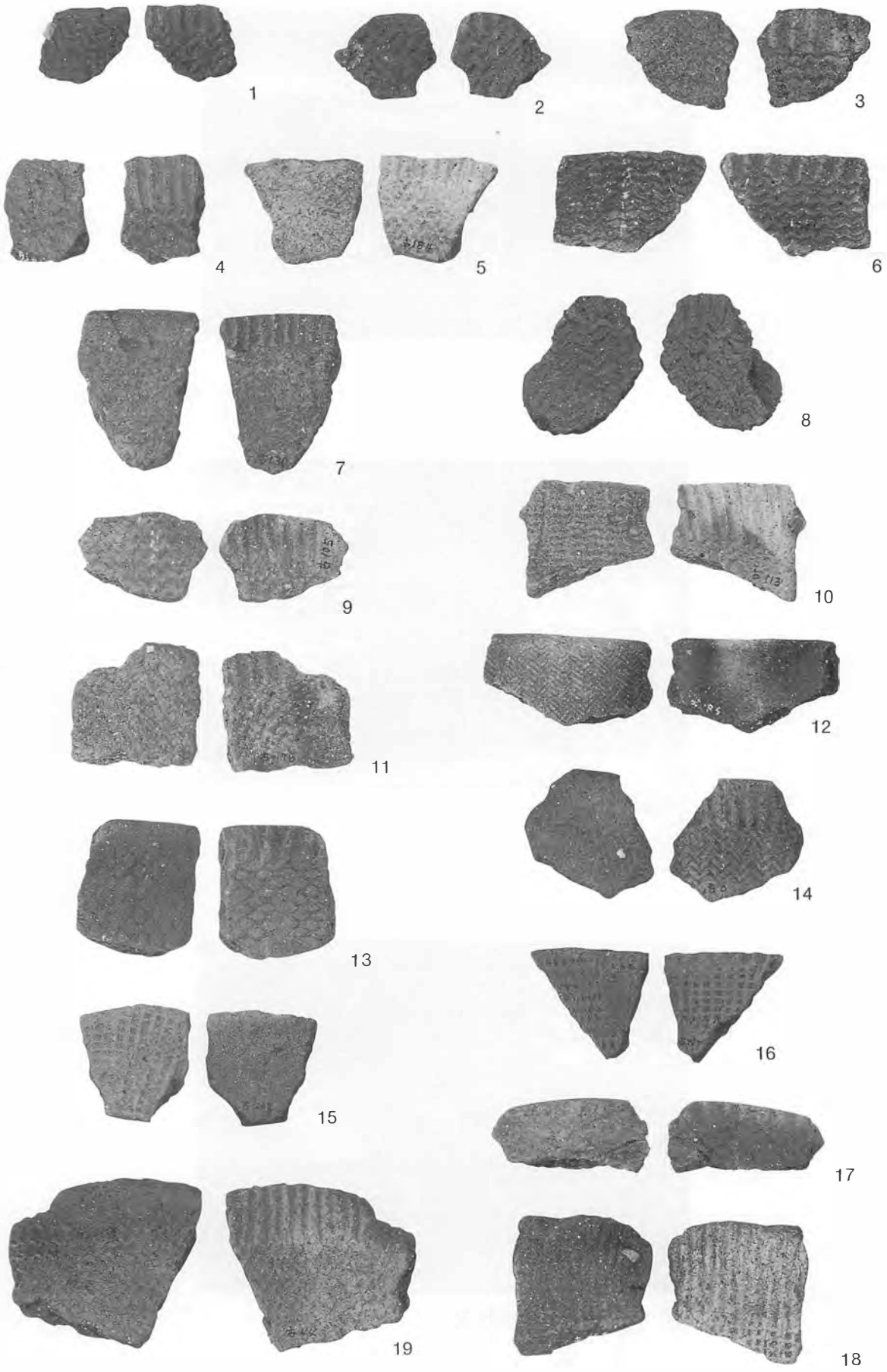
図版３　古池さん遺跡

①　遠景

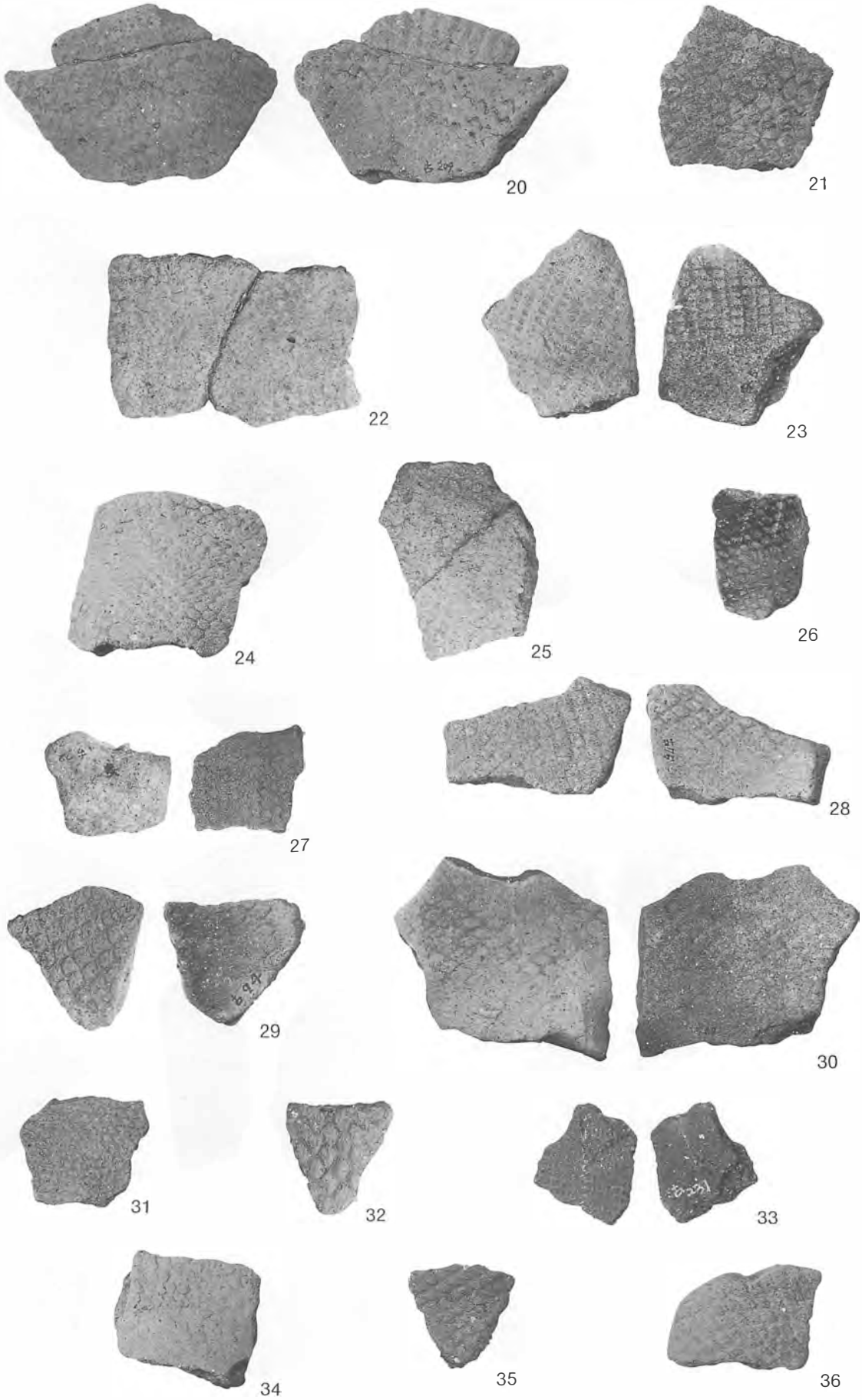
②　全景

③　集石遺構検出状況

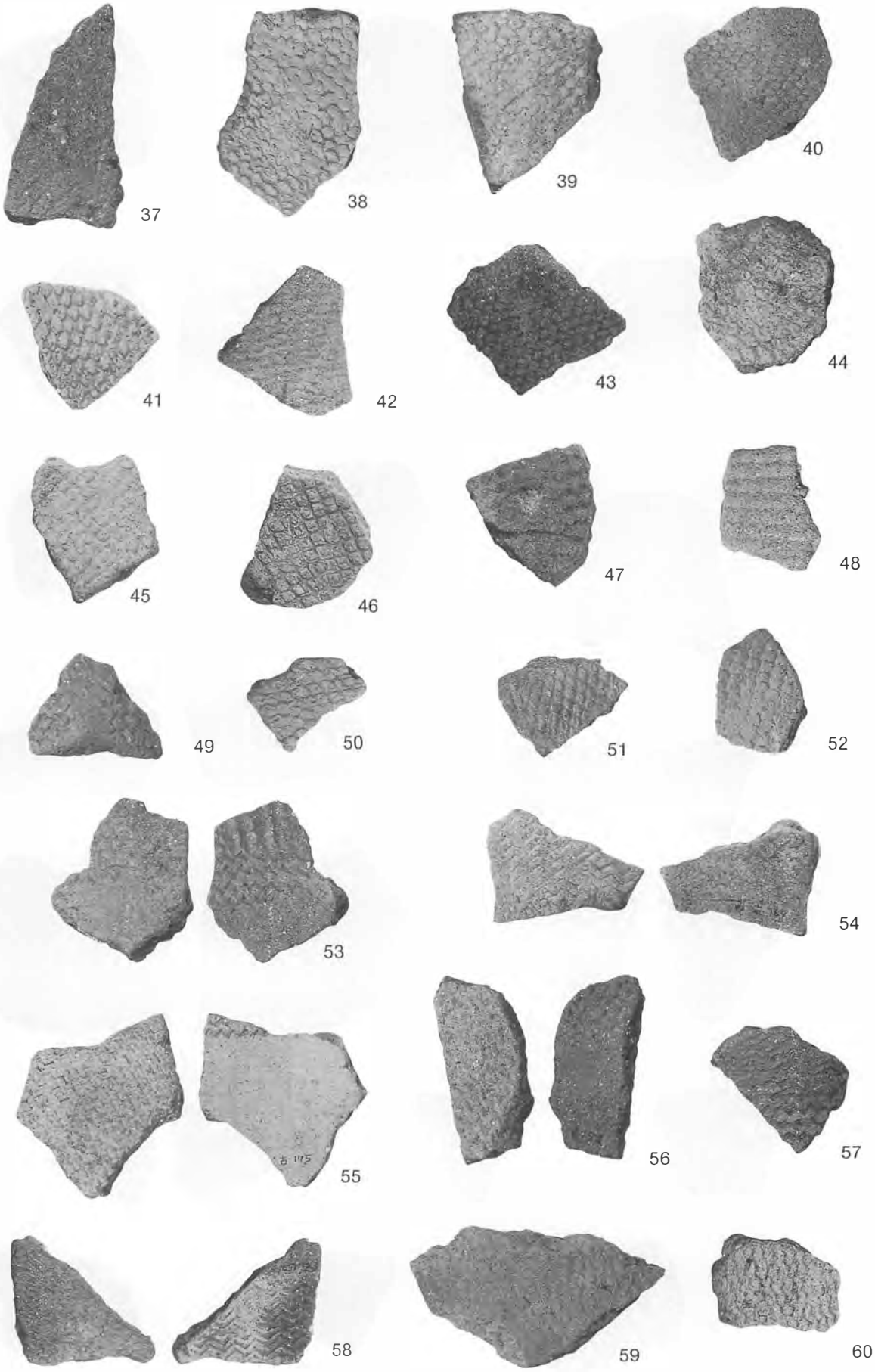
図版４　古池さん遺跡出土遺物①



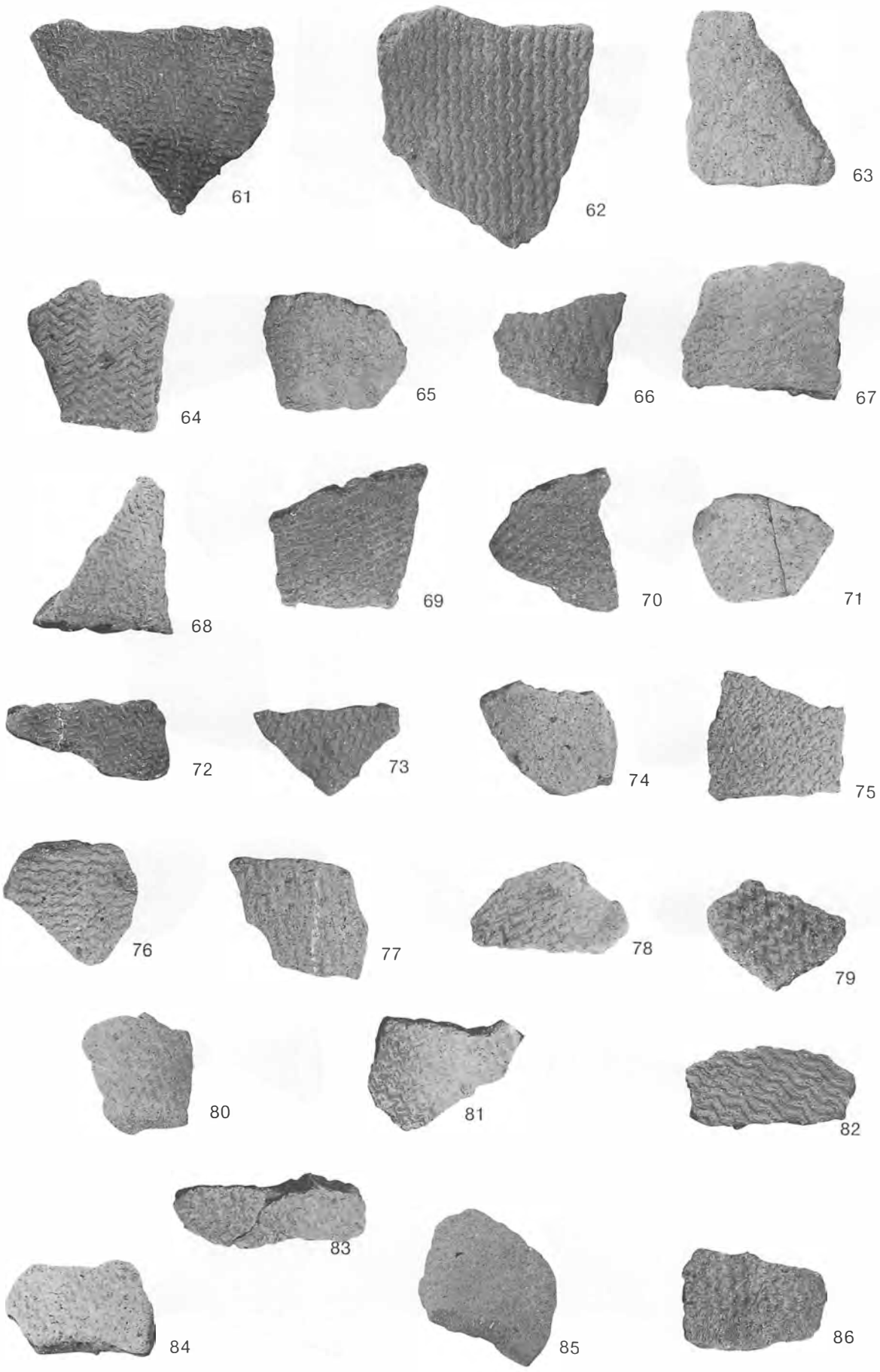
図版５　古池さん遺跡出土遺物②



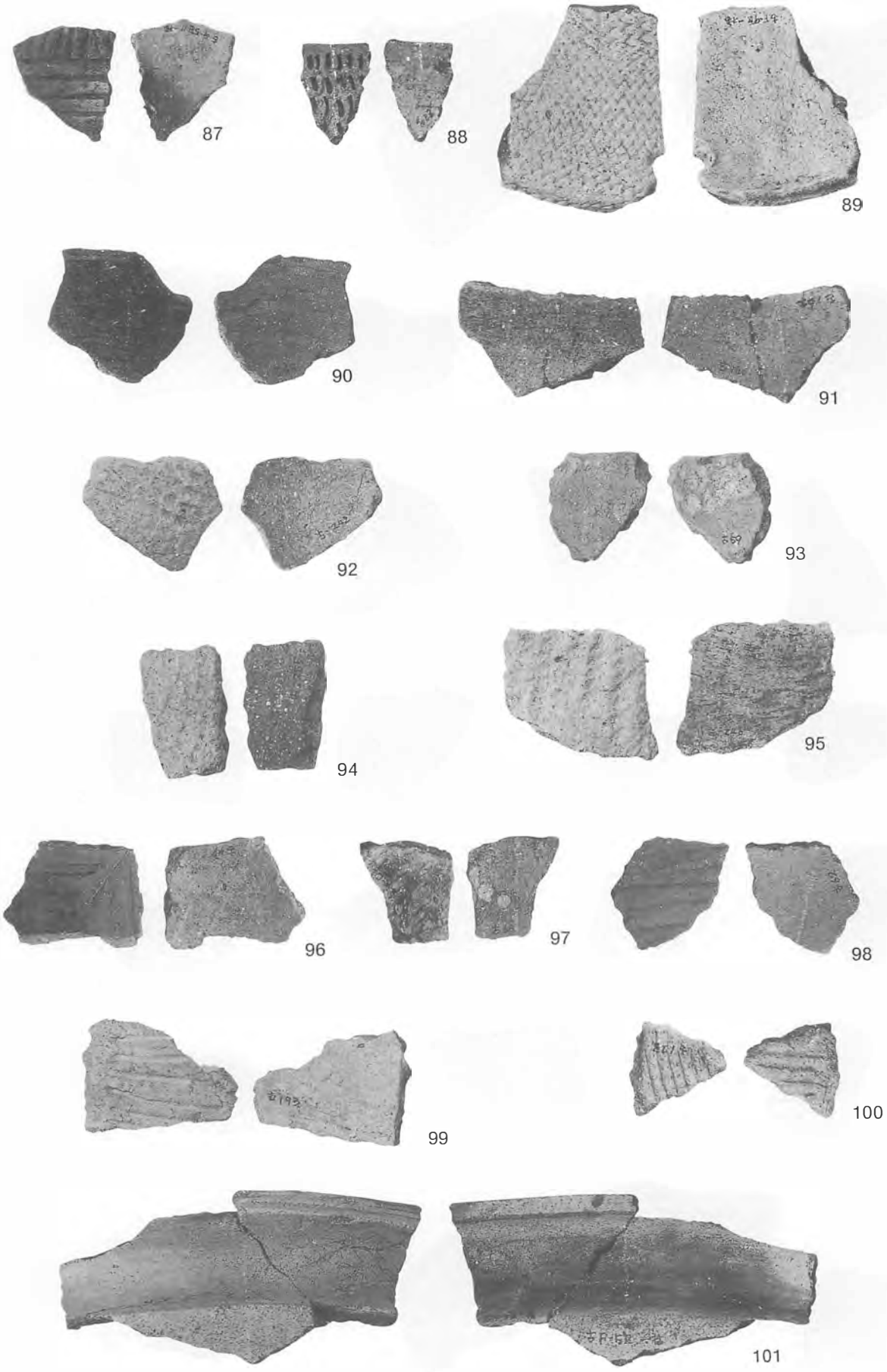
図版６　古池さん遺跡出土遺物③



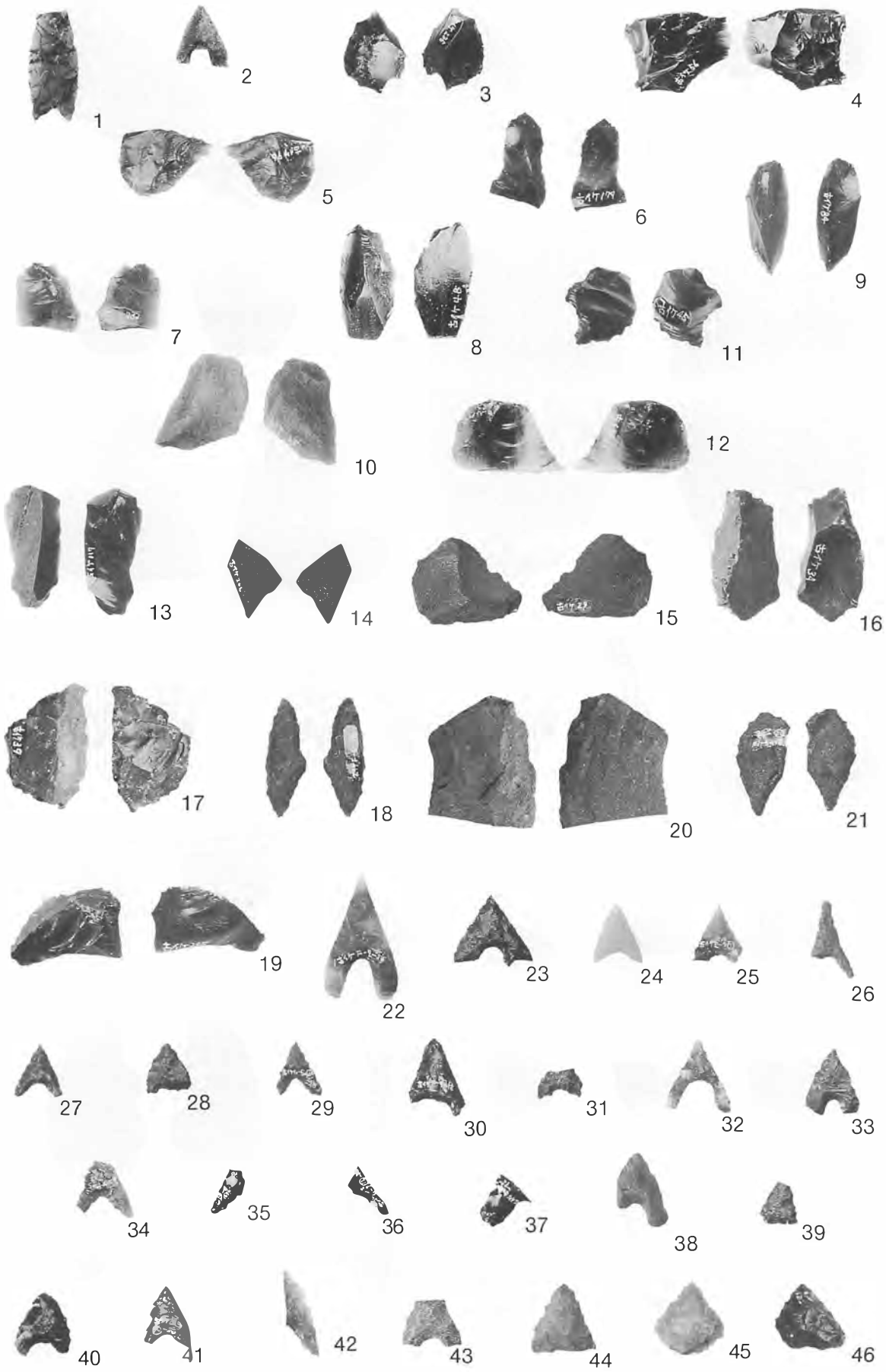
図版７　古池さん遺跡出土遺物④



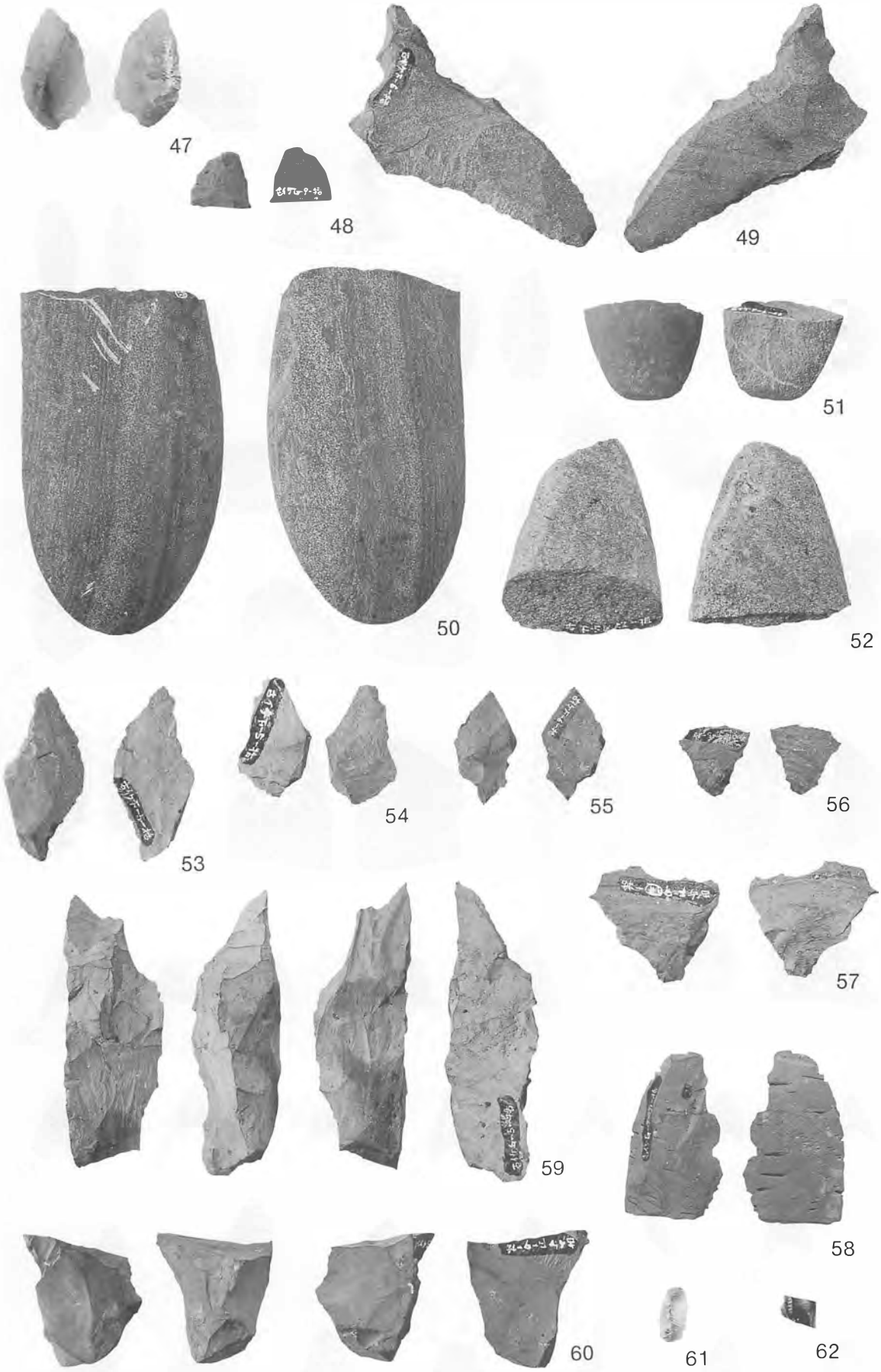
図版８　古池さん遺跡出土遺物⑤



図版９　古池さん遺跡出土遺物⑥



図版10　古池さん遺跡出土遺物⑦



図版11　古池さん北遺跡

①　遠景

②　全景

③　作業風景

図版12　古池さん北遺跡

①　1号集石遺構検出状況

②　1号集石遺構（下部）

③　1号集石遺構（完掘）

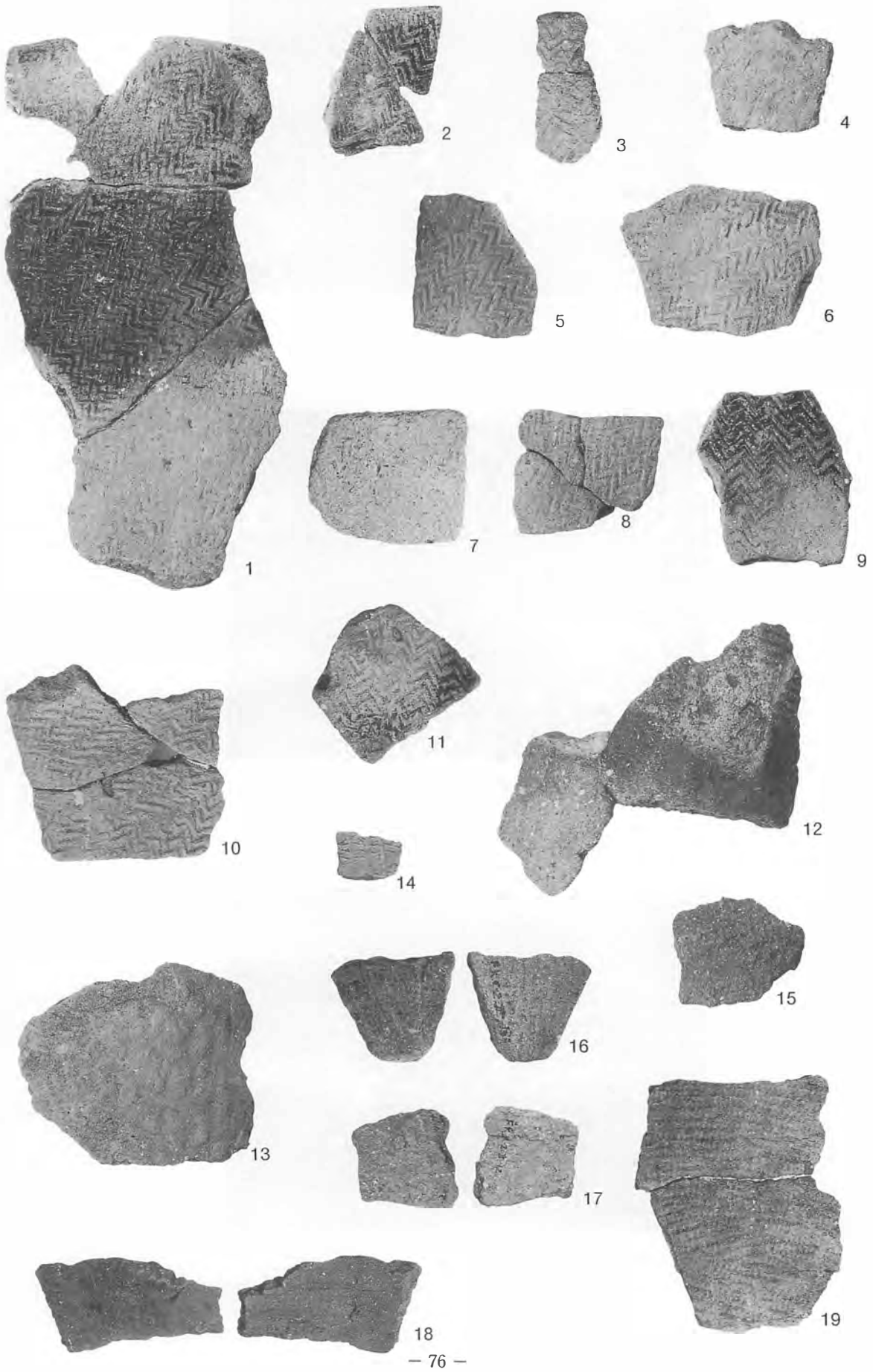
図版13　古池さん北遺跡

①　2号集石遺構

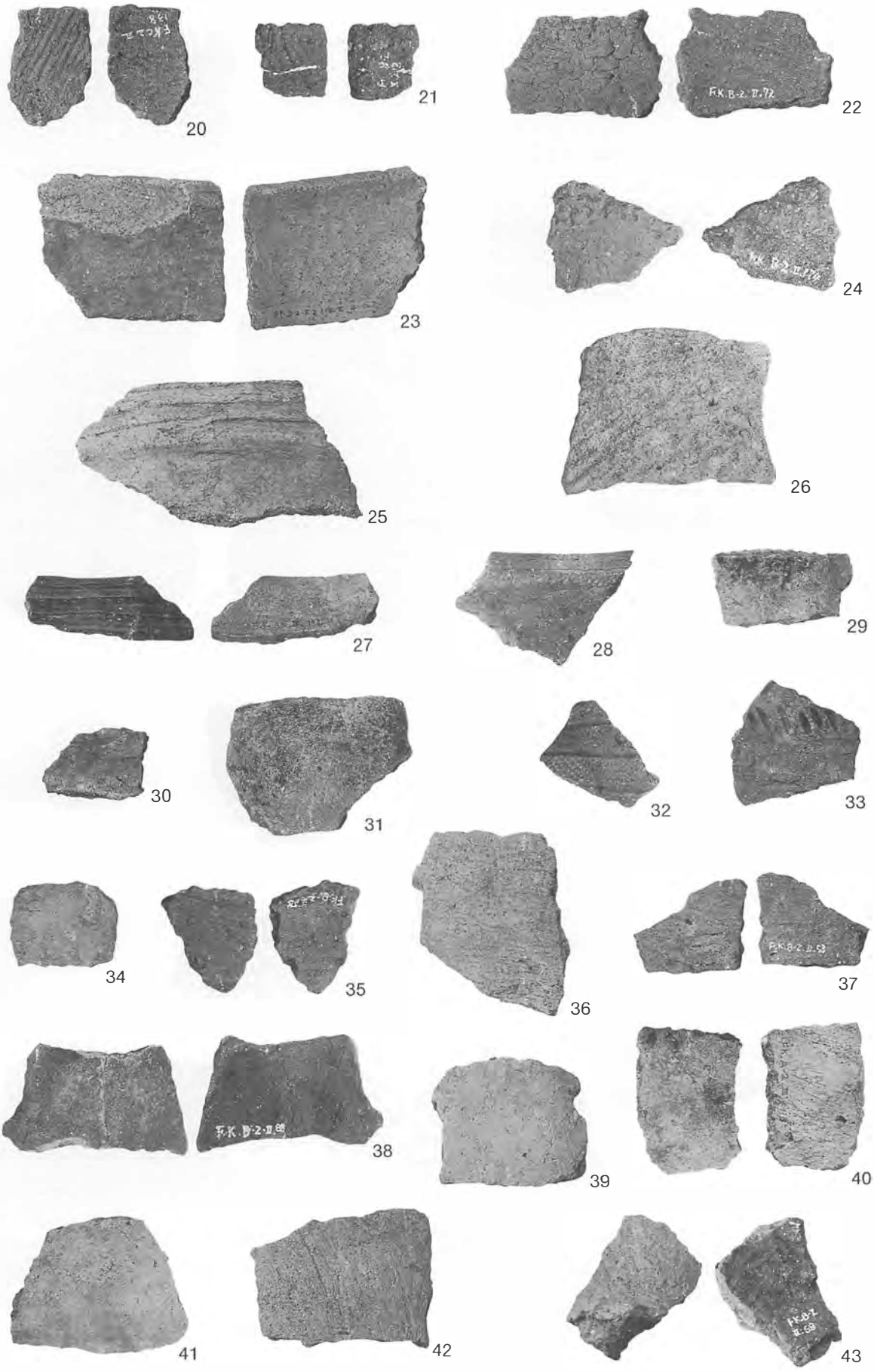
②　1号住居址遺構

③　遺物出土状況

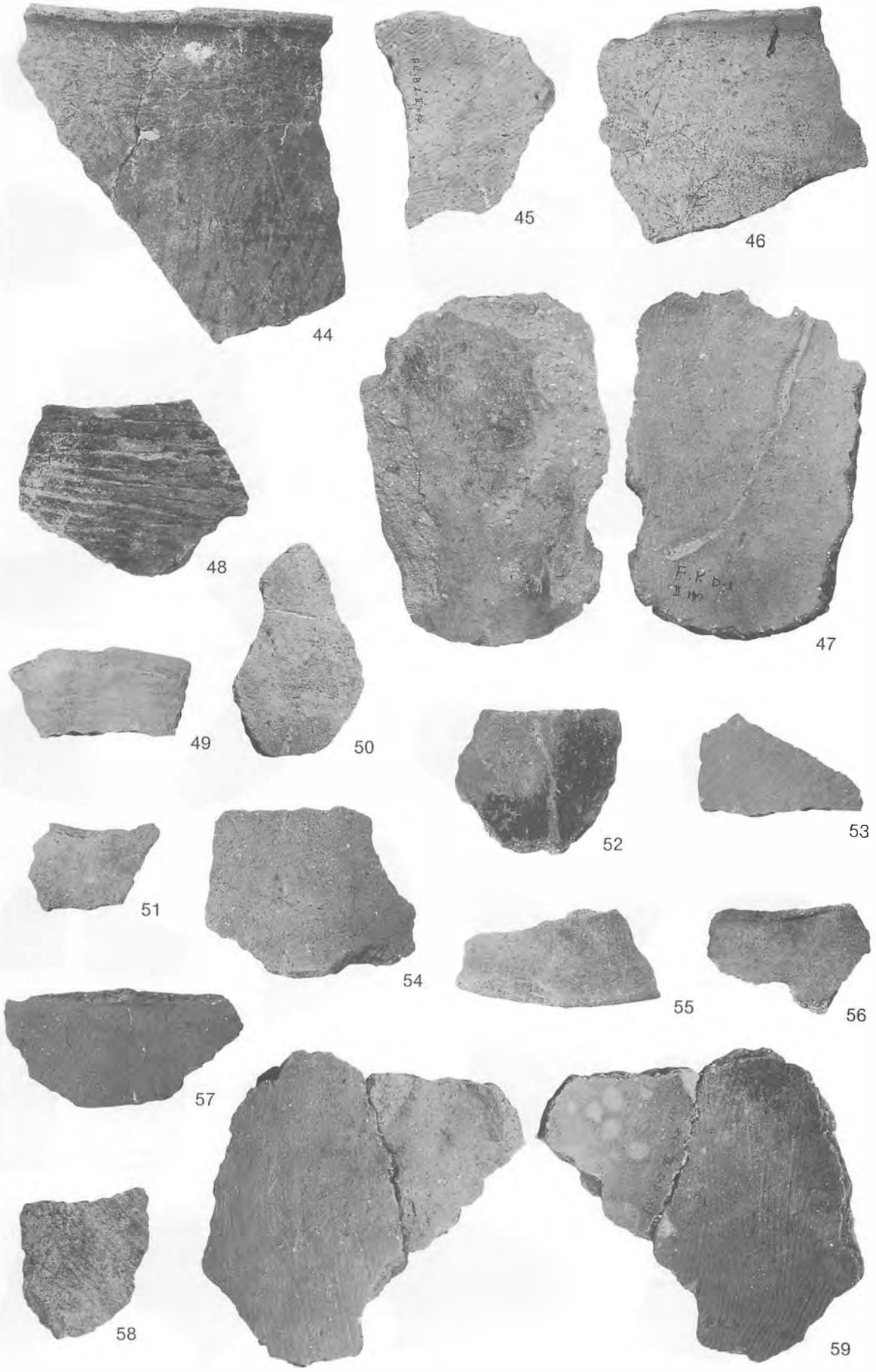
図版14　古池さん北遺跡出土遺物①



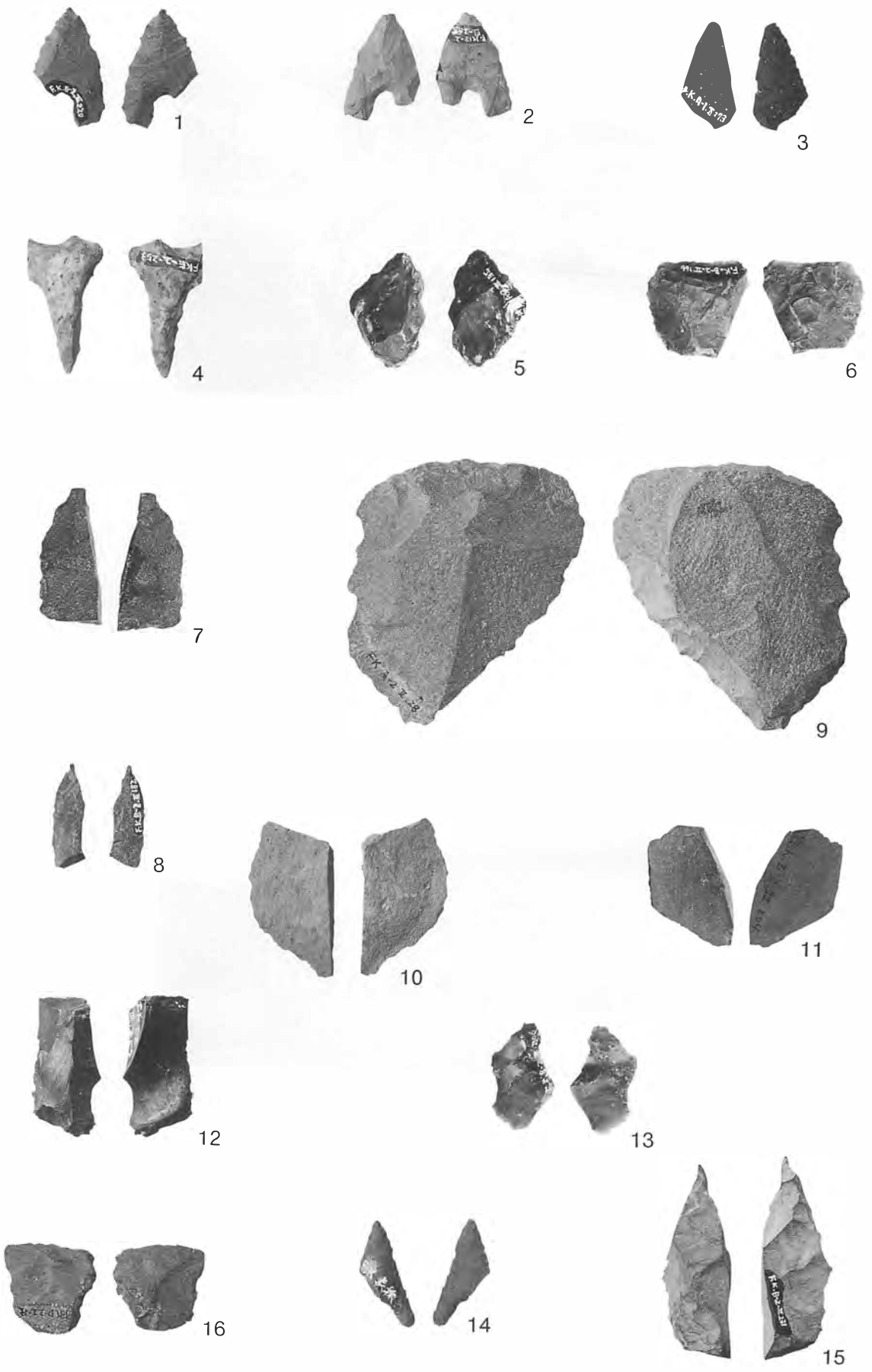
図版15　古池さん北遺跡出土遺物②



図版16　古池さん北遺跡出土遺物③



図版17　古池さん北遺跡出土遺物④



図版18

①打砕遺跡の発掘調査に参加された方々

②古池さん遺跡の発掘調査に参加された方々

熊本県文化財調査報告　第162集

打　砕　遺　跡
古池さん遺跡
古池さん北遺跡

平成９年３月31日

編集
発行　熊本県教育委員会
〒862　熊本市水前寺６丁目18番１号

印刷　敷島印刷株式会社
〒862　熊本市近見町15－１
TEL　096－326－1571

08 教委 教文
② 005

この電子書籍は、熊本県文化財調査報告第 162 集を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名：打砕遺跡 古池さん遺跡 古池さん北遺跡
発行：熊本県教育委員会
〒862-8609　熊本市中央区水前寺 6 丁目 18 番 1 号
電話： 096-383-1111
URL：http://www.pref.kumamoto.jp/
電子書籍制作日：2015 年 12 月 24 日